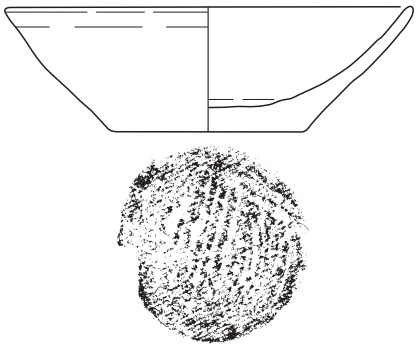
水戸市埋蔵文化財調査報告第 127 集

水戸城跡

（第 112 次）

―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―



２ ０ ２ ２

水 戸 市 教 育 委 員 会

水戸市埋蔵文化財調査報告第 127 集

水戸城跡

（第 112 次）

―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

２ ０ ２ ２

水 戸 市 教 育 委 員 会

ごあいさつ

水戸城跡は日本100名城のひとつにも数えられ，その起源は鎌倉時代の初め，常陸平氏の流れを汲む馬場資幹が，那珂川と千波湖に挟まれた台地の東端に居館を構えたことに遡ります。

その後，江戸氏，佐竹氏が水戸城を本拠地として城域を拡大し，江戸時代に水戸徳川家が城を整備して以降，周囲の城下町とともに，地域社会の政治・経済の中心地として発展してまいりました。

水戸城跡におきましては，これまでかつての水戸城二の丸内に位置する市立第二中学校の校舎改築工事や，北三の丸内の中山備前守屋敷跡地に位置する法務局改築工事等に際して多くの発掘調査が行われてきております。

近年，水戸駅周辺では，更なる市街地化が増す一方で，都市化と文化財保護との両立が行政としても大きな課題として懸念されるところでありますが，本市においてもその意義や重要性を踏まえ，歴史的風致維持向上計画に基づく重点区域の設定や文化財保護法並びに関係法令に基づき近世水戸城の景観保全や埋蔵文化財の保護・保存に努めているところです。

本書は，水戸藩家臣の伊藤玄蕃の武家屋敷に推定されている場所において，共同住宅建設が計画され，記録保存を目的として実施した発掘調査の報告書です。今回の調査は，水戸市内の低地部に立地する武家屋敷の調査では市内でも希少な調査事例となります。

発掘調査では，近世の武家屋敷の築造にかかわる多くの整地層や礎石等が確認されるとともに，近代の廃棄土坑や井戸跡が出土しました。

こうした調査結果は，まさしく江戸時代から幕末，近代へと水戸が目まぐるしく変遷していく過程を今に伝える大変貴重な成果と言うことができます。

最後になりましたが，発掘調査の実施に当たり，多大な御理解と御協力をいただきました事業主様や地域住民の皆様をはじめ，関係各位に心から感謝の意を表します。同時に本書が学術研究はもとより，市民の皆様の郷土愛を醸成し，水戸ならではの歴史を発信するための礎となれば幸いです。

令和４年８月

水戸市教育委員会
教育長　志田　晴美

例　　言

1　本書は，髙橋　勲氏による共同住宅建設工事に伴う水戸城跡（第112次）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　発掘調査は，水戸市教育委員会の指導のもと，事業主より委託を受けた株式会社日本窯業史研究所が行った。

3　調査の概要は下記の通りである。

所　在　地　茨城県水戸市三の丸２丁目21－48・49・50

調 査 面 積　194㎡

調 査 期 間　令和３年12月２日　から　令和４年２月２日　まで

調 査 指 導　新垣清貴（水戸市教育委員会事務局教育部歴史文化財課埋蔵文化財センター主幹）

調査主体者　株式会社日本窯業史研究所（代表取締役　菅間裕二）

調査担当者　水野順敏（株式会社日本窯業史研究所　日本考古学協会々員）

調査・整理作業参加者

阿部武夫　新井　潔　石崎靖也　宇留野広大　宇留野初男　菅間智子　寺門信幸　三輪孝幸

4　本書は，水野，新垣が分担して執筆し，新垣の指導のもと水野が編集した。編集にあたっては菅間智子の協力を得た。

5　出土遺物については，関口慶久，比毛君男，山下守昭の３氏にご教示を得た。理解不足や表現の誤りがあればすべて水野の責に帰す。

6　出土遺物及び図面・写真等の記録類は，一括して水戸市埋蔵文化財センターにて保管している。

7　発掘調査から本書の刊行に至るまで，下記の諸機関・各位より御指導と御助力を賜った。御芳名を記して深く謝意を表する（敬称略・順不同）。

髙橋　勲　河野一也　郡司泰明　関口慶久　比毛君男　藤井達也　山下守昭

茨城県教育庁総務企画部文化課　積水ハウス㈱　東新建設㈱

凡　　例

1　本書に記している座標値は，世界測地系によるものである。平面図の方位記号は座標北を，土層断面図等の水準線高の数値は，海抜標高を示す（単位：m）。

2　土層及び遺物の色調は『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄　編・著　農林水産省農林水産技術会議事務局　監修　㈶日本色彩研究所　色票監修　2008年度版）に準拠する。

3　遺構平面・土層断面図は縮尺１／60，１／80を基本とし，遺構配置図は縮尺１／160で掲載し，各図にスケールを明示した。

4　遺構図及び基本土層以外の土層説明における略号・記号は以下の通りである。

SE：井戸跡　SK：土坑　SD：溝状遺構　SX：性格不明遺構　SS：配石遺構、礎石及び礎石跡　P：ピット　Gr：グリッド　Tr：トレンチ　K：攪乱　L：ローム

S：焼土　C：炭化物　R：粒　B：塊　SP：セクションポイント

●：瓦　○：土器類　■：陶磁器　★：鉄製品　▲：ガラス　の出土位置を示す

第４・18図の▭は硬化面の重複が顕著な範囲を示す。

各土層図の▭は自然堆積層「０層」を示す。土層図の分層線で太い線は硬化面を示す。

5　遺物実測図の縮尺は，１／３を基本とし，２／３，１／５，１／６を使用し，それぞれにスケールを明示した。土器断面の墨ベタは須恵器を示す。 陶磁器断面の▼は施釉範囲を示す。

6　遺物の番号は，遺構図内と遺物挿図，観察表とも合致する。

7　第31図は『水戸城跡（第88次）』（河野・新垣　2021）の第148図を複製し加筆したものである。

目　　次

ごあいさつ
例言　凡例　目次　引用・参考文献
第１章　調査に至る経緯と調査の経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の経過と調査の方法‥2
　　１．調査の経過……2
　　２．調査の方法……2
第２章　遺跡の位置と環境……3
　第１節　水戸城跡の地理的環境‥‥3
　第２節　水戸城跡周辺遺跡における歴史的環境……3
　第３節　水戸城跡における既往の調査……6
第３章　調査の成果……13
　第１節　基本土層……13
　第２節　近代の遺構と遺物……15
　　１．概要……15
　　２．井戸跡……15
　　３．性格不明遺構……15
　　４．ピット類……17
　第３節　近世上層の遺構と遺物‥‥23
　　１．概要……23
　　２．土坑……23
　　３．溝状遺構……23
　　４．性格不明遺構……25
　　５．配石遺構及び礎石跡……25
　　６．ピット類……25
　第４節　近世下層の遺構と遺物‥‥26
　　１．概要……26
　　２．溝状遺構……26
　　３．性格不明遺構……30
　　４．礎石及び礎石跡……31
　　５．ピット類……32
　第５節　出土遺物……32
　　１．概要……32
　　２．近世以降……32
　　３．近世……33
　　４．近世以前……33
第４章　総括……42
　第１節　土地利用の変遷の概略‥‥42
　　１．概要……42
　　２．近世以降……42
　　３．近世……42
　　４．近世以前……43
　第２節　伊藤玄蕃邸北端部の調査……44
　　１．概要……44
　　２．水戸藩士伊藤玄蕃家……44
　　３．調査結果と文書史料に見る屋敷地……45
写真図版
報告書抄録・奥付

表　目　次

第１表　水戸城跡周辺の遺跡一覧
第２表　水戸城跡における既往の調査一覧
第３表　出土遺物観察表
第４表　井戸跡，土坑，性格不明遺構，その他の遺構一覧表
第５表　溝状遺構一覧表
第６表　ピット計測表
第７表　出土遺物一覧表

挿 図 目 次

第１図　水戸城跡周辺の遺跡分布図
第２図　水戸城の範囲と調査地点の位置
第３図　基本土層図
第４図　調査区全体図
第５図　近代遺構配置図
第６図　第１号井戸跡
第７図　第５号性格不明遺構
第８図　調査区外周壁土層図（１）
第９図　調査区外周壁・中央土層図（２）
第10図　近世上層遺構配置図
第11図　第３号土坑
第12図　第１号溝状遺構，第4a・4b 号性格不明遺構
第13図　第３号溝状遺構
第14図　第４号溝状遺構
第15図　第５号溝状遺構
第16図　第１号配石遺構
第17図　第５号礎石跡，ピット土層図
第18図　近世下層遺構配置図
第19図　第６号溝状遺構
第20図　第６号性格不明遺構
第21図　第１号礎石
第22図　第２号礎石跡
第23図　第３号礎石跡
第24図　第４号礎石跡
第25図　１・２・４・６トレンチ土層図
第26図　７トレンチ土層図
第27図　８・９トレンチ土層図
第28図　出土遺物（１）近世以降
第29図　出土遺物（２）近世
第30図　出土遺物（３）近世以前
第31図　水戸城内における調査位置模式図

写真図版目次

写真図版１　Ａ．調査区全景（垂直）　Ｂ．調査区東半部完掘全景（垂直）　Ｃ．調査区東半部完掘全景（西から）　Ｄ．調査区西半部完掘全景（垂直）　Ｅ．調査区西半部下層調査状況全景（垂直）

写真図版２　Ａ．調査区外周壁東面北半土層（西から）　Ｂ．調査区外周壁東面南半土層（西から）　Ｃ．調査区外周壁東面南端土層（北西から）　Ｄ．調査区外周壁北面西半東寄り土層（南から）　Ｅ．調査区外周壁北面西半土層（南から）　Ｆ．調査区外周壁北面東端土層（南から）　Ｇ．調査区外周壁北面西端土層（南から）　Ｈ．調査区中央南北土層（東から）　Ｉ．調査区外周壁西面土層（東から）　Ｊ．調査区外周壁南面東半土層（北から）　Ｋ．調査区外周壁南面東半中央土層（北から）　Ｌ．調査区外周壁南面西半土層（北から）　Ｍ．第１号井戸跡完掘（東から）　Ｎ．第１号井戸跡土層（東から）　Ｏ．第１号井戸跡近景（南東から）　Ｐ．第１号井戸跡石材加工痕（南東から）　Ｑ．第５号性格不明遺構完掘（南から）　Ｒ．第５号性格不明遺構東西土層（南から）

写真図版３　Ａ．第５号性格不明遺構南北土層（西から）　Ｂ．第５号性格不明遺構遺物出土状況（南西から）　Ｃ．第５号性格不明遺構遺物（１）（南から）　Ｄ．第27・28号ピット土層（北から）　Ｅ．第29・30号ピット土層（北から）　Ｆ．第31・32号ピット土層（北から）　Ｇ．第33・34号ピット土層（北から）　Ｈ．第36号ピット土層（東から）　Ｉ．第３号土坑完掘（南東から）　Ｊ．第３号土坑土層（東から）　Ｋ．第１号溝状遺構・第4a 号性格不明遺構完掘（西から）
Ｌ．第１号溝状遺構・第4a 号性格不明遺構土層（西から）　Ｍ．第３号溝状遺構完掘（南から）　Ｎ．第３号溝状遺構土層（南から）　Ｏ．第４号溝状遺構完掘（北から）　Ｐ．第５号溝状遺構完掘（東から）　Ｑ．第１号配石遺構完掘（東から）　Ｒ．第１号配石遺構完掘・５Tr 深掘り状況（南から）

写真図版４　Ａ．第５号礎石跡（第８号ピット）完掘状況（北から）　Ｂ．第５号礎石跡（第８号ピット）半截状況（東から）　Ｃ．第１号ピット土層（南から）　Ｄ．第２号ピット土層（南から）　Ｅ．第９・10号ピット完掘（東から）　Ｆ．第９・10号ピット土層（東から）　Ｇ．第11号ピット完掘（南西から）　Ｈ．第20号ピット完掘（南から）　Ｉ．第21号ピット完掘（南から）　Ｊ．第22号ピット完掘（西から）　Ｋ．第23号ピット完掘（南から）　Ｌ．第24号ピット完掘（西から）
Ｍ．１Tr 東面北半土層（西から）　Ｎ．４Tr 北東面土層（南西から）　Ｏ．７Tr 東面土層（北西から）　Ｐ．８Tr 西面土層（北東から）　Ｑ．８Tr 東面土層（北西から）　Ｒ．９Tr 西面土層（北東から）

写真図版５　Ａ．第６号溝状遺構土層（西から）　Ｂ．第６号性格不明遺構完掘・土層（南東から）　Ｃ．第６号性格不明遺構遺物（36）（東から）　Ｄ．1B －３Gr 遺物出土状況（33・34）（東から）　Ｅ．第１号礎石（第３号ピット）完掘（東から）
Ｆ．２Tr・第１号礎石（第３号ピット）土層（東から）　Ｇ．第２号礎石跡検出状況（西から）　Ｈ．第２号礎石跡土層（西から）　Ｉ．第３号礎石跡完掘（西から）　Ｊ．第３号礎石跡土層（西から）　Ｋ．第４号礎石跡完掘（西から）
Ｌ．第25号ピット完掘（東から）　Ｍ．第25号ピット土層（東から）　Ｎ．第26号ピット完掘（東から）　Ｏ．第26号ピット土層（東から）　Ｐ．第35号ピット土層（南から）　Ｑ．８Tr 遺物出土状況（32）（西から）　Ｒ．基本土層３（北から）

【引用・参考文献】

渥美賢吾・河野一也・美濃部達也　2014　『水戸城跡発掘調査報告Ⅰ　二の丸曲輪彰考館の調査（１）』水戸市教育委員会

井上義安　1990　『薬王院東遺跡　千波中学校建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』水戸市薬王院東遺跡発掘調査会

川口武彦・色川順子編　2009　『平成18年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会

2010　『平成19年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会

川口武彦・色川順子・田中恭子・三浦健太編　2011　『平成20年度水戸市内遺跡発掘調査報告書』水戸市教育委員会

河野一也・新垣清貴　2021　『水戸城跡（第88次）―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書―』水戸市教育委員会

建築文化振興研究所編　1993　『水戸城大手門跡発掘調査報告書』水戸市

齋藤　洋・新垣清貴　2005　『大鋸町遺跡　グランディヒルズ元吉田造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査告報書』水戸市教育委員会・グランディハウス株式会社・株式会社地域文化財コンサルタント

佐々木藤雄・大橋　生編　2006　『大鋸町遺跡（第３地点）―市道浜田207号線側溝新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

笹目礼子　2009　「史料紹介　伊藤友勝家所蔵「天和三年　当屋敷請取帳　附元禄七年添地帳共」にみる水戸藩前期の武家屋敷」『茨城県立歴史館報』第三六号　茨城県立歴史館

清水　哲　2010　『水戸城跡　一般県道市毛水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県水戸土木事務所・財団法人茨城県教育財団

関口慶久　2007　「水戸城の調査の歩みと課題」『江戸遺跡研究会会報』No.110　江戸遺跡研究会

2016　「水戸城における堀の展開～障子堀の理解に寄せて～」『中世城郭研究』第30号　中世城郭研究会

関口慶久・渥美賢吾・川口武彦・米川暢敬　2017　『七面製陶所跡　遺構・遺物編　第１～３次発掘調査報告書』水戸市教育委員会

関口慶久・川口武彦　2007　『吉田古墳Ⅱ　史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第３次発掘調査報告書』水戸市教育委員会

関口慶久・川口武彦編　2010　『笠原水道　第６次・10次・11次発掘調査報告書』水戸市教育委員会

関口慶久・川口武彦・渥美賢吾　2009　『吉田古墳Ⅲ　史跡整備計画に伴う吉田古墳群第１号墳の第４・５次発掘調査報告書』水戸市教育委員会

関口慶久・川口武彦・三井　猛・木本挙周編　2006　『水戸城跡　三の丸土塁および堀の復旧に伴う工事・調査報告書』茨城県・水戸市教育委員会

堀口友一・伊東多三郎　1968　「城郭の拡張と城中制度」『水戸市史　中巻（１）』水戸市役所

前田卓宏・伊藤千洋編　2013　『吉田神社遺跡（第１地点）―大型物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

松平俊雄　1885　『常磐公園攬勝図志』　水戸市役所蔵版

松林秀和　2012　『水戸城跡　茨城県立水戸第三高等学校図書館改築工事地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育委員会・財団法人茨城県教育財団

水戸市教育委員会　2008　『水戸城跡（第５地点・第６地点）現地説明会資料』

水野順敏・新垣清貴・関口慶久　2018　『釜神町遺跡（第16地点）―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書―』水戸市教育委員会

南田法正編　2009　『東組遺跡（第１地点）　物販店舗建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』水戸市教育委員会

宮田和男・関口慶久　2017　「水戸城跡大手門・大手道の調査」『第39回　茨城県考古学協会研究発表会資料』茨城県考古学協会

宮田和男・萩原宏季・関口慶久・米川暢敬　2015　『茨城県水戸市　水戸城跡（第14地点・第39次）―市道上市205号線道路改良・電線共同溝工事（４工区）に伴う発掘調査報告書―』水戸市教育委員会

盛野浩一　2015　『水戸城跡　水戸地方検察庁仮庁舎建設事業地内埋蔵文化財調査報告書』国土交通省関東地方整備局営繕部・公益財団法人茨城県教育財団

第１章　調査に至る経緯と調査の経過

第１節　調査に至る経緯

令和３年６月21日付けで，共同住宅建設に伴い，積水ハウス株式会社　常陽シャーメゾン支店水野雄介から水戸市教育委員会（以下「市教委」という。）あて，「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて」の照会があった。

照会地である水戸市三の丸２丁目21番48 ～ 50地内は，周知の埋蔵文化財包蔵地「水戸城跡」の範囲内に該当しており，近世の水戸城周辺の古地図から水戸藩大老の伊藤玄蕃の屋敷地に比定される位置であった。令和３年６月24日付けで市教委は事業者あて，周知の埋蔵文化財包蔵地に該当しており，文化財保護法（以下「法」という。）第93条第１項の規定により茨城県教育委員会（以下「県教委」という。）あて届出を提出する必要があること，遺跡の発掘調査を必要とする場合には原因者の協力をお願いとする旨回答した（教埋第264号）。

同時に市教委は事業者に地下に近世の武家屋敷遺構が存在する可能性が想定される事から，試掘調査の実施について協議を行い，令和３年７月27日付けにて「開発に係る試掘調査の実施（依頼）」及び「埋蔵文化財発掘の届出」が提出されたことから，令和３年９月１日から令和３年９月８日にかけて断続的に試掘調査を実施した。調査の結果，近世の整地層のほか，硬化面が確認された。

市教委は，令和３年９月10日付け（教埋第385号）により，髙橋　勲（以下「事業者」という。）あて試掘調査結果の回答を提出した。

市教委は事業者と確認された埋蔵文化財の保護措置について協議を数回に渡って行ったが，事業内容が構造上，改良工事が地中深くまで及ぶため，設計変更は困難であるとの結論に達し，原因者の費用負担による記録保存を目的とした本発掘調査を行う方向で合意が図られた。

市教委は届出に意見書を付して令和３年10月12日付けで県教委あて進達した（教埋第386号）。これを受けて，県教委から令和３年10月19日付け文第2286号「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）」にて工事着手前に発掘調査を実施すること，調査の結果，重要な遺構等が確認された場合にはその保存等について別途協議をする旨，勧告があった。

これを受けて事業者は，令和３年10月29日に株式会社日本窯業史研究所（以下「調査機関」という。）と発掘調査業務委託契約を締結するとともに，調査機関及び市教委と発掘調査実施に係る三者協定を締結した。調査機関は法92条第１項の規定により，令和３年11月９日付け「埋蔵文化財発掘調査の届出について」（教埋第712号）を県教委あて提出し，その後県教委から調査機関へ令和３年11月15日付け文第2578号「埋蔵文化財の発掘調査について（通知）」にて，適切に発掘調査を実施するよう指示があった。

以上のような経過のもと，当該調査を水戸城跡第112次調査として，令和３年12月２日から令和４年２月２日の期間に発掘調査を実施することとなった。　（新垣）

第２節　調査の経過と調査の方法

１．調査の経過

今次調査は，調査対象面積の関係から調査区を２分割して，切り返しで行うこととなった。また，場内における残土処理に際して安全性を確保する観点から残土の一部を場外搬出する必要が生じた。この為，令和３年11月20日より同月24日にかけて搬出作業が行われた。同月27日，測量基準点の移動，調査器材の搬入，近隣挨拶等を行う。翌12月２日より東半部の調査に着手する。重機と人力を併用し，遺物の出土に注意しながら遺構確認面となる第Ⅳ層上面に向かって作業を進めた。土坑，溝状遺構，性格不明遺構，ピット等が確認されたが，北東部では硬化面が認められなかった。12月22日，ドローンを使用して空中写真を撮影の後，北東・南西方向のトレンチを設けて下層の調査を行う。第Ⅳ層以下にも硬化面が所在することや，礎石と思われる遺構を確認し，12月27日まで記録と補足調査を継続した。

令和４年１月は，６日より東半部の埋め戻しに着手し，８・９日に西半部の掘削作業を行った。西半部においては，中央から東側において硬化面が認められ，溝状遺構，ピット等が確認されたが，西寄りでは硬化面が認められなかった。また，調査区の北壁に接して性格不明遺構，西壁北寄りに石積みの井戸跡等が確認されたが，これらは近代の所産と推定された。西半部においても下層に硬化面の存在が確認された為，１月20日にドローンによる空中写真撮影を行った後，南北方向に平行するトレンチを設けて調査を行った。その結果，溝状遺構，ピット及び礎石の根石と見られるものが確認され，同月26日に再度空中写真撮影を行った。その後，記録及び補足調査を同月31日まで継続した。翌２月１日より埋め戻し作業を行い，同月２日に器材撤収，重機の搬出まで行い，すべての野外調査を終了した。

整理・報告書作成作業は同月３日より同年８月31日まで行った。

２．調査の方法

遺構確認面となる第Ⅳ層に向けて重機と人力を併用して掘削し，遺物の発見に努力したが，遺物の出土は極めて僅かであった。また，遺構内からの出土も少なく，近代と判断された第５号性格不明遺構から，比較的まとまって出土した以外は皆無に等しい状況であった。

確認された遺構は，半截等により土層の観察･記録の後，完掘して写真撮影･実測を行った。実測にあたっては，最寄りの街区基準点より調査区内に移設した，公共座標（世界測地系第Ⅸ座標系）に基づく10ｍ方眼を設定し実施した。平面図はレイアウトナビゲーターにて計測し，人手で方眼紙に作図した。土層断面図等は，計測・作図とも人手で行った。

写真撮影は，一眼レフデジタルカメラ（2400万画素）を使用し，記録画像形式はRAW及びJPEG画像の２種の形式で記録した。撮影に際しては，三脚及び大型脚立等を使用し，空中写真はドローン（1200万画素）を利用した。

出土遺物は全点洗浄し，可能な限り注記を行った。接合は全点行ったが復元は最小限に止めた。出土遺物及び記録類は台帳を作成し，すべて検索が可能な状態とした。　（水野）

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　水戸城跡の地理的環境

水戸市は，関東平野の北東部，茨城県のほぼ中央に位置する。市域の北部には，西から東へ流れる那珂川とその支流により形成される沖積低地が広がり，これに沿うように東茨城台地が太平洋に向かって突き出している。その下流域右岸の大部分が水戸市域となる那珂川は，栃木県の那須連山を水源とし，八溝山地の西縁を南へ流れた後，烏山の南から方向を東へと変えて八溝山地を横断し，今度は御前山を背にして南東へ方向をさらに変えて那珂台地と東茨城台地との間を流れ太平洋へと注ぐ。この那珂川の存在により，栃木県域に広がる那須野が原や喜連川丘陵などの内陸部と太平洋沿岸とが水上交通によって結ばれることから，水戸市域は古くから交通の要衝地であった。

水戸城跡は，北を那珂川，南を千波湖に挟まれ，南東方向に迫り出す幅約1.5km，長さ約７kmの通称「上市台地」と呼ばれる舌状台地の東端部に立地しており，那珂川との比高は約20ｍである。水戸城は東西に細長く延びる台地を堀や土塁で区画する連郭式平山城に分類され，東から西に向かって東二の丸（常光寺曲輪・下の丸），本丸，二の丸，三の丸の４つの曲輪が配置されている。

城内は現在，市立三の丸小学校・第二中学校，国立大学法人茨城大学教育学部附属幼稚園・附属小学校，県立水戸第一高等学校・水戸第三高等学校などの学校施設のほか，市立三の丸市民センター，県三の丸庁舎（旧県庁舎），県立図書館などの生涯学習施設が立ち並ぶ文教地区となっており，本丸と二の丸の間を区切る堀と二の丸と三の丸の間を区切る堀も，それぞれJR水郡線・県道市毛水戸線という重要な交通網として土地利用が展開している。

第２節　水戸城跡周辺遺跡における歴史的環境

水戸城跡周辺の先土器時代～近世までの土地利用の推移について周辺遺跡（第１図・第１表）の調査成果を参照しながら時代毎に概観する。

先土器時代　先土器時代の遺物は大鋸町遺跡（第３地点）及び吉田神社遺跡（第１地点）の調査で確認されており，大鋸町遺跡（第３地点）からはチャート製の尖頭器が，吉田神社遺跡（第１地点）からは瑪瑙製のナイフ形石器が出土している（佐々木・大橋編　2006，前田・伊藤編　2013）が，いずれも後世の遺構外出土遺物である。

縄文時代　水戸城跡周辺では早期から晩期の遺物が出土する遺跡が確認されているが，遺構が確認されたのは，大鋸町遺跡と薬王院東遺跡に限られる。大鋸町遺跡（第２地点）では，土坑６基が確認され，うち３基は中期加曽利ＥⅣ式期のものである（齋藤・新垣　2005）。薬王院東遺跡（第１地点）では，中期阿玉台式期の竪穴状遺構１基が検出されている（井上　1990）。水戸城跡周辺の当該期の遺跡では，竪穴建物跡が１軒も確認されていないのが現状である。

弥生時代　弥生時代の遺跡は，お下屋敷遺跡，大鋸町遺跡，中河内上坪遺跡，反町遺跡，

第１図　水戸城跡周辺の遺跡分布図

第１表　水戸城跡周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	時代							備　　考
		先土器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世	
201-007	水戸南高校遺跡		○	○	○				隠滅
201-008	吉田貝塚		○						
201-009	安楽寺遺跡		○			○			
201-010	お下屋敷遺跡		○	○	○	○			隠滅
201-011	大鋸町遺跡	○	○	○	○	○	○	○	
201-012	下本郷遺跡		○						
201-020	釜神町遺跡		○		○	○		○	
201-021	並松町遺跡		○						隠滅
201-041	東照宮境内遺跡			○	○				隠滅
201-049	中河内上坪遺跡			○	○	○			柳河小学校にて出土遺物保
201-050	反町遺跡			○	○				
201-051	柳河町遺跡		○	○	○	○			
201-058	米沢町遺跡		○	○	○	○	○	○	
201-062	茨城高等学校遺跡		○		○	○		○	
201-072	吉田古墳群		○		○	○		○	１号墳（国史跡）は八角形墳，周辺に円筒埴輪（後期）を伴う隠滅古墳あり
201-073	払沢古墳群				○				隠滅
201-075	千波山古墳群				○				円筒埴輪（後期）
201-076	東照宮境内古墳				○				隠滅
201-077	三の丸古墳				○				隠滅
201-078	五軒町古墳群				○				隠滅
201-103	横竹隈遺跡						○		隠滅
201-106	千波山遺跡		○						隠滅
201-128	薬王院東遺跡		○	○	○	○	○		
201-142	鷹匠町遺跡					○			隠滅（旧梅香火葬墓跡）
201-146	柳崎貝塚		○						
201-159	根本町遺跡		○						隠滅（旧幸町遺跡）
201-161	吉田神社遺跡	○		○	○	○	○	○	
201-172	水戸城跡	○	○	○	○	○	○	○	
201-174	笠原水道							○	
201-233	青柳町遺跡					○	○	○	
201-287	七面製陶所跡							○	
201-290	東組遺跡		○	○	○	○	○	○	
201-292	三ノ町遺跡							○	
201-307	山崎遺跡								H24 年度版包蔵地分布地図新規登録
201-324	旧偕楽園							○	H24 年度版包蔵地分布地図新規登録
201-325	御茶園遺跡								H24 年度版包蔵地分布地図新規登録

柳河町遺跡，薬王院東遺跡，吉田神社遺跡，東組遺跡など比較的多く確認されているが，大半が後期十王台式期のものに限られる。遺構が確認されているのは，大鋸町遺跡（第１・２・10地点），薬王院東遺跡（第１地点），東組遺跡（第１地点）において竪穴建物跡や竪穴状遺構，土坑等が検出されている。

古墳時代　当該期の遺跡は古墳と集落遺跡に分けられるが，水戸城跡周辺の古墳で時期が判明しているものは，千波山古墳群と吉田古墳群に限られる。千波山古墳群は前方後円墳１，円墳２から構成され，第１号墳は円筒埴輪を伴っており，後期の古墳とみられる。吉田古墳群は奥壁に線刻壁画を持つ八角形墳１（第１号墳），方墳？１（第２号墳），墳形不明１（第３号墳）の３基から構成される後期・終末期の古墳群である。第１号墳の周溝内からは埴輪片が出土しており，近隣に６世紀代の古墳の存在がうかがえる。埴輪は，茨城町小幡北山埴輪製作遺跡・ひたちなか市馬渡埴輪製作遺跡のほか，筑波山周辺の埴輪の胎土と共通する特徴を持つものもあることから，クニの領域を超えた埴輪の供給が行わ

れていた事が明らかとなった（関口・川口　2007，関口・川口・渥美　2009）。集落遺跡では，大鋸町遺跡（第10地点），吉田神社遺跡（第１地点）で６世紀前半の竪穴建物跡が検出されている（川口・色川ほか編　2011，前田・伊藤編前掲）。

奈良・平安時代　奈良時代の当該地域は，常陸国那賀郡常石郷（里）・吉田郷（里）のに比定されると考えられ，那賀郡衙と郡衙周辺寺院は水戸市渡里町に所在する台渡里官衙遺跡群と考えられている。水戸城跡の周辺においては，奈良・平安時代の集落が大鋸町遺跡（第１・２・３・６・10地点），薬王院東遺跡（第１地点），などにおいて検出されている。

中世・近世　当該期の遺跡は，大鋸町遺跡・釜神町遺跡・米沢町遺跡・茨城高等学校遺跡・吉田古墳群・薬王院東遺跡・吉田神社遺跡・笠原水道・東組遺跡・三ノ町遺跡・七面製陶所跡・旧偕楽園が該当する。

中世の遺跡は，大鋸町遺跡・米沢町遺跡・薬王院東遺跡・吉田神社遺跡・青柳町遺跡・東組遺跡が挙げられ，大鋸町遺跡（第６・７地点）において吉田城に係る堀跡が（川口・色川編　2010），薬王院東遺跡（第１地点）において集落に伴うとみられる井戸状遺構１基が検出されている（井上　1990）。

近世の遺跡として著名なのは，水戸藩の大規模公共事業として敷設された笠原水道と殖産興業の一環として開設された七面製陶所跡であろう。第２代水戸藩主徳川光圀によって敷設された笠原水道は，舟付橋より下流では，遺存状況が不明瞭であるが，笠原水源から舟付橋付近にかけては部分的ではあるものの良好な状態で保全されている（関口・川口編 2010）。

第９代水戸藩主徳川斉昭によって開設された七面製陶所跡では，明確な窯跡は確認されなかったものの，物原から大量の陶磁器類が出土している（関口・渥美・川口・米川　2017）。

武家地では，下市に所在する三ノ町遺跡（第１地点）において，18世紀後半～19世紀前半にかけての陶磁器・土器類と生活面が確認されている。また，上市台地に所在する釜神町遺跡では，第２地点において，水戸城跡の外郭の土塁や溝状遺構，ピットなどが（川口・色川編　2009），第４地点においては，近世の一括廃棄土坑内から陶磁器類とともに，黒地蒔絵箱物の断片が出土している（川口・色川ほか編　2011）。

第３節　水戸城跡における既往の調査

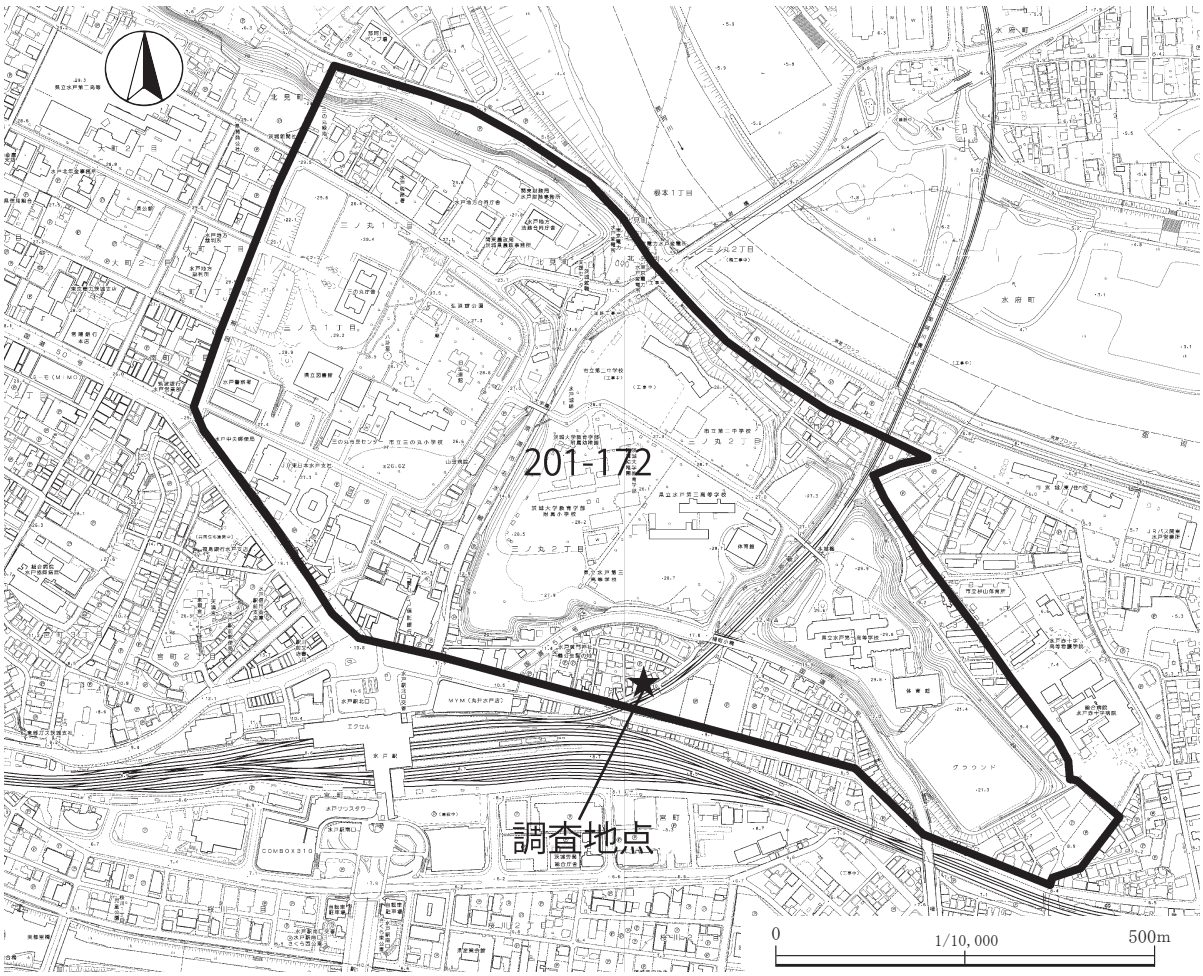
水戸城跡では，平成17年以降，発掘調査件数が増加しており，発掘調査等の情報を整理するため，通し番号で「水戸城跡第〇〇次調査」と整理してきており，さらに調査地域と曲輪との関係性を明確にするため，以下のように地点名を付与してきている（渥美・河野・美濃部　2014）。

第１地点：大手門跡（三の丸から二の丸へ至る虎口地点）
第２地点：県立水戸第一高等学校敷地内（本丸曲輪）
第３地点：茨城大学教育学部附属小学校・附属幼稚園敷地内（二の丸曲輪南西部）
第４地点：市立第二中学校敷地内（二の丸曲輪北半部）
第５地点：茨城県三の丸庁舎・茨城県立図書館敷地内（三の丸曲輪北西部）
第６地点：水府橋交差点付近（二の丸・三の丸間の堀北端部）

第７地点：特別史跡旧弘道館敷地内（三の丸曲輪北東部）
第８地点：一般県道232号市毛水戸線沿線（二の丸・三の丸間の土塁・堀）
第９地点：市立三の丸小学校敷地内（三の丸曲輪南東部）
第10地点：県立水戸第三高等学校敷地内（二の丸曲輪南東部）
第11地点：三の丸３丁目1番（街区）一帯（本丸曲輪東辺の水堀）

また，その後の調査の進展により調査次数が大幅に増加したため，第11地点以後の調査地点を以下のように整理している。

第12地点：三の丸２丁目22番（街区）一帯（二の丸曲輪南辺の水堀及び陸地帯）
第13地点：北見町１－１・９（農政局茨城農政事務所・水戸地方検察庁）一帯（中山備前守屋敷地）
第14地点：水戸市道上市205号線（現水戸市道上市353号線）一帯（二の丸曲輪内を走る大手道）
第15地点：三の丸２丁目130番（街区）一帯（二の丸曲輪北辺の空堀及び陸地帯）
第16地点：北見町１－11・17（水戸税務署・水戸地方検察庁仮庁舎）一帯（北三の丸武家地）



第２図　水戸城の範囲と調査地点の位置

以下では，既往の調査（第２表）のうち，特記すべきものについて概観する。

二の丸大手門跡　二の丸大手門跡は，平成５年度に第１次調査（第１地点）が復元に向けて実施され，礎石や地業遺構・土留遺構などが検出されるとともに，陶器・土器・瓦・釘などの金属製品が出土したとされる（建築文化振興研究所編　1993）。大手門の上部構造は現存せず，古写真や絵図で確認されるのみであったが，平成24年度に水戸市教育委員会が実施した第32次調査（第１地点）の際，礎石の一部や根石とみられる遺構が舗道直下より検出された。その後，平成27年度に実施した復元整備に向けた第40次調査（第１地点）において，大手門枡形虎口構築地業２箇所のほか，瓦塀跡２基，石組水路１条，礫集中地点３箇所，礎石（根石ヵ）１基，大手門外周基礎工跡１箇所，暗渠施設１基が検出されるとともに，大量の近世陶磁器・瓦とともに石製硯・鉄製品（錠前・釘等）が出土した（宮田・関口　2017）。本調査により，瓦塀跡２基や礎石の一部が確認され，大手門の復元に向けて重要な根拠資料が得られた。

二の丸南西角櫓　市街地における文化財の新たな活用方策の検討を行うための事前確認調査として水戸市教育委員会が実施した第24・29次調査（第３地点）では，二の丸曲輪の南西角櫓の遺構が良好な状態で遺存していることが明らかとなった。二の丸曲輪の南西角櫓は，版築基壇の上に建造された二間四面の礎石建物で，残存していた礎石及び礎石据え付け痕跡から，柱間は１間（６尺５寸＝1.97ｍ）であったことが明らかとなった。この規模は，茨城県立図書館所蔵の「水戸城実測図」に描かれている二の丸南西角櫓と位置・規模がほぼ一致する。また，櫓の整地層は新旧２時期存在するようで，間に炭化材等を含む焼土層がみられることから，古い時期の櫓が明和元（1764）年の水戸城大火で焼失した後，新たに再建された可能性が高いことが判明した。整地層直上からは，櫓壁材とみられる漆喰を含む白色土のほか，大量の近世瓦や鉄釘・鎹等の建築部材が出土した。特に注目されるのは，調査区北端部から出土した三つ葉葵紋鬼瓦で，紀州和歌山藩邸とみられる東京都千代田区紀尾井町遺跡出土鬼瓦や尾張藩市ヶ谷邸出土鬼瓦などに類例が求められるものである。本調査については，現在も整理作業を継続中であり，いずれ報告の予定である。

二の丸彰考館　平成18・20・22年度に水戸市立第二中学校校舎改築工事に伴い実施した第４地点の調査は，7,519㎡と水戸城跡内では過去最大の面積を調査した。同調査では，旧石器時代から近現代に至るまでの多数の遺構・遺物が検出された（渥美・河野・美濃部2014）。遺物で注目すべきは，13世紀後半の古瀬戸瓶子の中に詰められた約1,500枚の渡来銭であろう。埋納された銭の中で最も古い時期に鋳造されたものは乾元重宝（758年初鋳）で，最も新しい時期に鋳造されたものは宣徳通宝（1433年初鋳）であった。埋納銭はバラで詰められた状況で発見され，再利用の意図が見られず，15世紀代の整地層最上部から見つかっている事から，水戸城普請に伴う神仏への埋納行為によるものと理解されている（関口　2007）。

中世の遺構で注目されるのは，重複して切り合う形で検出された30条にも及ぶ中世の堀跡である。これらは，江戸氏支配下の重臣屋敷地の区画溝と理解されるもので，15世紀後半～16世紀後半の間に概ね半世紀毎に堀が作り替えられており，特に16世紀代に活発化していた（関口　2016）。こうした現象の背後には，江戸氏の南進や北の佐竹氏との確執

を背景とする軍事的・社会的緊張があったと理解される。

近世の遺構で注目されるのは，第23次調査の際に北東部で検出された東西24ｍ以上，南北19ｍ，深さ6.4ｍにも及ぶ巨大な土坑である。当初は土取り穴として掘られたものであったが，後に廃棄土坑として転用されたものである。覆土中からは，陶磁器・土器・瓦をはじめとする数十万点の遺物が出土している。水戸彰考館の礎石や柱穴等の遺構は確認されなかったが，水戸彰考館で使用された日常什器を一括廃棄したものと理解され，19世紀前半の水戸彰考館の運営の実態を知るうえで貴重な一括資料と評価される。

なお，同調査では古墳時代前期の竪穴建物跡３軒，Ｍ字形低突帯を有する円筒埴輪片１点と刀子形石製模造品１点，平安時代の竪穴建物跡４軒も検出されており，古墳時代前期と平安時代には集落，古墳時代中期には墓域としての土地利用が展開していたなど，水戸城築城以前の土地利用の一端が初めて明らかとなった（渥美・河野・美濃部前掲）。

二の丸表御殿　平成22年度に県立水戸第三高等学校図書館改築に伴い，財団法人茨城県教育財団によって実施された第21・22次調査（第10地点）は，表御殿のほぼ中央部に該当し，９世紀中葉から近現代に至る整地層が確認されるとともに，３基の石組貯蔵施設と３基の石組水路跡が検出された（松林　2012）。３基の石組貯蔵施設は，構築時期に時間差があり，17世紀代のもの１基，残りの２基は17世紀中葉～18世紀代のものとみられる。城内における既往の調査ではこのような遺構の検出例はなく，最も格式の高い建造物である表御殿を象徴する遺構として評価される。３基の石組水路跡は，18世紀後半～19世紀代に構築されたもので，後述する二の丸大手道の調査で検出されたものと同様，凝灰質泥岩製の切石を組み合わせたものである。その組み合わせ方には，①蓋石・側石２・底石の４点によるもの，②蓋石・凹型岩樋の２点によるもの，③底石・側壁板石積・蓋石の10数点による大型のものの３者があり，上下水や本管・枝管といった形で機能した可能性が高い。

二の丸大手道　平成26年～28年度にかけて歴史・観光ロード整備事業に伴い実施している第37・39・43・47次調査では，大型の石組水路が検出されている（宮田・萩原・関口・米川　2015，宮田・関口　2017）。第39・43次調査で見つかった石組水路は，凝灰質泥岩製の底石，側面切石，蓋石を組み合わせたもので，側面切石は５段積みとなっていた。その規模は，残存長32ｍ，幅約1.4ｍ，深さ（高さ）0.6ｍで，二の丸表御殿の調査で検出された大型石組水路と規模が一致する。二の丸表御殿方面へ分岐する状況が確認されていることから，大手道の地下に暗渠として埋設され，表御殿の石組水路と接続していた可能性が高い。

北三の丸武家地　平成25年度に水戸地方検察庁仮庁舎建設事業に伴い，公益財団法人茨城県教育財団により実施された第62次調査（第16地点）では，奈良・平安時代の竪穴建物跡10軒・竪穴遺構１基，土坑２基のほか，近世の水路状施設１条・整地跡１か所・土坑２基などが確認された（盛野　2015）。９世紀中葉頃に廃絶したとみられる第２号竪穴建物跡からは，再分配された伝世品とみられる腰帯具の一部である青銅製の巡方が検出されており，威信財としての役割を持っていた可能性が指摘されている（盛野前掲）。近世の水路状施設は15点の特殊瓦を組み合わせたもので，相互に漆喰で接着した痕跡が残されていた。水戸城内における既往の調査では検出例がなく，調査区域の北側斜面に向かう排水路の可能性が指摘されている（盛野前掲）。茨城県立図書館に所蔵されている「江戸期水戸

武士小路明細図（上市の部）」によると，寛文年間の当地点は，田代三郎衛門の拝領地に該当しており，文政９（1826）年に描かれた「水戸地図」（公益財団法人徳川ミュージアム所蔵）では，中山備前守の屋敷地が広く描かれている事から，中山家に伴う遺構である可能性がある。

弘道館　平成19年度に便所改築工事・下水道管改修工事に伴い実施した第13・15次調査（第７地点）の際，５基の植栽痕とともに18世紀後半から19世紀代の陶磁器や瓦類が多数出土した（川口・色川編　2010）。陶磁器の中には第９代水戸藩主徳川斉昭が開設した七面製陶所跡の製品とみられる焼締陶器も含まれていた。その後，平成22年10月に実施した第25次調査（第７地点）は，正庁の床を支える柱の礎石周辺が陥没したため，現状復旧に向けて急遽実施したものであるが，弘道館造成に伴う整地層の下から地下室の可能性がある土坑が検出されるとともに，覆土中より近世の陶磁器・瓦が出土した。　（新垣）

第２表　水戸城跡における既往の調査一覧

№.1

次数	地点	調査箇所	調査期間	種別	調査原因	遺構	遺物	調査主体	備　考
1	1	三の丸２丁目（大手門）	H5.8.20～H5.9.2	確	大手門復元計画	○	○	市教委	調査支援：建築文化振興研究所
2	2	三の丸３丁目10－1（水戸一高）	H13.3.5	立	学校整備	—	○	県文化課	
3	5	三の丸１丁目５	H18.5.29～H18.8.24	確	史跡整備	○	○	市教委	
4	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H17.5.3	試	排水溝埋設	○	○	市教委	市埋蔵文化財調査報告第11集
5	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H17.6.27	立	法面工事	—	○	市教委	
6	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中・Ⅰ期工事）	H18.8.16～H18.12.2	本	学校校舎改築	○	○	市教委	調査支援：大成エンジニアリング 市埋蔵文化財調査報告第61集
7	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中）	H17.8.29～H17.9.1	試	学校校舎改築	○	○	市教委	
8	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H18	試	道路整備	○	○	県文化課	
9	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H18	立	道路整備	○	○	県文化課	法面掘削に伴う調査
10	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中）	H19.8.20～H19.9.14	試	学校校舎改築	○	○	市教委	市埋蔵文化財調査報告第35集
11	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H19.12.14	試	道路整備	—	○	市教委	
12	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H20.3.20	立	道路整備	—	—	市教委	法面掘削に伴う調査
13	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H20.8.31～H20.9.4	試	便所改築（現状変更）	○	○	市教委	市埋蔵文化財調査報告第35集
14	8	三の丸２丁目１－315（県道232号市毛水戸線沿線）	H19.12.14～H20.1.18	立	解体	—	○	市教委	
15	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H20.2.13	立	下水管改修	—	○	市教委	
16	9	三の丸１丁目６－51（三の丸小）	H20.4.4	試	学校整備	—	○	市教委	市埋蔵文化財調査報告第43集
17	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H20.6.9	立	県道拡幅	—	—	県文化課	法面掘削に伴う工事立会
18	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中・Ⅱ期工事）	H20.8.29～H21.2.3	本	学校校舎改築	○	○	市教委	調査支援：大成エンジニアリング 市埋蔵文化財調査報告第61集
19	6	三の丸２丁目１－274ほか（水府橋脇）	H20.10.21～H21.1.31	本	県道拡幅	○	○	県教育財団	
20	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H20.12.8	立	井戸屋形修築（現状変更）	—	○	市教委	市埋蔵文化財調査報告第43集
21	10	三の丸２丁目７－27（水戸三高）	H21.9.25	試	図書館改築	○	○	県文化課	
22	10	三の丸２丁目７－27（水戸三高）	H22.6.1～H22.9.30	本	図書館改築	○	○	県教育財団	
23	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中・Ⅲ期工事）	H22.7.5～H22.8.27	本	学校校舎改築	○	○	市教委	調査支援：大成エンジニアリング 市埋蔵文化財調査報告第61集
24	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H22.7.27～H22.8.27	確	隅櫓存否確認	○	○	市教委	
25	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H22.10.4～H22.10.8	確	史跡整備	○	○	市教委	
26	4	三の丸２丁目９－22（水戸二中）	H22.11.19	立	学校整備	—	○	市教委	

No. 2

次数	地点	調査箇所	調査期間	種別	調査原因	遺構	遺物	調査主体	備　　考
27	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H23.1.12 H23.1.28 H23.2.10	立	史跡整備（現状変更）	—	○	市教委	
28	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H23.6.17	確	範囲確認	○	○	市教委	
29	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H23.8.9～ H23.10.7	確	隅櫓範囲確認	○	○	市教委	
30	1	三の丸２丁目１（大手門・附属小側）	H24.6.5～ H24.6.8	確	法面保護工事	○	○	市教委	
31	9	三の丸１丁目 119－14（三の丸小）	H24.7.18	試	学校整備	—	—	市教委	
32	1	三の丸２丁目１－274（大手門）	H24.8.20～ H24.9.4	確	大手門確認	○	○	市教委	
33	11	三の丸３丁目１－355	H24.9.11	試	物件売買	○	○	市教委	
34	8	三の丸２丁目１－82	H25.4.26	試	個人住宅	—	—	市教委	
35	8	三の丸２丁目１－329	H26.6.25	試	個人住宅	—	—	市教委	
36	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H26.10.7	試	校庭トイレ建設	○	—	市教委	
37	14	市道上市 205 号線	H26.10.29	試	電線共同溝	○	○	市教委	
38	11	三の丸３丁目１－355	H27.2.25	試	個人住宅	—	—	市教委	
39	14	市道上市 205 号線	H27.5.2～ H27.9.15	本	電線共同溝	○	○	市教委	調査支援：関東文化財振興会 市埋蔵文化財調査報告第 72 集
40	1	三の丸２丁目（大手門）	H27.7.30～ H27.12.15	確	大手門復元計画	○	○	市教委	調査支援：関東文化財振興会
41	3	三の丸２丁目６－８（茨大附属小）	H27.8.6～ H27.8.31	確	土塀確認	○	○	市教委	
42	1	三の丸２丁目（大手門）	H28.3.15～ H28.5.31	確	大手門復元計画	○	○	市教委	
43	14	市道上市 205 号線	H28.6.10～ H28.9.10	本	電線共同溝	○	○	市教委	調査支援：関東文化財振興会
44	11	三の丸３丁目１－301	H28.6.7	立	地下埋設物の有無の確認	—	—	市教委	
45	12	三の丸２丁目 22－113･114	H28.9.6	試	個人住宅	—	○	市教委	
46	15	三の丸２丁目 22－130	H29.5.11	試	個人住宅	—	—	市教委	
47	14	市道上市 353 号線	H29.5.27～ H29.7.21	本	電線共同溝	○	○	市教委	調査支援：関東文化財振興会
48	17	北見町１－９（関東農政局茨城農政事務所）	H29.5.16	立	公共下水管埋設	—	—	市教委	
49	14	市道上市 353 号線	H29.6.8～ H29.7.8	本	電線共同溝	○	○	市教委	調査支援：日本窯業史研究所 市埋蔵文化財調査報告第 94 集
50	16	北見町１－11～17	H29.5.23	立	公共下水管埋設	—	—	市教委	
51	1	三の丸２丁目（大手門）	H29.6.13	立	水道管移設	—	—	市教委	
52	13	北見町１－１（水戸地方検察庁）	H29.7.21	試	水戸法務総合庁舎新設	○	○	県文化課	
62	16	北見町１－11（水戸地方検察庁仮庁舎）	H25.12.2～ H26.1.31	本	水戸地方検察庁庁舎新設	○	○	県教育財団	中山備前守屋敷地
63	1	三の丸２丁目（大手門）	H29.11.4	確	大手門復元	○	○	市教委	大手門復元に伴う瓦塀等を再確認
64	29	三の丸２丁目１－355 他		立				市教委	
65	29	三の丸２丁目１－355		立	地中管路取替			市教委	
66	10	三の丸２丁目７－27（水戸三高）	H30.1.22	立	駐車場新築	—	—	県文化課	
67	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H30.1.22	確	史跡整備	○	○	県文化課	旧テニスコート及び北柵門
68	3	三の丸２丁目１－420･421	H30.5.21	確	土塀復元工事	○	○	市教委	
69	26	北見町 120－１地内	H30.7.10	立	電柱・地中埋設	—	—	市教委	中山家家紋軒丸瓦検出
70	30	三の丸１丁目 129～132	H30.5.17	試	道路改良工事	—	—	市教委	
71	7	三の丸１丁目２－29（弘道館内）	H30.5.22	確	史跡整備	—	—	県文化課	旧テニスコート及び北柵門
72	38	三の丸３丁目１－210	H30.6.12	試	共同住宅	—	—	市教委	
73	35	三の丸３丁目 11－19	H30.7.20	立	職員住宅解体	—	—	県文化課	
74	1	三の丸２丁目（大手門）	H30.7.23	確	大手門復元	○	○	市教委	大手門復元工事に伴う土塁の再確認
75	33	三の丸２丁目１－1･151 の一部（茨大附属小・三高）	H30.8.21～ H30.8.24	試	二の丸隅櫓復元	○	○	市教委	二の丸隅櫓アプローチ整備
76	42	三の丸３丁目 17－６		立	小柱の取替			市教委	
77	31	三の丸１丁目		立	地中管路改修			市教委	
78	26	北見町 120－１地内	H30.8.24	立	地中ケーブル埋設	—	○	市教委	
79	7	三の丸１丁目６－29（弘道館内）	H30.11.19	立	管路埋設	—	○	市教委	
80	36	三の丸３丁目 130 番４		立	支線打替			市教委	

No. 3

次数	地点	調査箇所	調査期間	種別	調査原因	遺構	遺物	調査主体	備　　考
81	22	北見町１－１	H30.12.25	試	法面対策	—	—		
82	2	三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	H31.2.5	立	テニスブロック改修	—	—	県文化課	
83	22	北見町１－１	H31.2.20	立	北側法面改修	—	—	市教委	
84	32	三の丸１丁目地内(市道上市6号線歩道)	H31.2.22	立	案内板設置	—	—	市教委	
85	28	三の丸１丁目129地内		立	地中管撤去			市教委	
86	28	三の丸１丁目132地内		立	機器撤去			市教委	
87	31	三の丸１丁目103－８地内		立	地中管路新設			市教委	
88	41	三の丸２丁目21－１	R1.6.8	試	共同住宅	○	○	市教委	
89		三の丸３丁目１－286	R1.10.23	試	個人住宅	—	○	市教委	
90		三の丸３丁目１－301	R1.10.23	試	個人住宅兼医院	○	○	市教委	堀跡検出
91		三の丸２丁目21－１	R2.1.14～R2.4.24	本	共同住宅	○	○	市教委	調査支援:関東文化財振興会
92		三の丸３丁目21	R2.4.3	立	電柱地中埋設	—	○	市教委	
93		三の丸２丁目22－95	R2.6.26	立	設置新設	—	○	市教委	
94		三の丸２丁目１－151	R3.1.26	立	電柱地中埋設	—	○	市教委	
95		三の丸２丁目１－151	R3.2.3	立	園路新設	—	○	市教委	
96		三の丸２丁目１－151	R3.2.17	立	電柱新設	—	○	市教委	
97		三の丸２丁目１－355	R3.4.27	確	説明看板設置	—	—	市教委	
98		三の丸１丁目６－60	R3.8.11	試	雨水貯留槽設置	○	○	市教委	
99		三の丸２丁目21番48～50	R3.9.1	試	共同住宅	○	○	市教委	伊藤玄蕃邸跡
100		三の丸３丁目１－94	R3.10.8	試	職員宿舎	○	○	市教委	堀跡検出
101		三の丸２丁目１－351	R4.1.18	立	不動産鑑定	○	○	市教委	土塁積土検出
102		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R2.12.2	本	技術室増築	○	○	県文化課	土塁の調査
103		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R3.8.2	立	空調設備	—	○	県・市	
104		三の丸２丁目地内(水戸三校地内)	R3.8.18	立	長寿命電気工事	—	○	県・市	
105		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R3.11.8	立	記念碑設置	—	○	県・市	
106		三の丸２丁目地内(水戸三校地内)	R3.11.25	立	体育館スロープ設置	—	○	県・市	
107		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R3.11.25	立	屋内運動場トイレ改修	○	○	県・市	
108		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R3.12.1	立	体育館空調設備	—	—	県・市	
109		三の丸２丁目地内(水戸三校地内)	R3.12.24	立	体育館空調配管	—	—	県・市	
110		三の丸３丁目地内(水戸一高地内)	R3.12.27	立	手洗場増設	—	—	県・市	
111		三の丸１丁目地内(弘道館)	R4.2.9	確	トイレ新設	○	○	市教委	
112		三の丸２丁目21番48～50	R3.12.2～R4.2.2	本	共同住宅	○	○	市教委	本報告書　調査支援:日本窯業史研究所

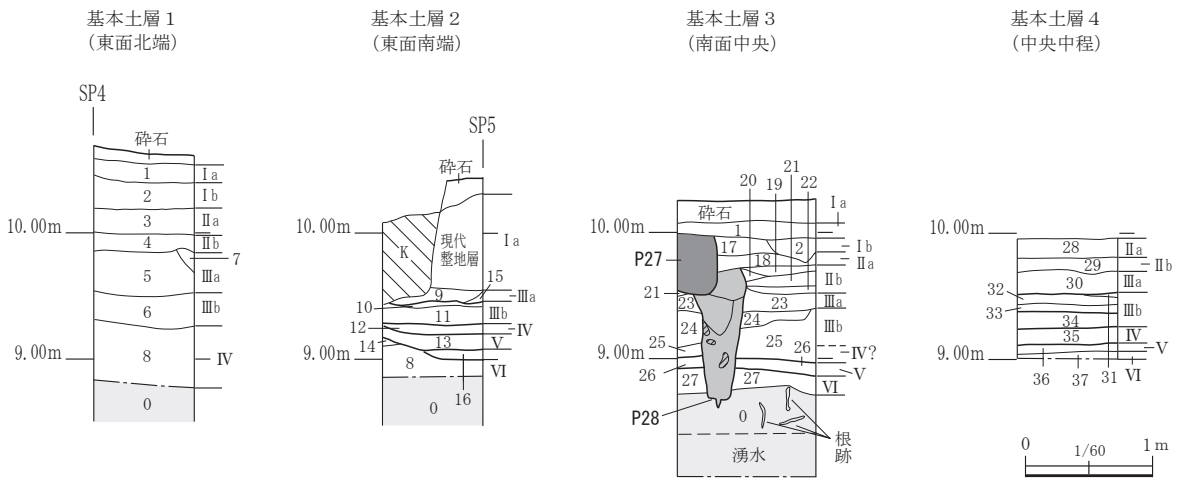
※種別の記号は，次のとおりである。試：試掘調査　本：本発掘調査　立：立合調査　確：確認調査

第３章　調査の成果

第１節　基本土層（第３図，写真図版２・５）

今次調査区は，上市台地の南西裾部にあたり，かつては旧千波湖の湖畔にあたるところと推察される。調査区の現地表面の標高は10.2 ～ 10.7ｍであるが，２ｍ程掘削すると湧水が見られ，人為的整地層の下に所在する自然堆積層には植物の根が腐食した後に酸化した鉄分が沈着したり，粘性土が詰まっている状況が認められた。

ここに図示する４か所の柱状土層図はその大部分が人為的なものであり，０層と示した



基本土層１～４

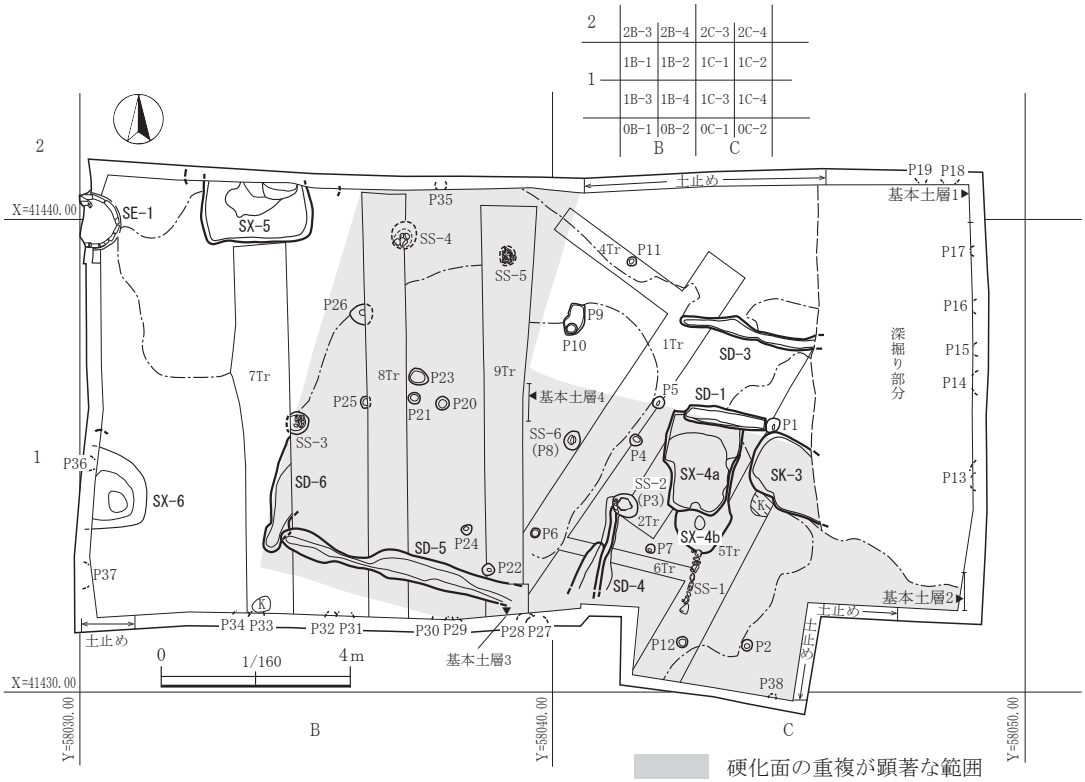
０．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，植物の根跡に明赤褐色土（5YR5/8）が認められる（地山＝旧千波湖の堆積土）
１．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性ややあり，灰黄色土（2.5Y7/2）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）20%，褐色土（7.5YR4/6）粒（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 30 ㎜）3%含む
２．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い，灰黄色土（2.5Y7/2）粒・塊（1 ～ 40 ㎜）15%，炭化粒・塊（1 ～ 30 ㎜）8%，焼土粒・塊（1 ～ 15 ㎜）3%含む。陶磁器，ガラス瓶，瓦等を包含している（昭和 20 年空襲の焦土）
３．褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性あり，小礫（3 ～ 50 ㎜）5%含む
４．灰オリーブ色土（5Y6/2）　締まりあり，粘性ややあり，小礫（3 ～ 30 ㎜）3%含む
５．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，灰色土（5Y6/1）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）20%，小礫（3 ～ 10 ㎜）3%含む
６．黄灰色土（2.5Y4/1）　締まり・粘性あり，灰色土（5Y6/1）粒・塊（1 ～ 40 ㎜）30%，小礫（3 ～ 8 ㎜）2%含む
７．灰褐色土（7.5YR4/2）　締まり・粘性あり，小礫（2 ～ 5 ㎜）2%，焼土粒（1 ～ 3 ㎜）1%，炭化粒（1 ～ 3 ㎜）微量含む
８．黒色土（10YR2/1）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）5%，酸化による赤褐色土（2.5YR4/6）粒・塊（1 ～ 15 ㎜）2%含む
９．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）3%含む
10．淡黄色土（2.5Y8/4）　締まり強い，粘性ややあり，浅黄色土（2.5Y7/3）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）25%含む
11．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）15%，小礫（3 ～ 25 ㎜）1%含む
12．明黄褐色土（10YR6/6）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）15%含む
13．灰褐色土（7.5YR6/2）　締まり強い，粘性あり，褐灰色土（7.5YR6/1）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）20%含む
14．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）10%含む
15．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）20%含む
16．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，暗褐色土（10YR3/4）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）15%含む
17．灰白色土（10Y8/2）　締まりあり，粘性強い，明黄褐色土（2.5Y7/6）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）20%含む
18．褐灰色土（7.5YR6/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）粒・塊（1 ～ 15 ㎜）10%，小礫（3 ～ 20 ㎜）3%含む
19．にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まりあり，粘性弱い，砂質，小礫（3 ～ 80 ㎜）30%含む
20．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/3）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）20%含む
21．明黄褐色土（2.5Y7/6）　締まり・粘性あり，にぶい黄色土（2.5Y6/3）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）35%含む
22．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR4/3）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）30%，明黄褐色土（10YR7/6）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）10%含む
23．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）粒（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 80 ㎜）3%含む
24．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性ややあり，淡黄色土（5Y8/4）粒・塊（1 ～ 15 ㎜）2%含む
25．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR6/6）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）30%，にぶい黄褐色土（10YR5/4）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）15%，小礫（3 ～ 30 ㎜）5%含む
26．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）粒・塊（1 ～ 15 ㎜）15%含む
27．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/3）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）20%含む
28．灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性あり，小礫（3 ～ 80 ㎜）2%含む
29．明褐色土（7.5YR5/6）　締まり・粘性あり，灰白色土（7.5Y8/2）粒・塊（1 ～ 100 ㎜）30%，小礫（2 ～ 30 ㎜）3%含む
30．浅黄色土（2.5Y7/4）　締まり強い，粘性あり，砂質粘土，小礫（3 ～ 20 ㎜）15%含む
31．明赤褐色土（5YR5/6）　締まりあり，粘性なし，砂礫層（1 ～ 150 ㎜）
32．黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）10%含む
33．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）粒・塊（1 ～ 15 ㎜）8%，焼土粒（1 ～ 5 ㎜）2%含む
34．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，小礫（3 ～ 5 ㎜）3%含む
35．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）粒・塊（1 ～ 30 ㎜）20%含む
36．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強い，粘性あり
37．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）粒・塊（1 ～ 20 ㎜）5%，小礫（3 ～ 15 ㎜）3%含む

第３図　基本土層図

部分が自然堆積層と考えられる。また，人為的な土層においても，基本土層１のように比較的粗い堆積（整地）状態のものと，基本土層２～４のように細かな堆積（整地）状態の所があり，土地の利用目的に応じた整地の跡と考えられる。

したがって，僅か200㎡程の範囲内においても一様ではなく，第Ⅰａ層とした現代の整地層，第Ⅰｂ層は昭和20年８月の空襲の焦土層，第Ⅱａ～ｂ層は戦前～明治の近代整地層，第Ⅲａ～ｂ層は近世の中～後期，第Ⅳ層は近世の前期と想定された。しかし，さらに同様の整地（硬化）面が下層に所在することから第Ⅳ層が近世の中期，それ以下が近世前期とするのが妥当かもしれないが，出土遺物からそれを明確にすることはできなかった。

なお，今次調査では，極少量の縄文土器及び一定量の須恵器，土師器，中世の陶磁器，土器の出土があった。縄文時代や古代の集落が営まれたとは考え難い地形であるが，中世遺物は築城に伴う整地の開始時期を示唆するものかもしれない。



第４図　調査区全体図

第２節　近代の遺構と遺物

１．概要

前述の通り，今次調査においては近・現代の層は事前に除去されていたが，近世の遺構確認面の第Ⅳ層上面において，井戸跡（SE －１）と性格不明遺構（SX －５）が各１基確認された。また，調査区外周壁の土層断面にて計18基のピット（Ｐ13 ～ 19・27 ～ 34・36 ～ 38）が確認された。試掘確認調査時の遺構番号を踏襲した為，欠番が多く生じているが，遺物や記録の混乱を避ける為変更はしなかった。

２．井戸跡

第１号井戸跡（SE －１）（第５・６・８・28図，第３・４・７表，写真図版２）

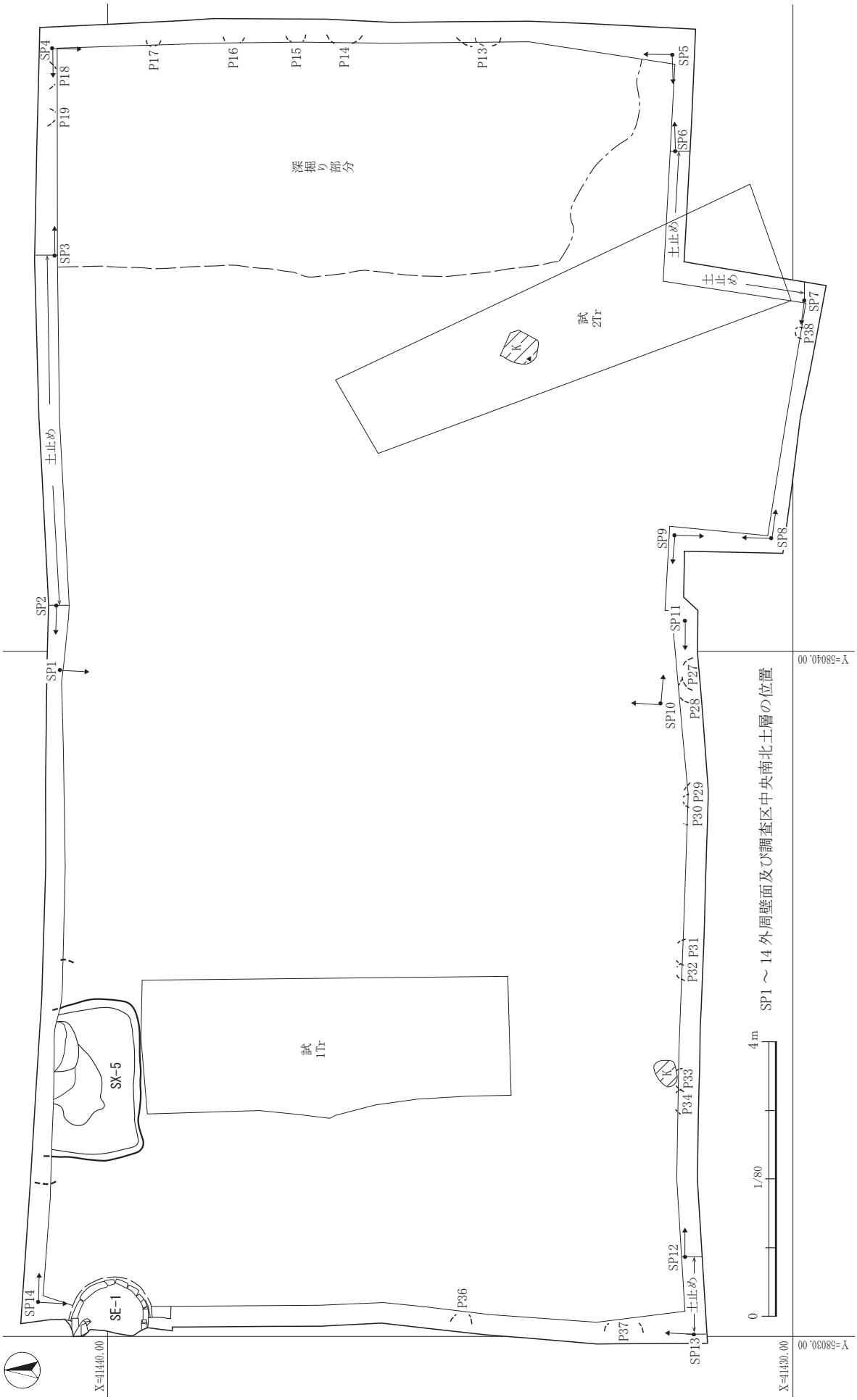
1B －１・2B －３グリッド，調査区外周壁西面北端に位置し，西半部は調査区外にある。上部はかつての整地に際してコンクリート塊や残土によって埋められており，遺存状態が悪いが，地中部分は遺存状態が良好であった。所謂「神崎岩」で造られた井戸側石が積み上げられている。規模・形状は，内法94㎝，外法114㎝の円形と推定され，掘方の径は122㎝で，約４～６㎝が裏込め用の隙間となる。深さ185㎝まで確認し，まだ下に続くと思われるが，湧水の為調査は断念した。神崎岩の井戸側石（８・９）は長さ55.5 ～ 59.0㎝，高さ約15.0 ～ 16.0㎝，幅約9.0 ～ 11.0㎝の弧状で，他遺跡の例から６本で一周すると考えられる。なお，本来は，長さ約60㎝，幅及び高さが約15㎝の石材を加工したと考えられる。内側は中央に向かって弧状に抉り込み，外側は両端に向かって弧状に削りこの形状に加工したと判断される。また，上・下と外面は粗い加工で工具痕が明瞭だが，内面と小口部分は丁寧な仕上げが行われている。工具痕は幅約2.5 ～ 3.0㎝である。

遺物の出土はなく，帰属時期は明確にし難いが，掘り込まれている層位や石材の採掘時期を考慮すると，近代初頭と推察される。

３．性格不明遺構

第５号性格不明遺構（SX －５）（第５・７・８・26・28・29図，第３・４・７表，写真図版２・３）

1B －１・2B －３グリッド，調査区外周壁北面の西寄りに位置し，北側は調査区外にある。この為，本来の規模・形状は明確にし難い。現存の東西長235㎝，同南北長127㎝，不整方形もしくは長方形と推定される。なお，土層断面（第８図）からは開口部の東西長323㎝，壁はやや外傾し，深さ約180㎝以上と判断される。開口部は第Ⅰb 層に覆われており，空襲当時は僅かな凹地であったと推察される。この層より被熱で変形した菊十銭アルミ貨（７）が１点出土した。全体では17層に分層され，他は遺物の出土はなかったが，唯一約110㎝下がった第74層中より，近世瓦の破片（22・23），近代の陶器鉢（１），瓦質土器カマド（６）等が出土し，周辺には木片等も認められた。また，遺物の出土した部分はほぼ平坦でこの下約50㎝が本跡の底面と思われた。しかし，土層断面の精査を行った結果，底面の東寄りが北側に向かってさらに深くなっていたが，調査区外となる為追求は出来なかった。調査区内に遺存する状況からは，平坦な底面の大形土坑に見えたが，底面の一部が北側に向


SP1 ～ 14 外周壁面及び調査区中央南北土層の位置
深掘り部分
試 2Tr
試 1Tr
SX-5
SE-1
土止め
SP1
SP2
SP3
SP4
SP5
SP6
SP7
SP8
SP9
SP10
SP11
SP12
SP13
SP14
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
P36
P37
P38
K
0
1/80
4m
X=41440.00
X=41430.00
Y=580430.00
Y=580440.00

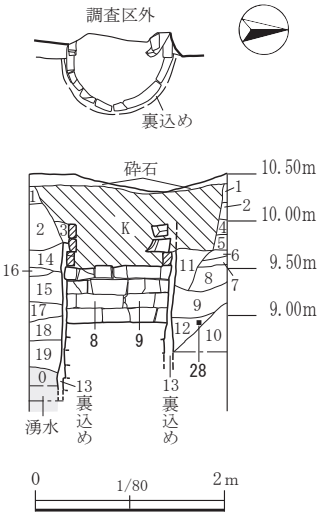
第５図　近代遺構配置図

かって急激に深くなっており，性格不明遺構とした。

４．ピット類

第13 ～ 19・27 ～ 34・36 ～ 38号ピット（Ｐ13 ～ 19・27 ～ 34・36 ～ 38）（第５・８・９図，第６・７表，写真図版２・３）

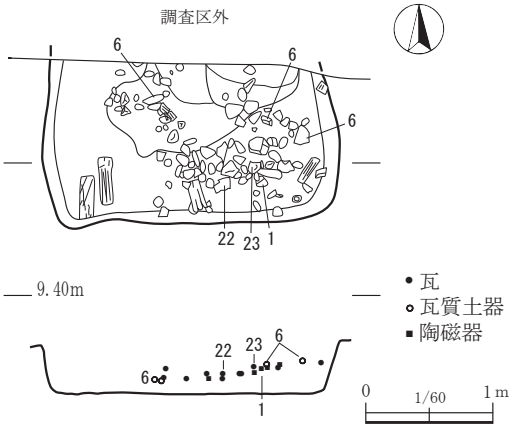
前述の通り，調査区外周壁の土層断面において計18基のピットを確認した。いずれも断面のみの確認であり，詳細は判然としないが，1B －３グリッドの壁西面に確認した第36号ピットは覆土中に焼土・炭化物が含まれ，昭和前期の磁器茶碗が出土しており，空襲直後のピットと考えられる。また，2C －４グリッドの壁北面に確認された第18号ピットは，細めの丸太を半截した木杭が遺存し，上端が第Ｉb 層に覆われていたことから空襲前に埋め込まれていたと思われる。なお，1B －４グリッドの壁南面に確認された第27号と第28号ピット，第29号と第30号ピット，第31号と第32号ピット，1B －３グリッドの壁南面に確認された第33号と第34号ピットはそれぞれ重複が認められ，関連する施設の柱穴であった可能性をもつ。さらに，第27号と第29号ピット，第28号と第30号ピットは類似の形状・覆土であることから同一施設の柱穴と推察される。また，先行する第28号と第30号ピットは先端（下）が細くなることから打ち込みであった可能性が高い。残念ながらいずれも土層断面での確認であり，多くは語れない。



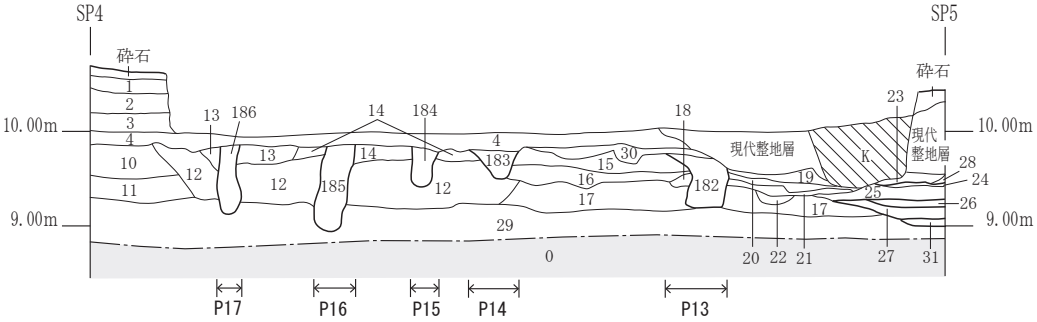
第１号井戸跡（SE-１）

１．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性ややあり，灰黄色土（2.5Y7/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，褐色土（7.5YR4/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 30 ㎜）3%含む
２．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い，灰黄色土（2.5Y7/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）15%，CR・B（1 ～ 30 ㎜）8%，SR・B（1 ～ 15 ㎜）3%含む。陶磁器，ガラス瓶，瓦等を包含している（昭和 20 年空襲の焦土）
３．灰色土（5Y6/1）　締まりあり，粘性やや弱い，灰白色土（7.5Y8/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%，小礫（3 ～ 10 ㎜）2%含む
４．灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性あり，小礫（3 ～ 80 ㎜）2%含む
５．にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 25 ㎜）2%含む
６．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 10 ㎜）2%含む
７．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）3%，小礫（3 ～ 15 ㎜）2%含む
８．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%，小礫（3 ～ 30 ㎜）微量含む
９．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，赤色土（10R4/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）2%，小礫（3 ～ 20 ㎜）1%含む
10．黄灰色土（2.5Y5/1）　締まり・粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R（1 ～ 5 ㎜）・小礫（3 ～ 15 ㎜）各 3%含む，上層との境に明赤褐色土（5YR5/8）10 ㎜程の層（鉄分酸化の層）
11．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，CR（1 ～ 5 ㎜）2%，小礫（3 ～ 20 ㎜）5%含む
12．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/6）R（1 ～ 5 ㎜）・明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）各微量含む
13．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）30%，浅黄色土（2.5Y7/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%含む
14．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，CR（1 ～ 5 ㎜）微量，小礫（3 ～ 30 ㎜）10%含む
15．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，灰白色土（10YR8/2）R（1 ～ 5 ㎜）・小礫（3 ～ 20 ㎜）各 2%含む
16．灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）・CR・B（1 ～ 30 ㎜）各 2%，小礫（3 ～ 80 ㎜）5%含む
17．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）3%含む
18．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/3）R（1 ～ 5 ㎜）2%含む
19．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/6）R（1 ～ 5 ㎜）・明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）各 3%含む

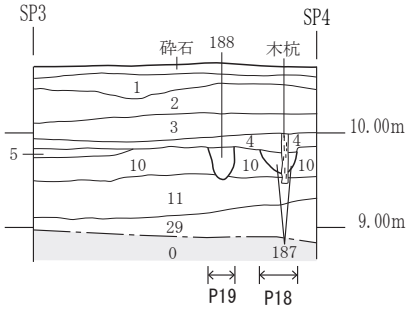
第６図　第１号井戸跡



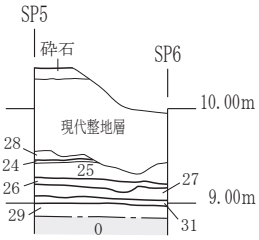
第７図　第５号性格不明遺構



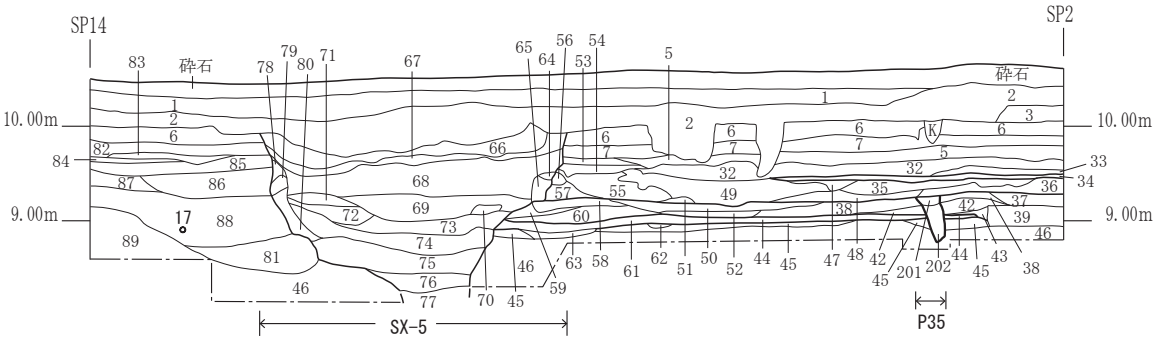
調査区外周壁（東面）



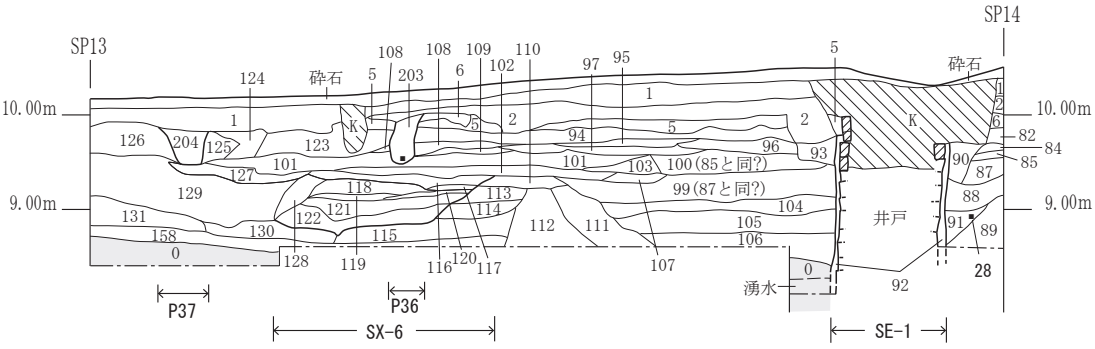
調査区外周壁（北面東端）



調査区外周壁（南面東端）



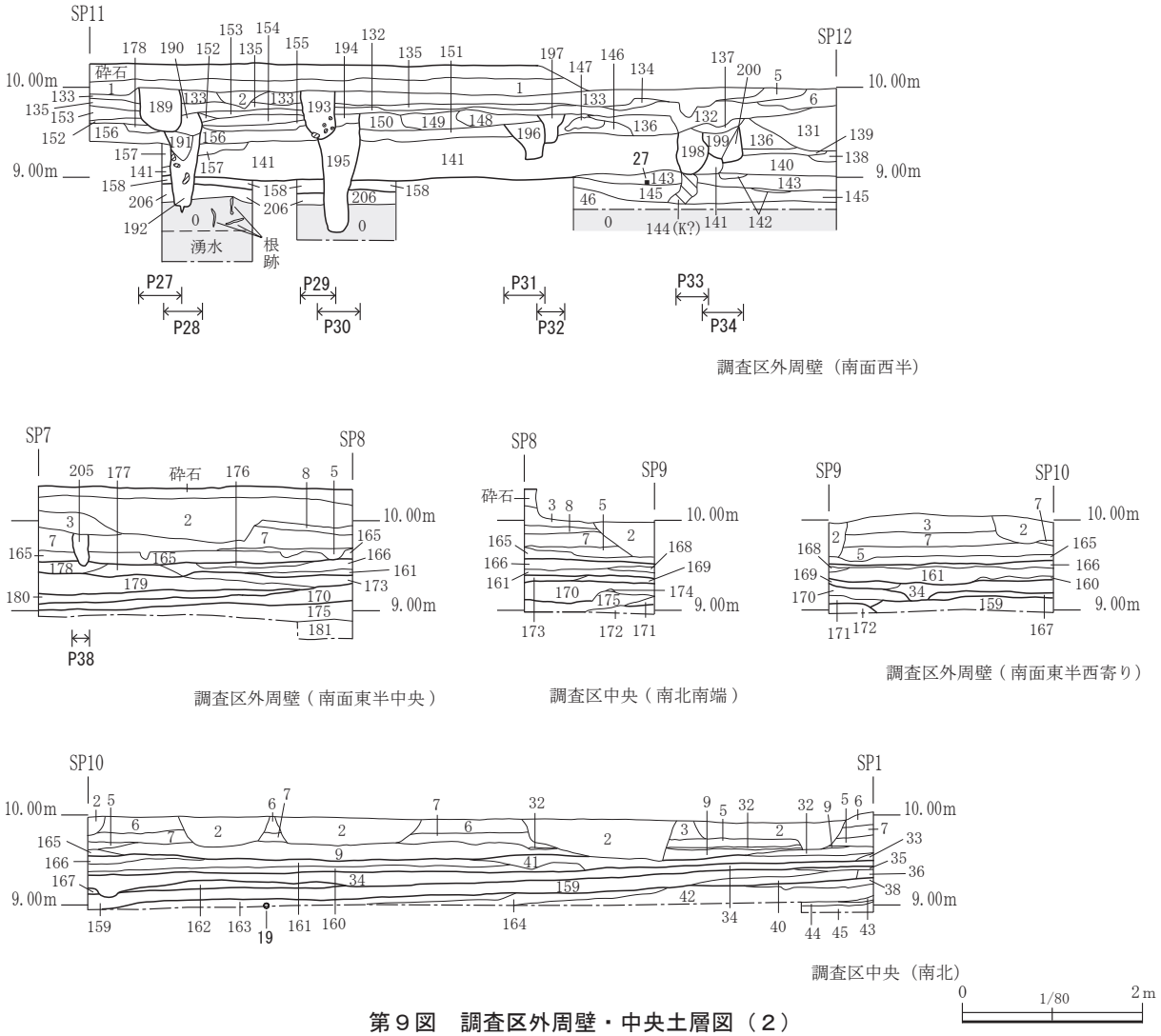
調査区外周壁（北面西半）



調査区外周壁（西面）

0　1/80　2m

第８図　調査区外周壁土層図（１）



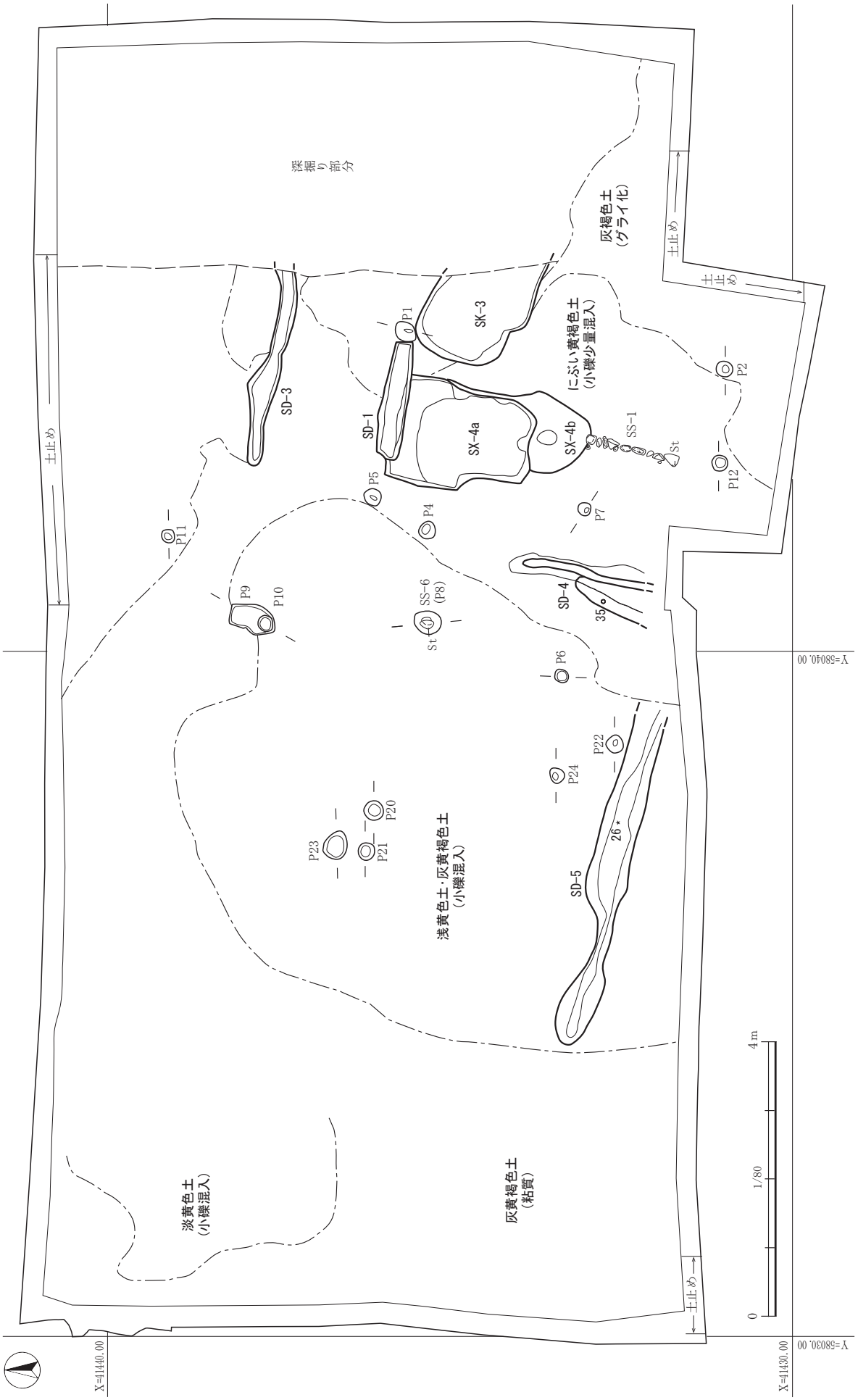
第９図　調査区外周壁・中央土層図（２）

調査区外周壁・中央（南北）土層

1．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性ややあり，灰黄色土（2.5Y7/2）R・B（1～30㎜）20%，褐色土（7.5YR4/6）R（1～5㎜）5%，小礫（3～30㎜）3%含む
2．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性弱い，灰黄色土（2.5Y7/2）R・B（1～40㎜）15%，CR・B（1～30㎜）8%，SR・B（1～15㎜）3%含む。陶磁器，ガラス瓶，瓦等を包含している（S20年空襲の焦土）
3．褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性あり，小礫（3～50㎜）5%含む
4．灰オリーブ色土（5Y6/2）　締まりあり，粘性ややあり，小礫（3～30㎜）3%含む
5．灰色土（5Y6/1）　締まりあり，粘性やや弱い，灰白色土（7.5Y8/2）R・B（1～15㎜）10%，小礫（3～10㎜）2%含む
6．灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性あり，小礫（3～80㎜）2%含む
7．明褐色土（7.5YR5/6）　締まり・粘性あり，灰白色土（7.5Y8/2）R・B（1～100㎜）30%，小礫（2～30㎜）3%含む
8．浅黄色土（2.5Y7/4）　締まりあり，粘性強い，小礫（3～30㎜）20%含む
9．浅黄色土（2.5Y7/4）　締まり強い，粘性あり，砂質粘土，小礫（3～20㎜）15%含む
10．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，灰色土（5Y6/1）R・B（1～30㎜）20%，小礫（3～10㎜）3%含む
11．黄灰色土（2.5Y4/1）　締まり・粘性あり，灰色土（5Y6/1）R・B（1～40㎜）30%，小礫（3～8㎜）2%含む
12．灰褐色土（7.5YR4/2）　締まり・粘性あり，小礫（2～5㎜）2%，SR（1～3㎜）1%，CR（1～3㎜）微量含む
13．灰褐色土（7.5YR5/2）　締まり・粘性あり，小礫（1～5㎜）1%，SR・CR（1～3㎜）各微量含む
14．灰褐色土（7.5YR5/2）　締まり・粘性あり，小礫（3～10㎜）3%含む
15．黒褐色土（7.5YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）10%含む
16．明黄褐色土（10YR7/6）　締まり・粘性あり，LR・B（1～30㎜）主体，黒褐色土（7.5YR3/2）R・B（1～30㎜）35%含む
17．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1～20㎜）10%含む
18．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R（1～5㎜）15%含む
19．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1～30㎜）30%，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1～30㎜）15%，小礫（3～15㎜）2%含む
20．にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まり・粘性あり，黄橙色土（10YR8/6）R・B（1～20㎜）・灰黄色土（2.5Y6/2）R・B（1～30㎜）各15%，灰白色土（2.5Y8/2）R・B（1～15㎜）2%含む
21．暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1～20㎜）15%，灰白色土（2.5Y8/2）R（1～5㎜）5%含む
22．にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まり・粘性あり，灰白色土（2.5Y8/2）R・B（1～15㎜）5%含む
23．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1～20㎜）3%含む
24．淡黄色土（2.5Y8/4）　締まり強い，粘性ややあり，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1～20㎜）25%含む
25．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1～30㎜）15%，小礫（3～25㎜）1%含む
26．明黄褐色土（10YR6/6）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1～20㎜）15%含む
27．灰褐色土（7.5YR6/2）　締まり強い，粘性あり，褐灰色土（7.5YR6/1）R・B（1～30㎜）20%含む
28．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1～20㎜）20%含む
29．黒色土（10YR2/1）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1～30㎜）5%，酸化による赤褐色土（2.5YR4/6）R・B（1～15㎜）2%含む
30．にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まり・粘性ややあり，砂質，浅黄橙色土（10YR8/4）R・B（1～20㎜）10%，小礫（3～50㎜）5%含む
31．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，暗褐色土（10YR3/4）R・B（1～20㎜）15%含む
32．褐灰色土（10YR4/1）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1～15㎜）20%，灰色土（5Y6/1）R・B（1～30㎜）5%，小礫（3～10㎜）2%含む
33．灰オリーブ（5Y6/2）　締まり・粘性あり，灰黄色土（2.5Y6/2）R・B（1～20㎜）10%，明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1～15㎜）3%含む
34．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，小礫（3～5㎜）3%含む

35. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1 ～ 15 ㎜）15％含む
36. 褐灰色土（10YR4/1）　締まり･粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R（1 ～ 5 ㎜）15％含む
37. 暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％，小礫（3 ～ 20 ㎜）3％，部分的に暗赤褐色土（5YR4/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％含む
38. 褐灰色土（10YR4/1）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）10％，小礫（1 ～ 30 ㎜）5％含む
39. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）3％含む
40. 褐灰色土（7.5YR4/1）　締まり･粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）30％，小礫（3 ～ 10 ㎜）5％含む
41. 明赤褐色土（5YR5/6）　締まりあり，粘性なし，砂礫層（1 ～ 150 ㎜）
42. 褐灰色土（10YR4/1）　締まりあり，粘性弱い，にぶい黄色土（2.5Y6/3）R･B（1 ～ 40 ㎜）30％，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1 ～ 40 ㎜）5％含む
43. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/3）R･B（1 ～ 20 ㎜）20％含む
44. 褐灰色土（10YR4/1）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1 ～ 20 ㎜）25％含む
45. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）15％が層の上位に集中して見られる
46. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり ・粘性あり，赤褐色土（2.5YR4/8）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％含む
47. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり強い，粘性あり，にぶい橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）25％含む
48. 暗赤褐色土（5YR3/3）　締まり･粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％，灰褐色土（7.5YR4/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）5％含む
49. 橙色土（7.5YR7/6）　締まり･粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R･B（1 ～ 50 ㎜）20％，灰褐色土（7.5YR5/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％含む
50. 灰褐色土（7.5YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R･B（1 ～ 30 ㎜）25％含む
51. 明黄褐色土（10YR7/6）　締まり･粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）15％含む
52. 明黄褐色土（10YR6/6）　締まり･粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）10％含む
53. にぶい黄橙色土（10YR7/3）　締まり･粘性あり，黄橙色土（10YR8/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）25％，小礫（3 ～ 20 ㎜）2％含む
54. 黄橙色土（10YR8/6）　締まり･粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）30％，小礫（3 ～ 40 ㎜）5％含む
55. にぶい黄褐色土（10YR4/2）　締まり･粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR4/3）R･B（1 ～ 20 ㎜）5％含む
56. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり
57. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，黒褐色土（10YR3/1）R･B（1 ～ 40 ㎜）20％含む
58. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）10％，小礫（3 ～ 30 ㎜）2％含む
59. にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％含む
60. 明黄褐色土（10YR7/6）　締まり･粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）25％，小礫（3 ～ 15 ㎜）2％含む
61. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）8％含む
62. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）20％含む
63. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）15％含む
64. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）微量含む。（SX-5）
65. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）･明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）各 15％含む。（SX-5）
66. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）3％，小礫（3 ～ 80 ㎜）5％含む。（SX-5）
67. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 40 ㎜）20％，浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％，小礫（3 ～ 20 ㎜）微量含む。（SX-5）
68. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 30 ㎜）25％，褐灰色土（10YR5/1）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％，小礫（3 ～ 30 ㎜）8％含む。（SX-5）
69. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）20％，小礫（3 ～ 80 ㎜）3％含む。（SX-5）
70. 暗青灰色土（5B4/1）　締まりあり，粘性ややあり，青灰色土（5B6/1）R･B（1 ～ 15 ㎜）15％，小礫（3 ～ 20 ㎜）微量含む。（SX-5）
71. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）15％，小礫（3 ～ 20 ㎜）2％含む。（SX-5）
72. 青灰色土（5B5/1）　締まり･粘性ややあり，灰白色土（10Y7/2）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％，赤褐色土（5YR4/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％，小礫（3 ～ 20 ㎜）3％含む。（SX-5）
73. 褐色土（7.5YR4/4）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）10％，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％，小礫（3 ～ 10 ㎜）2％含む。（SX-5）
74. 暗青灰色土（5B4/1）　締まり･粘性あり，灰白色土（10Y8/2）R･B（1 ～ 130 ㎜）20％，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1 ～ 30 ㎜）･小礫（3 ～ 30 ㎜）各 5％含む（遺物を多く包含する：SX-5）
75. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1 ～ 15 ㎜）微量含む。（SX-5）
76. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1 ～ 20 ㎜）20％含む。（SX-5）
77. 暗褐色土（10YR3/4）　締まり･粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1 ～ 20 ㎜）3％含む。（SX-5）
78. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）20％含む。（SX-5）
78. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）20％含む。（SX-5）
79. 灰白色土（5Y7/2）　締まりあり，粘性強い，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1 ～ 15 ㎜）15％，小礫（3 ～ 10 ㎜）微量含む。（SX-5）
80. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R･B（1 ～ 30 ㎜）15％，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 10 ㎜）･小礫（3 ～ 30 ㎜）各 5％含む。（SX-5）
81. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり･粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％含む
82. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％，小礫（3 ～ 25 ㎜）2％含む
83. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり，黄橙色土（10YR8/6）R･B（1 ～ 30 ㎜）30％，小礫（3 ～ 50 ㎜）5％含む
84. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％，小礫（3 ～ 10 ㎜）2％含む
85. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）3％，小礫（3 ～ 15 ㎜）2％含む
86. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）3％，小礫（3 ～ 70 ㎜）40％含む
87. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）8％，小礫（3 ～ 30 ㎜）微量含む
88. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％，赤色土（10R4/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）2％，小礫（3 ～ 20 ㎜）1％含む
89. 黄灰色土（2.5Y5/1）　締まり･粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R（1 ～ 5 ㎜）･小礫（3 ～ 15 ㎜）各 3％含む，上層との境に明赤褐色土（5YR5/8）10 ㎜程の層（鉄分酸化の層）
90. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％，CR（1 ～ 5 ㎜）2％，小礫（3 ～ 20 ㎜）5％含む
91. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，赤褐色土（5YR4/6）R（1 ～ 5 ㎜）･明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）各微量含む
92. にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）30％，浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）10％含む。（SE-1）
93. にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％，CR（1 ～ 5 ㎜）微量，小礫（3 ～ 30 ㎜）10％含む
94. にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％，赤褐色土（5YR4/8）R･B（1 ～ 15 ㎜）3％，明赤褐色土（2.5YR5/6）R（1 ～ 5 ㎜）･CR（1 ～ 5 ㎜）各微量，小礫（3 ～ 20 ㎜）2％含む
95. 浅黄橙色土（10YR8/4）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）30％含む
96. にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％，小礫（3 ～ 30 ㎜）3％含む
97. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり･粘性あり，小礫（3 ～ 30 ㎜）2％含む
98. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）5％含む
99. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％，灰白色土（10YR8/2）R（1 ～ 5 ㎜）･小礫（3 ～ 20 ㎜）各 2％含む
100. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり･粘性あり，CR･B（1 ～ 30 ㎜）・明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）各 2％，小礫（3 ～ 80 ㎜）5％含む
101. にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まりあり，粘性弱い，砂質，小礫（3 ～ 40 ㎜）40％含む
102. 灰黄色土（2.5Y7/2）　締まりあり，粘性弱い，砂質，淡黄色土（2.5Y8/3）R･B（1 ～ 50 ㎜）25％，小礫（3 ～ 100 ㎜）30％含む
103. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，小礫（3 ～ 50 ㎜）25％含む
104. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）3％含む
105. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/3）R（1 ～ 5 ㎜）2％含む
106. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，赤褐色土（5YR4/6）R（1 ～ 5 ㎜）･明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）各 3％含む
107. にぶい黄色土（2.5Y6/4）　締まりあり，粘性弱い，砂質，小礫（3 ～ 30 ㎜）20％含む
108. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まり･粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％，小礫（3 ～ 30 ㎜）5％含む
109. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）10％含む
110. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり･粘性あり，灰黄褐色土（10YR6/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）30％，赤褐色土（5YR8/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）5％含む
111. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり･粘性あり，赤褐色土（5YR8/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）10％，小礫（3 ～ 80 ㎜）2％含む
112. にぶい黄色土（2.5Y6/4）　締まり･粘性あり，やや砂質，赤褐色土（5YR8/4）R･B（1 ～ 20 ㎜）15％含む
113. 暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり･粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R･B（1 ～ 20 ㎜）5％，にぶい黄色土（2.5Y6/4）R（1 ～ 5 ㎜）2％含む
114. 暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり･粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R･B（1 ～ 30 ㎜）30％，浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％含む
115. 灰黄色土（2.5Y6/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（2.5Y7/6）R（1 ～ 5 ㎜）3％含む
116. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり･粘性あり，にぶい褐色土（7.5YR5/4）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％含む。（SX-6）
117. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まりあり，粘性弱い，砂質，小礫（3 ～ 10 ㎜）15％含む。（SX-6）
118. 灰黄色土（2.5Y6/2）　締まり･粘性あり，黄灰色土（2.5Y5/1）R･B（1 ～ 30 ㎜）20％含む。（SX-6）
119. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％含む。（SX-6）
120. 浅黄色土（2.5Y7/4）　締まり･粘性ややあり，灰白色土（2.5Y7/2）R･B（1 ～ 15 ㎜）5％，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1 ～ 20 ㎜）8％含む。（SX-6）

121. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R（1 ～ 5 ㎜）8%，小礫（3 ～ 20 ㎜）2%含む。（SX-6）
122. 褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性あり，褐灰色土（10YR5/1）R・B（1 ～ 50 ㎜）30%，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%含む。（SX-6）
123. にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締まりあり，粘性強い，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，小礫（3 ～ 20 ㎜）3%含む
124. にぶい黄橙色土（10YR7/2）　締まりあり，粘性強い，明橙色土（10YR8/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）・小礫（3 ～ 50 ㎜）各 5%含む
125. にぶい黄橙色土（10YR7/3）　締まりあり，粘性強い，明黄橙色土（10YR8/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，小礫（3 ～ 30 ㎜）3%含む
126. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まりあり，粘性強い，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，小礫（3 ～ 60 ㎜）10%含む
127. 褐灰色土（7.5Y5/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%含む
128. 褐灰色土（10YR6/1）　締まりあり，粘性強い，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）30%，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，CR・B（1 ～ 15 ㎜）微量，小礫（3 ～ 20 ㎜）2%含む。（SX-6）
129. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，黄橙色土（10YR8/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）・明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）各 10%，CR・B（1 ～ 20 ㎜）微量，小礫（3 ～ 40 ㎜）15%含む
130. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりあり，粘性強い，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）25%，小礫（3 ～ 80 ㎜）2%含む
131. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）微量含む
132. にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）20%，小礫（3 ～ 100 ㎜）3%含む
133. 灰白色土（10Y8/2）　締まりあり，粘性強い，明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）20%含む
134. 灰白色土（10Y7/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，小礫（3 ～ 150 ㎜）3%含む
135. 褐灰色土（7.5YR6/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%，小礫（3 ～ 20 ㎜）3%含む
136. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）10%，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%，小礫（3 ～ 30 ㎜）1%含む
137. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR6/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%，にぶい黄橙色土（10YR4/7）R（1 ～ 5 ㎜）3%含む
138. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり弱い，粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR5/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）20%含む
139. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まりあり，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む
140. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%，小礫（3 ～ 30 ㎜）2%含む
141. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）30%，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，小礫（3 ～ 30 ㎜）5%含む
142. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）15%含む
143. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）3%，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）10%含む
144. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む
145. 灰黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%含む
146. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%含む
147. にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まり・粘性ややあり，灰白色土（10Y8/1）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む，147 がブロック状に 146 の中に所在する
148. 浅黄色土（2.5Y7/4）　締まりあり，粘性弱い，明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，灰白色土（10Y8/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%含む
149. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%，小礫（3 ～ 20 ㎜）3%含む
150. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，暗褐色土（10YR3/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）25%，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む
151. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%含む
152. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）20%含む
153. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まりあり，粘性弱い，砂質，小礫（3 ～ 80 ㎜）30%含む
154. 明黄褐色土（2.5Y7/6）　締まり・粘性あり，にぶい黄色土（2.5Y6/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）35%含む
155. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR4/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）30%，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）10%含む
156. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%，小礫（3 ～ 80 ㎜）3%含む
157. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性ややあり，淡黄色土（5Y8/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）2%含む
158. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%含む
159. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%含む
160. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%，SR（1 ～ 5 ㎜）2%含む
161. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）10%含む
162. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，灰白色土（5Y8/1）R・B（1 ～ 15 ㎜）3%含む
163. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強い，粘性あり
164. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，小礫（3 ～ 15 ㎜）3%含む
165. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）の薄い層状の堆積（3 ～ 10 ㎜）が複数認められる
166. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%含む
167. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%含む
168. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，灰白色土（10YR8/2）R（1 ～ 3 ㎜）5%含む
169. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）3%，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%含む
170. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）2%含む
171. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R（1 ～ 5 ㎜）7%含む
172. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり強い，粘性あり，上部に厚さ 10 ㎜程のにぶい黄褐色土（10YR6/6）による硬化面（層）を認める
173. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり強い，粘性あり，上部に厚さ 10 ㎜程のにぶい黄褐色土（10YR5/4）の層あり
174. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）20%含む
175. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）3%含む
176. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，浅黄色土（5YR7/4）が厚さ 3 ～ 10 ㎜の層状に認められる
177. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）30%，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%含む
178. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，浅黄色土（5Y7/4）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む
179. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）30%，暗褐色土（10YR3/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）10%含む
180. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む
181. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり強い，粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%含む
182. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり弱い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，小礫（3 ～ 60 ㎜）3%含む。（P13）
183. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR6/4）R（1 ～ 5 ㎜）2%含む。（P14）
184. 褐灰色土（10YR5/1）　締まり弱い，粘性ややあり，浅黄橙色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）40%，小礫（3 ～ 40 ㎜）3%含む。（P15）
185. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，褐灰色土（7.5YR4/1）R・B（1 ～ 30 ㎜）30%，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，小礫（3 ～ 10 ㎜）3%含む。（P16）
186. にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり弱い，粘性ややあり，褐灰色土（10YR4/1）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 40 ㎜）15%，小礫（3 ～ 40 ㎜）5%含む。（P17）
187. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，浅黄色土（5Y7/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，小礫（3 ～ 20 ㎜）8%含む。（P18）
188. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，浅黄色土（5Y7/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）・小礫（3 ～ 100 ㎜）各 15%含む。（P19）
189. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まり・粘性あり，灰白色土（10Y8/1）R・B（1 ～ 50 ㎜）15%，橙色土（5YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）2%，小礫（3 ～ 80 ㎜）5%含む。（P27）
190. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）40%，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）2%，小礫（3 ～ 40 ㎜）3%含む。（P28）
191. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%含む。（P28）
192. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）15%，淡黄色土（2.5Y8/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，小礫（3 ～ 130 ㎜）10%含む。（P28）
193. にぶい黄橙色土（10YR6/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%，CR・SR（1 ～ 5 ㎜）各微量，小礫（3 ～ 80 ㎜）10%含む。（P29）
194. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む。（P30）
195. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%含む。（P30）
196. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり弱い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，にぶい黄褐色土（10YR4/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）10%含む。（P31）
197. 灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）・明黄褐色土（2.5Y7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）各 10%含む。（P32）
198. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり弱い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む。（P33）
199. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R（1 ～ 5 ㎜）8%含む。（P34）
200. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR6/2）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%含む。（P34）
201. 黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%含む。（P35）
202. 黒褐色土（10YR3/1）　締まり強い，粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R（1 ～ 5 ㎜）10%含む。（P35）
203. にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性ややあり，SR・B（1 ～ 30 ㎜）15%，CR・B（1 ～ 30 ㎜）10%，小礫（3 ～ 20 ㎜）5%含む，（昭和 20 年 8 月以降）。（P36）
204. 灰黄褐色土（10YR6/2）　締まりあり，粘性強い，明黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）5%，CR（1 ～ 5 ㎜）2%，小礫（3 ～ 100 ㎜）8%含む。（P37）
205. にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む。（P38）
206. 灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）20%含む



第10図　近世上層遺構配置図

第３節　近世上層の遺構と遺物

１．概要

今次調査の主眼である第Ⅳ層上面で確認された遺構である。確認された遺構は，土坑１基（SK －３），溝状遺構４条（SD －１・３～５），性格不明遺構２基（SX －4a・4b），配石遺構１基（SS －１），礎石跡１基（SS －６（Ｐ８）），ピット計15基（Ｐ１・２・４～７・９～12・20～24）等である。また，出土遺物は非常に少なく，該期のものは極僅かであった。

２．土坑

第３号土坑（SK －３）（第10・11図，第４・７表，写真図版３）

1C －１～４グリッドに跨がって位置する。規模・形状は，南東部が失われていて明確にし難い。現存北西・南東長約190㎝，南西・北東長は約130～140㎝の不整長方形で，長軸方位はＮ－60°－Ｗを示す。壁はほぼ直立し，深さ32㎝。覆土は５層に分層され，人為的埋没と思われる。

遺物は土師器・須恵器の細片が各１点出土したが，図示し得るものはなかった。

３．溝状遺構

第１号溝状遺構（SD －１）（第10・12・25図，第５・７表，写真図版３）

1C －１グリッドに位置する。第4a 号性格不明遺構と重複しこれを切る。規模・形状は，長さ172㎝，幅約25～40㎝の東西に延びる溝状で，主軸方位はＮ－80°－Ｗを示す。深さ８㎝で，壁はやや外傾する。覆土は２層である。

遺物は土師質土器カワラケの細片が２点出土したが，図示し得るものはなかった。

第３号溝状遺構（SD －３）（第10・13図，第５・７表，写真図版３）

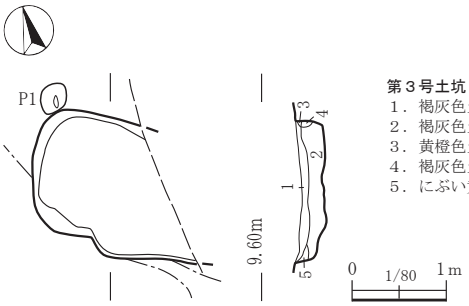
1C －１・２グリッドに位置する。東端が失われており，本来の規模・形状は明確にし難い。現存の東西長約290㎝，幅約30～42㎝の溝状で，主軸方位はＮ－75°30”－Ｗを示す。壁はやや外傾し，深さ11㎝，覆土は単層であった。

遺物は土師器の細片が１点出土したが，図示し得なかった。

第４号溝状遺構（SD －４）（第10・14・25・30図，第３・５・７表，写真図版３）

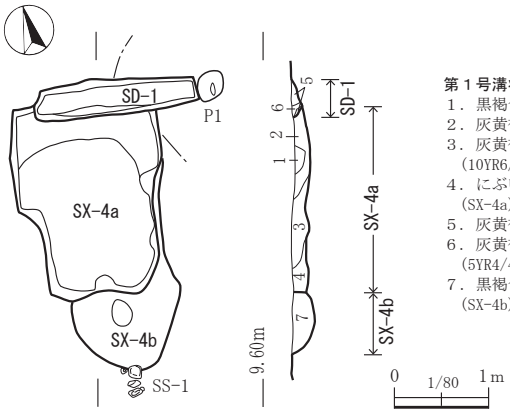
1C －３グリッドに位置し，南は調査区外に延びる。また，東に接して，幅23㎝，長さ約240㎝，高さ５㎝の低い凸帯が沿うように延びる。前記の状況から，本来の規模・形状は明確にし難い。現存長117㎝，幅約20～50㎝，南に向かってやや広がる溝状で，主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。壁は外傾し，深さ約５～13㎝，南に向かって緩やかに下降する。覆土は単層である。

遺物は覆土中より，土師質土器の内耳土鍋細片（35）が１点出土したのみである。



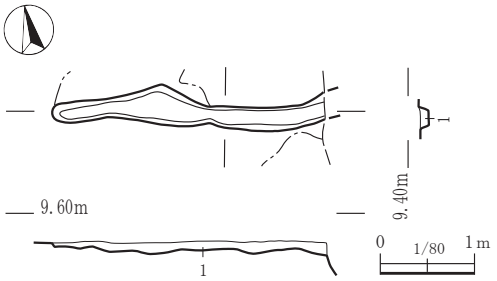
第３号土坑（SK-３）
１．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）10％含む
２．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％含む
３．黄橙色土（10YR7/8）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）30％含む
４．褐灰色土（7.5YR4/2）　締まり・粘性あり
５．にぶい黄橙色土（10YR7/4）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）20％含む

第 11 図　第３号土坑



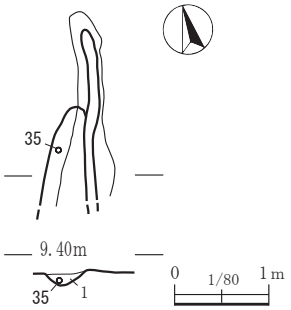
第１号溝状遺構（SD-１），第 4a・4b 号性格不明遺構（SX-4a・4b）
１．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 10 ㎜）15％含む。（SX-4a）
２．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 10 ㎜）8％含む。（SX-4a）
３．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）20％，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）5％含む。（SX-4a）
４．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）10％含む。（SX-4a）
５．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい赤褐色土（5YR4/4）R（1 ～ 2 ㎜）5％含む。（SD-1）
６．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R（1 ～ 5 ㎜）3％，にぶい赤褐色土（5YR4/4）R（1 ～ 3 ㎜）5％含む。（SD-1）
７．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 80 ㎜）30％含む。（SX-4b）

第 12 図　第１号溝状遺構，第 4a・4b 号性格不明遺構



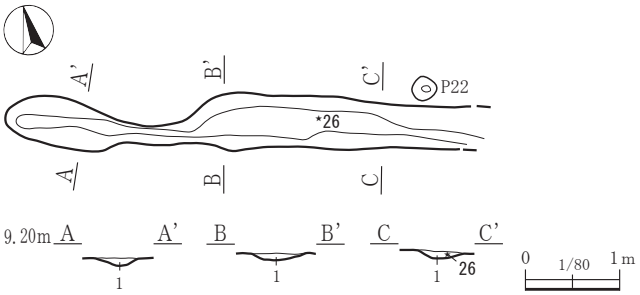
第３号溝状遺構（SD-３）
１．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/6）R（1 ～ 5 ㎜）3％含む

第 13 図　第３号溝状遺構



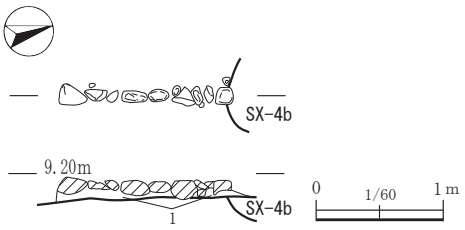
第４号溝状遺構（SD-４）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）15％含む

第 14 図　第４号溝状遺構



第５号溝状遺構（SD-５）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）10％含む

第 15 図　第５号溝状遺構



第１号配石遺構（SS-１）
１．黒褐色土（10YR3/2）　締まりあり，粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）10％，小礫（3 ～ 10 ㎜）3％含む

第 16 図　第１号配石遺構

第５号溝状遺構（SD －５）（第10・15・26・27・29図，第３・５・７表，写真図版３）

1B －３・４グリッドに所在し，東側は調査区外に延びていたと思われるが判然としない。したがって，本来の規模・形状は明確にし難い。現存の東西長約510㎝，幅約45 ～ 51㎝の溝状で，主軸方位はＮ－75°－Ｗを示す。深さ約５～８㎝，壁及び底面は丸味を帯びる。覆土は単層であった。

遺物は覆土中より，不明の鉄片が１点（26）出土したのみである。

４．性格不明遺構

第4a 号性格不明遺構（SX －4a）（第10・12・25図，第４・７表，写真図版３）

1C －１・３グリッドに所在する。北が第１号溝状遺構に切られ，南は第4b 号性格不明遺構を切る。規模・形状は，南北長約210㎝，東西長約120 ～ 160㎝の不整長方形で，長軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。深さ16㎝で壁はやや外傾し，底面は中央に向かって緩やかに下降する。覆土は４層に分層され，人為的埋没と考えられる。

遺物は陶器と須恵器坏の細片が各１点出土したが，図示し得るものはなかった。

第4b 号性格不明遺構（SX －4b）（第10・12図，第４表）

1C －３グリッドに所在し，北側は第4a 号性格不明遺構に切られていた。前記の状況から本来の規模・形状は明確にし難い。現存の南北長110㎝，東西長115㎝の不整円形と推定される。深さ28㎝，壁は大きく外傾し，断面は擂鉢状。覆土は単層で，人為的埋没。

遺物の出土はなかった。

５．配石遺構及び礎石跡

第１号配石遺構（SS －１）（第10・16図，第４表，写真図版３）

1C －３グリッドに所在する。長さ132㎝の直線状に径約４～ 23㎝の礫を並べたもので，主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。確認面の第Ⅳ層上面に認められたが，設置する為の掘り込み等は見られなかった。

遺物の出土はなかった。

第５号礎石跡（SS －６（Ｐ８））（第10・17図，第４表，写真図版４）

1C －１グリッドに所在する。規模・形状は，径約40×32㎝の楕円形で，開口部に径13×20㎝の礫があり，ピット内にも径10㎝程の小礫が数点詰められていた。深さは約20㎝で，覆土は２層に分層される。掘立柱式から礎石立へ，変更かと推察される。

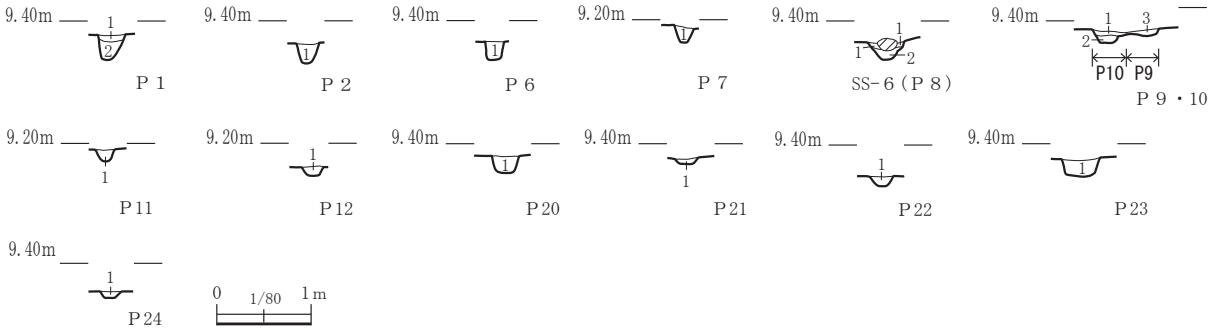
遺物の出土はなかった。

６．ピット類

第１・２・４～７・９～ 12・20 ～ 24号ピット（Ｐ１・２・４～７・９～ 12・20 ～ 24）（第10・17・25・27図，第６表，写真図版４）

調査区内より確認された該期のピットは計15基である。長径約20 ～ 43㎝の円形が主体で，不整方・円形が各１基見られたのみである。深さは８～ 29㎝と様々で，25㎝以上の

ものは僅かに４基で，浅いものが多い。これらは，いずれも遺物の出土がなく，時期の特定はできない。また，同一面で確認されたが深度の違い等から同時併存とは考え難く，建物跡として捉えることもできなかった。しかし，人為的な整地（硬化）面で確認されたことから，何らかの構造物を構成していたと推察される。



第１号ピット（Ｐ１）
１．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/3）R（1～5㎜）20%，褐色土（7.5YR7/4）R（1～5㎜）10%含む
２．灰黄色土（2.5Y6/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（2.5Y7/6）R（1～5㎜）15%，灰色土（7.5Y6/1）R・B（1～15㎜）10%，小礫（3～80㎜）2%含む

第２号ピット（Ｐ２）
１．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，黄橙色土（10YR8/6）R（1～5㎜）15%，黒褐色土（10YR3/1）R・B（1～15㎜）10%，小礫（3～80㎜）3%含む

第６号ピット（Ｐ６）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1～20㎜）10%含む

第７号ピット（Ｐ７）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1～15㎜）15%含む

第５号礎石跡（SS-６（Ｐ８））
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1～15㎜）10%含む
２．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R（1～5㎜）15%含む

第９・10号ピット（Ｐ９・10）
１．黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/6）R（1～5㎜）3%含む。（P10）
２．暗褐色土（10YR3/4）　締まりあり，粘性ややあり，明赤褐色土（5YR5/6）R（1～5㎜）20%，小礫（3～15㎜）5%含む。（P10）
３．黒褐色土（10YR3/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/6）R（1～5㎜）5%，灰黄色土（2.5Y6/2）R（1～5㎜）3%含む。（P9）

第11号ピット（Ｐ11）
１．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，黄灰色土（2.5Y4/1）R・B（1～15㎜）15%含む

第12号ピット（Ｐ12）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄褐色土（10YR4/3）R・B（1～15㎜）10%含む

第20号ピット（Ｐ20）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1～60㎜）15%含む

第21号ピット（Ｐ21）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1～15㎜）10%含む

第22号ピット（Ｐ22）
１．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/4）R・B（1～15㎜）10%，小礫（3～20㎜）3%含む

第23号ピット（Ｐ23）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/4）R・B（1～15㎜）15%，小礫（3～60㎜）3%含む

第24号ピット（Ｐ24）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，黄橙色土（10YR7/8）R・B（1～20㎜）20%含む

第17図　第５号礎石跡，ピット土層図

第４節　近世下層の遺構と遺物

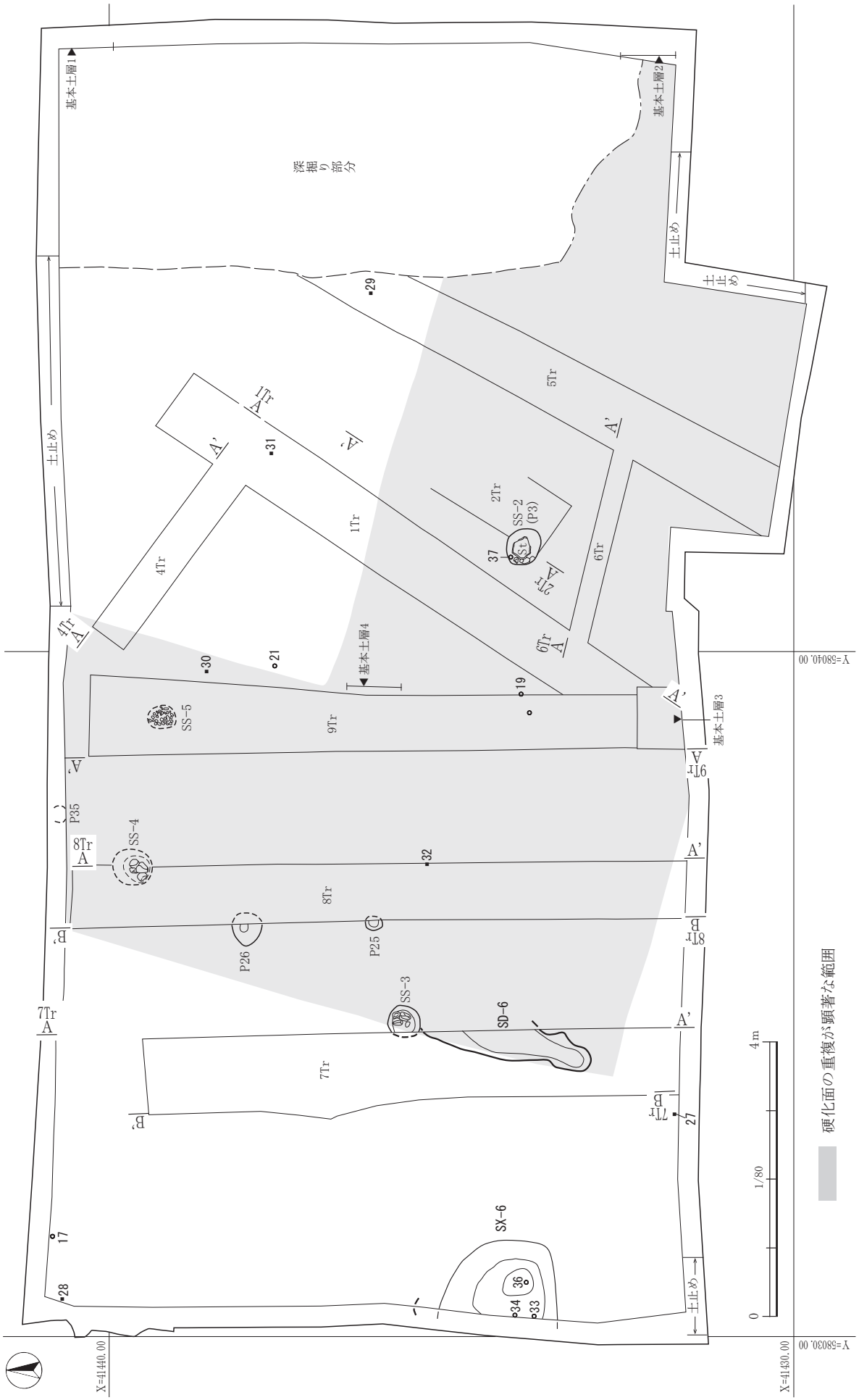
１．概要

前節で述べた第Ⅳ層上面での調査後，南西・北東方向及び南北方向のトレンチによって遺構の確認を行った。その結果，溝状遺構１条（SD－６），複数の整地面や礎石１基（SS-２（Ｐ３））及びその痕跡の根石３基（SS－３～５），ピット３基（Ｐ25・26・35）等が確認された。また，外周壁西面に接して性格不明遺構１基（SX－６）を確認した。遺物は，近世の遺物は僅かで，中世・古代のものが散見された。

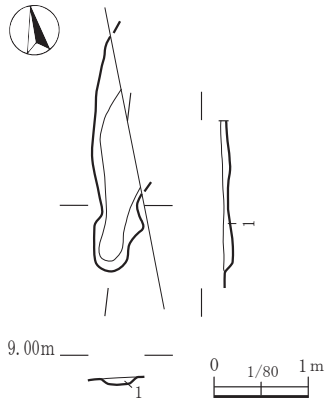
２．溝状遺構

第６号溝状遺構（SD－６）（第18・19・26図，第５表，写真図版４・５）

1B－１・３グリッドに所在し，北はさらに延びる。規模・形状は，現存長約190㎝，幅

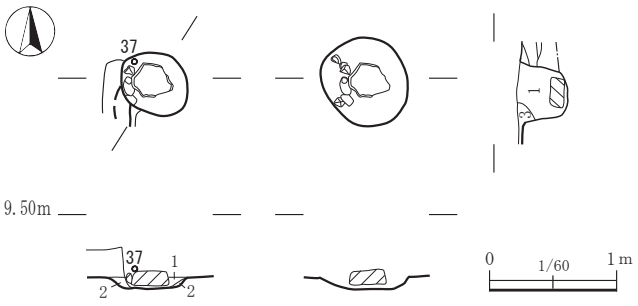


第 18 図　近世下層遺構配置図



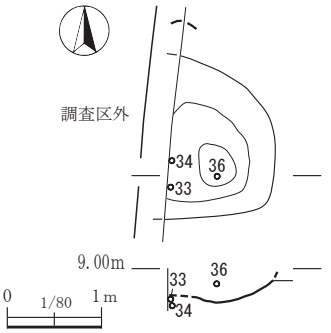
第６号溝状遺構（SD-６）
１．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%含む

第 19 図　第６号溝状遺構

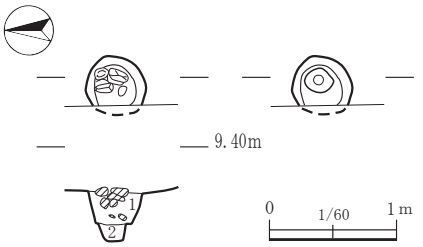


第１号礎石（SS-２（Ｐ３））
１．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 80 ㎜）・明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）各 10%含む
２．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）25%，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）15%含む
３．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）20%，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 80 ㎜）3%含む

第 21 図　第１号礎石

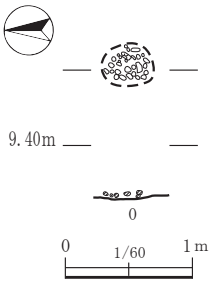


第 20 図　第６号性格不明遺構

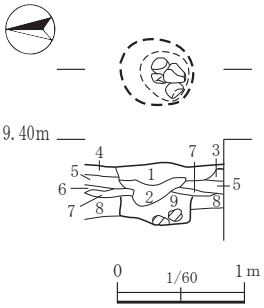


第２号礎石跡（SS-３）
１．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性ややあり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）・小礫（6 ～ 150 ㎜）各 15%，CR・B（1 ～ 40 ㎜）2%含む
２．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，浅黄橙色土（2.5Y7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）20%含む

第 22 図　第２号礎石跡



第 24 図　第４号礎石跡

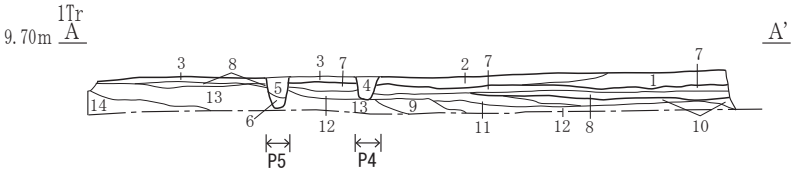


第３号礎石跡（SS-４）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）8%，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 40 ㎜）20%含む
２．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/8）R・B（1 ～ 20 ㎜）・明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）各 15%含む
３．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり強い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%含む
４．明黄褐色土（10YR6/6）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR4/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%含む
５．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 3 ㎜）15%含む
６．明黄褐色土（10YR7/6）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R・B（1 ～ 20 ㎜）30%含む
７．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）20%含む
８．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，赤褐色土（5YR4/8）R（1 ～ 5 ㎜）3%，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）20%含む（206）
９．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/8）R（1 ～ 5 ㎜）3%，灰白色土（10Y7/2）R（1 ～ 5 ㎜）微量含む

第 23 図　第３号礎石跡

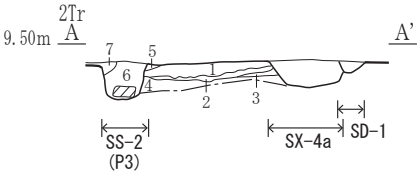
約47 ～ 50㎝で，主軸方位はＮ－15°－Ｅを示す。深さ約５～８㎝で上部は後の整地によって削平されたと判断される。覆土は単層で人為的埋没と考えられる。また，調査区外周壁北面西半に認められた，レンズ状堆積の第63層（第８図）が，位置及び覆土の状況から本跡の延長の可能性があり，調査区外に続くかもしれない。なお，本跡を境に東側は整地（硬化）面が多数認められるのに対し，西側はそれが緩慢であり，整地を行うにあたって目安とした可能性がある。

遺物の出土はなかった。



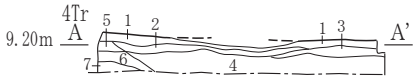
１Tr（東面）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性強い，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1 ～ 70 ㎜）20%，小礫（3 ～ 20 ㎜）5%含む
２．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性強い，にぶい黄橙色土（10YR6/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）15%含む
３．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性強い，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1 ～ 25 ㎜）20%，小礫（3 ～ 10 ㎜）5%含む
４．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%含む。（P4）
５．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%含む。（P5）
６．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R（1 ～ 5 ㎜）10%含む。（P5）
７．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 25 ㎜）20%，小礫（3 ～ 30 ㎜）5%含む
８．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%含む
９．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む
10．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）5%含む
11．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 3 ㎜）5%含む
12．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）8%含む
13．灰褐色土（5YR4/2）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R（1 ～ 3 ㎜）6%含む
14．黒色土（5Y2/1）　締まり・粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%含む

１Tr（東面）



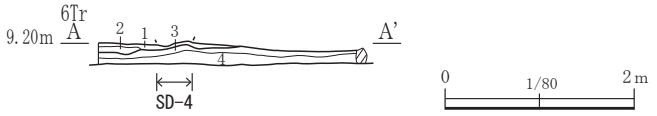
２Tr（西面）
１．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性強い，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 20 ㎜）25%，小礫（3 ～ 60 ㎜）3%含む
２．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性強い，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）10%含む。（硬化層）
３．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）20%含む
４．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）10%含む
５．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%含む
６．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり・粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 80 ㎜）・明黄褐色土（10YR7/6）R（1 ～ 5 ㎜）各 10%含む。（SS-2(P3)）
７．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1 ～ 5 ㎜）20%，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 80 ㎜）3%含む。（SS-2(P3)）

２Tr（西面）



４Tr（北東面）
１．黒褐色土（2.5Y3/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい赤褐色土（5YR5/4）R・B（1 ～ 30 ㎜）・浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 30 ㎜）各 3%，小礫（3 ～ 80 ㎜）5%含む
２．暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり・粘性あり，黄灰色土（2.5Y4/1）R・B（1 ～ 20 ㎜）10%含む
３．暗灰黄色土（2.5Y5/2）　締まり・粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 15 ㎜）5%含む
４．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，浅黄色土（2.5Y7/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）・小礫（3 ～ 20 ㎜）各 2%含む
５．にぶい赤褐色土（5YR5/4）　締まり・粘性ややあり，赤褐色土（5YR4/6）R・B（1 ～ 30 ㎜）20%，小礫（3 ～ 40 ㎜）10%含む
６．暗赤褐色土（5YR3/4）　締まり・粘性あり，褐灰色土（10YR5/1）R・B（1 ～ 40 ㎜）25%，小礫（3 ～ 80 ㎜）3%含む
７．褐灰色土（10YR5/1）　締まり・粘性あり，黒褐色土（10YR3/2）R・B（1 ～ 40 ㎜）30%含む

４Tr（北東面）



６Tr（北面）
１．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，淡黄色土（2.5Y8/4）R（1 ～ 5 ㎜）2%含む
２．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R・B（1 ～ 20 ㎜）15%，小礫（1 ～ 20 ㎜）8%含む
３．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）15%，小礫（3 ～ 10 ㎜）3%含む
４．黒褐色土（10YR3/2）　締まり・粘性ややあり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R・B（1 ～ 15 ㎜）10%，小礫（3 ～ 10 ㎜）3%含む

６Tr（北面）

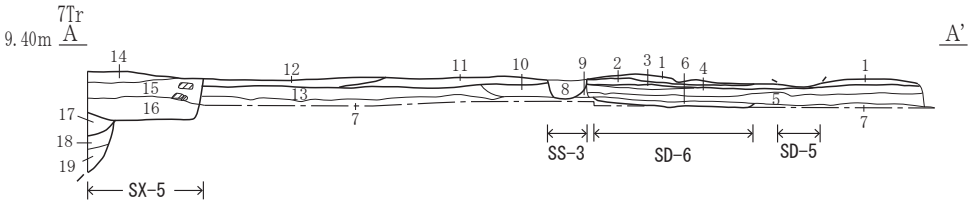
第 25 図　１・２・４・６トレンチ土層図

３．性格不明遺構

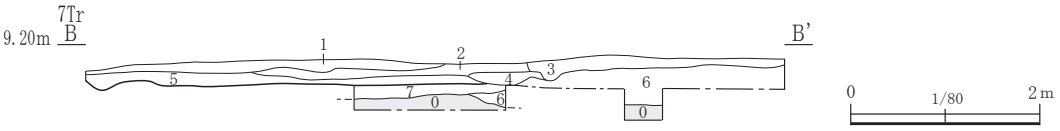
第６号性格不明遺構（SX －６）（第８・18・20・30図，第３・４・７表，写真図版５）

1B －１・３グリッドに所在する。西側が調査区外に延び，南側は整地によって削平されていた。また，調査区内の部分も上部が失われていた。したがって，本来の規模・形状は明確にし難いが，現存の南北長173㎝，同東西長113㎝の不整円形と推察される。深さ約25㎝で底面は中央に向かって緩やかに凹む。調査区外周壁西面での土層断面から，本来の南北長230㎝以上，深さ約65㎝で北壁は大きく外傾する。覆土は８層に分層され，人為的埋没と考えられる。

遺物は，覆土下層より土師質土器内耳土鍋の体部小片（36）が１点出土した。また，本跡の底面下の第130・158層中より土師質土器カワラケ（33・34）が２点出土した。いずれも近世以前の所産と考えられ，36は15世紀後半～16世紀前半，33・34は16世紀中葉～第３四半期と思われる。



７Tr（東面）
1．浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1～30㎜）と灰黄褐色土（10YR4/2）R･B（1～30㎜）の混合土。締まり強い，粘性ややあり，小礫（3～20㎜）15％含む
2．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）8％，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1～40㎜）20％含む
3．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり強い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）15％含む。
4．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）8％，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R･B（1～20㎜）15％含む
5．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1～20㎜）･灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～20㎜）各10％含む
6．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1～15㎜）15％含む。（SD-6）
7．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）20％，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～20㎜）10％含む
8．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり･粘性ややあり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1～30㎜）･小礫（6～150㎜）各15％，CR･B（1～40㎜）2％含む。（SS-3）
9．黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R･B（1～20㎜）5％含む
10．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり･粘性ややあり，黒褐色土（10YR3/2）R･B（1～30㎜）5％，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1～20㎜）10％含む
11．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1～15㎜）20％，小礫（3～80㎜）5％含む
12．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～20㎜）10％含む
13．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1～5㎜）5％，灰黄褐色土（10YR4/3）R･B（1～30㎜）20％含む
14．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR7/4）R･B（1～20㎜）20％，小礫（3～80㎜）3％含む。（SX-5）
15．褐色土（7.5YR4/4）　締まり･粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1～20㎜）10％，明黄褐色土（10YR6/6）R（1～5㎜）5％，小礫（3～10㎜）2％含む。（SX-5）
16．暗青灰色土（5B4/1）　締まり･粘性あり，灰白色土（10Y8/2）R･B（1～130㎜）20％，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1～30㎜）･小礫（3～30㎜）各5％含む（遺物を多く包含する：SX-5）
17．黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1～15㎜）微量含む。（SX-5）
18．黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～20㎜）20％含む。（SX-5）
19．暗褐色土（10YR3/4）　締まり･粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1～20㎜）3％含む。（SX-5）　７Tr（東面）



７Tr（西面）
1．黒褐色土（10YR3/2）　締まり･粘性あり，浅黄橙色土（10YR8/4）R･B（1～20㎜）10％含む
2．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まりあり，粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～30㎜）30％，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）5％含む
3．淡黄色土（2.5Y8/4）　締まりあり，粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR6/2）R･B（1～40㎜）25％，橙色土（7.5YR6/6）R･B（1～20㎜）10％，小礫（3～180㎜）20％含む，大粒多い
4．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり･粘性あり，浅黄色土（2.5Y7/4）R（1～5㎜）3％含む
5．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり･粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）10％，浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1～15㎜）5％含む
6．暗褐色土（10YR3/4）　締まり･粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1～15㎜）10％，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～20㎜）5％含む
7．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり強い，粘性あり，明赤褐色土（5YR5/8）R･B（1～20㎜）15％，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1～15㎜）5％含む　７Tr（西面）

第26図　７トレンチ土層図

４．礎石及び礎石跡

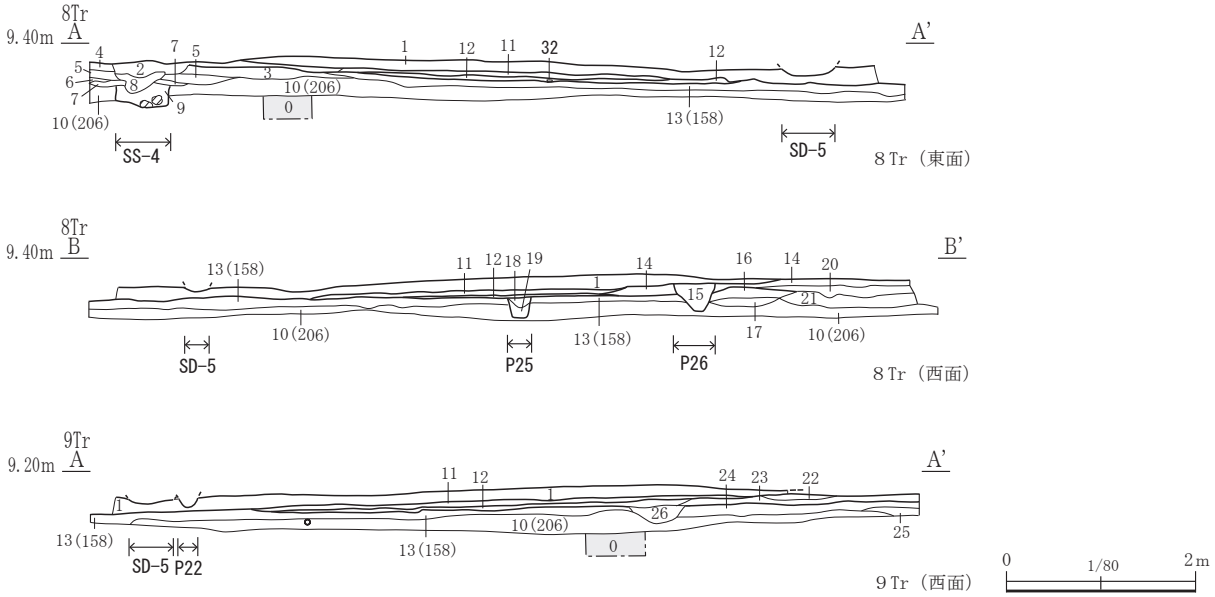
第１号礎石（SS －２（Ｐ３））（第18・21・25・30図，第３・４・７表，写真図版５）

1C －３グリッドに位置する。平面形・規模は，径約75×65㎝の楕円形で，深さ約40㎝。掘り込みの底面に径約35㎝，厚さ８㎝の扁平な石を据えた礎石で，西側に径約６～15㎝の礫が数点添えられており，根石の役割を果たしていたと考えられる。覆土は３層に分層され，上部に埋められた形跡（第３層）があり，第Ⅳ層に先行する遺構と考えられる。

遺物は，覆土に混入したと見られる須恵器坏の底部片（37）が出土したのみである。

第２号礎石跡（SS －３）（第18・22・26図，第４表，写真図版４・５）

1B －１グリッドに位置する。平面形・規模は，現存東西長約40㎝，南北長約40㎝で楕円形と推定される。全体の深さは約40㎝で２段に掘り込まれており，上部には径約６～15㎝の礫が10点程詰められていた。下部は径18㎝の円形で深さ14㎝，掘立柱式から礎石立



８Tr（東・西面），９Tr（西面）

1．浅黄色土（2.5Y7/4）R･B（1～30㎜）と灰黄褐色土（10YR4/2）R･B（1～30㎜）混合土，締まり強い，粘性ややあり，小礫（3～20㎜）15％含む
2．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）8％，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1～40㎜）20％含む
3．にぶい黄橙色土（10YR6/4）　締まり強い，粘性ややあり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～15㎜）15％含む
4．明黄褐色土（10YR6/6）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR4/3）R･B（1～30㎜）20％含む
5．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～3㎜）15％含む
6．明黄褐色土（10YR7/6）　締まり・粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R･B（1～20㎜）30％含む
7．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1～15㎜）20％含む
8．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/8）R･B（1～20㎜）・明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～20㎜）各15％含む
9．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性あり，赤褐色土（5YR4/8）R（1～5㎜）3％，灰白色土（10Y7/2）R（1～5㎜）微量含む。（SS-4）
10．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性ややあり，赤褐色土（5YR4/8）R（1～5㎜）3％，にぶい黄褐色土（10YR5/3）R･B（1～20㎜）20％含む。（206）
11．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR6/6）R（1～3㎜）15％含む
12．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり強い，粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）5％含む
13．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR4/2）R･B（1～20㎜）10％含む。（158）
14．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R（1～5㎜）10％含む
15．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）10％含む。（P26）
16．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，黄褐色土（10YR5/6）R･B（1～15㎜）20％含む
17．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり・粘性あり，灰白色土（10YR8/1）R（1～5㎜）3％含む
18．灰黄褐色土（10YR4/2）　締まり強い，粘性あり，にぶい黄褐色土（10YR5/4）R･B（1～15㎜）15％含む。（P25）
19．灰黄褐色土（10YR5/2）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）10％含む。（P25）
20．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり・粘性あり，明黄褐色土（10YR7/6）R･B（1～30㎜）30％，小礫（3～30㎜）15％含む
21．にぶい黄褐色土（10YR4/3）　締まりあり，粘性ややあり，暗褐色土（10YR3/4）R･B（1～20㎜）20％含む
22．褐灰色土（10YR4/1）　締まり強い，粘性ややあり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～30㎜）25％含む
23．褐灰色土（10YR4/1）　締まり・粘性あり，にぶい黄橙色土（10YR6/4）R･B（1～20㎜）10％，小礫（1～30㎜）5％含む
24．褐灰色土（10YR4/1）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～20㎜）25％含む
25．にぶい黄褐色土（10YR5/4）　締まり強い，粘性あり，灰黄褐色土（10YR5/2）R･B（1～15㎜）15％含む
26．にぶい黄褐色土（10YR5/3）　締まり・粘性あり，暗褐色土（10YR3/4）R･B（1～30㎜）20％，明黄褐色土（10YR7/6）R（1～5㎜）5％，小礫（3～80㎜）2％含む

第27図　８・９トレンチ土層図

に変更したかと思われる。

遺物の出土はなかった。

第３号礎石跡（SS －４）（第18・23・27図，第４表，写真図版５）

1B －２グリッドに所在する。平面形・規模は，径58×53㎝のほぼ円形。深さ26㎝で壁は直立する。掘り込み底面に径約15 ～ 25㎝の礫４点が並べられており，礫の下は硬く締まっていた。礎石の根石と推察される。掘り込み全体の深さは約40㎝で，当初は約20㎝，覆土は５層に分層され，上半部は第１・２層と第５・７層の２次にわたって埋め戻されていた。

遺物の出土はなかった。

第４号礎石跡（SS －５）（第18・24図，第４表，写真図版５）

1B －２グリッドに所在する。規模・形状は，約40×35㎝の楕円形。掘り込みは確認されなかったが，上記の範囲に径約４～ 10㎝の小礫が敷き詰められたような状態で確認された。これらの上端より８㎝程下は硬く締まっていた。礎石は認められなかったが，これも礎石の根石であった可能性が高い。

遺物の出土はなかった。

５．ピット類

第25・26・35号ピット（Ｐ25・26・35）（第８・18・27図，第６表，写真図版４・５）

該期のものと考えられるのは，2B －４グリッド，調査区外周壁北面の第35号ピット，1B －２グリッドの８トレンチで確認された第25・26号ピットの３基のみである。それぞれ掘り込まれた層位が異なることから同時併存ではない。いずれも，硬化した整地面を掘り込んで穿たれ，埋め戻されていた。何らかの施設の柱穴と推察されるが，詳細は明確にし難い。

遺物の出土はなかった。

第５節　出土遺物

１．概要

今次調査で出土した遺物は総数が130点と少なく，そのうち約３分の１は近・現代のもので，遺構より出土の例は非常に少なかった。さらに，遺構内出土であっても遺構の帰属時期を示すと思われる出土状態のものは極稀である。そこで，ここでは調査区内出土の遺物全体を，近世以降，近世，近世以前に大別して報告した。同一の遺構より出土の遺物であっても，時代及び種別毎に掲載した為，遺物の番号が連続していない。

２．近世以降（第28図，第３・７表）

この時期の遺物としては陶磁器，瓦質土器，銭貨，石製品がある。１は第５号性格不明遺構（SX －５）より出土の陶器鉢，型造りで銅板転写により絵付け，昭和前半，名古屋産。

２・３は磁器で，ともに高台内に生産者識別番号（統制番号）が記され，２は鋳込み，３は機械ロクロ製か。２は１・2B－Ⅰb 層，３は2C－３－Ⅰb 層出土。４は調査区－Ⅱa～b 層より出土の陶器徳利で，表に「豊崎酒店」，裏は「尓支店」と鉄絵具で記入。美濃高田・小名田産の通い徳利。なお，豊崎酒店は旧黒羽根町（現南町）に所在したことが，昭和６・13年の電話帳などで確認された。戦後の資料では確認できず，あるいは，空襲で廃業となったのであろうか。５は美濃産の陶器急須蓋で，１・2B－Ⅰ～Ⅱ層出土。６は在地産の瓦質土器カマド，焚口と通風孔を設け，内側に鍋・釜を受ける突起がある。第５号性格不明遺構（SX－５）出土。７は第５号性格不明遺構（SX－５）上部のⅠb 層より出土の菊十銭アルミ貨。被熱で背面が変形しており，空襲の火災によるものと考えられる。８・９は第１号井戸跡(SE－１)に使用されていた井戸側石である。神崎岩と呼ばれる凝灰質泥岩製で，市内の武家屋敷等で確認されるが（水野・新垣・関口　2018），６個で内径約90㎝の円形となる規格が合致する。この石材は近代初頭まで採掘されており（松平　1885），遺物による時期の特定はできなかったが，掘り込まれた土層から近代の所産と推定される。

３．近世（第29図，第３・７表）

この時期の遺物としては陶磁器，土師質土器（カワラケ），瓦，鉄製品を掲載した。陶器は鉢（10），壺（11），土瓶（12），埦（13・14）が見られる。10は大振りの鉢で鉄絵草花文が施されている。試掘１トレンチ－Ⅳ層上面より出土し，17世紀中葉～後葉と考えられる。14は灰釉の埦で，1C－３－Ⅲ層より出土，17世紀代。13の丸碗は口縁から底部まで遺存し，御深井釉，胴部に呉須で施文，1C－３－Ⅲa 層より出土，17世紀代。11は呂宋釉，印花文が施された壺で，試掘２トレンチより出土，19世紀後半。12は糸目土瓶の肩部の細片で外面のみ鉄釉を施す。試掘１トレンチ－Ⅳ層より出土，19世紀後半。11は瀬戸産，12が在地産と見られる他は，いずれも美濃産。磁器は染付段重（15）と染付皿（16）がある。ともに１・2B－Ⅰ～Ⅱ層より出土。16は山水文を施文，蛇の目凹型高台の皿で，内・外面被熱し，底部外面にガラス塊が溶着する。空襲の火災によるものと判断される。ともに肥前産で19世紀前半。土師質土器はカワラケ５点（17～21）を掲載した。17は大形のカワラケで，内・外面器面荒れる，2B－３－Ⅴ層より出土，17世紀前半。他はいずれも小形のカワラケの破片で，胎土に海綿骨針を含み，在地産。18は1B－４－Ⅲb 層，19は1B－４－Ⅴ層，20は1C－２－Ⅲa 層，21は1B－２－Ⅴ層より出土，17～18世紀と見られる。瓦は４点（22～25）掲載したが，22・23は第５号性格不明遺構（SX－５），24・25は１・2B－Ⅰ～Ⅱ層より出土。22の女瓦は凹面，凸面ともナデ仕上げがなされる。23・24の男瓦は凸面ナデ仕上げで凹面に筵状圧痕を認める。25は鐙瓦の瓦当部で，外縁の内側に２個の殊文が認められる。また，側面に笵痕が見られる。18～19世紀後半。26の鉄製品は第５号溝状遺構（SD－５）の覆土中より出土。刃器ではなく，断面形から釘でもないと思われ，器種不明。なお,図示していないが,七面製陶所産の陶器釜が１点出土したことを付記する。

４．近世以前（第30図，第３・７表）

この時期の遺物としては中世の陶磁器，土師質土器（カワラケ，内耳土鍋），古代の須恵器，土師器，縄文土器がある。27は同安窯系の磁器青磁盤で，劃花文鎬蓮弁文。1B－

３－Ⅴ層より出土，13 ～ 14世紀。28は古瀬戸の瓶子で釉垂れが見られる。2B －３－Ⅴ層より出土，15世紀後半～ 16世紀前半。29・30は古瀬戸の大鉢で，29は口辺の内・外面のみ施釉，30は無釉。29は1C －２－Ⅴ層，30は1B －２－Ⅴ層より出土，ともに15世紀中葉。31・32は常滑産の炻器甕類の胴部片で，外面に淡緑色の釉が見られ，32はその上に青色の釉垂れが認められる。31は1C －１－Ⅴ層，32は1B －４－Ⅴ層より出土。ともに15世紀後半～ 16世紀前半。33・34は土師質土器カワラケである。33は皿状で，口縁に煤の付着が顕著であり，灯明皿に転用されている。34は33に比べやや大振りで器高が高い。ともに，1B －３－Ⅴ層より出土，16世紀中葉～第３四半期。35・36は土師質土器内耳土鍋で，35は口縁部，36は胴部片，ともに外面に煤が付着。15世紀後半～ 16世紀前半。35は第４号溝状遺構（SD －４），36は第６号性格不明遺構（SX －６）より出土したが，遺構の帰属時期を示すとは言えない。37・38は須恵器で，37は坏，38は高台付坏の底部で，ともに胎土に海綿骨針を含み，木葉下窯跡群産。９世紀前半代。37は第１号礎石（SS －２），38は1C －２－Ⅲa 層より出土。37は遺構に伴うものではない。39は土師器で常総型甕の口縁部片，1・2B －Ⅰ～Ⅱ層中より出土，９世紀前半。40は縄文土器深鉢の細片で，縄文と刺突文を施文。1C －２－Ⅱ層より出土。縄文中～後期。

第３表　出土遺物観察表

近世以降　　（　　）推定値　［　　］現存値

番号	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎　土	色　　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　　考
1	陶器 鉢	13.5	〔5.6〕	—	精良	胎：灰白色(2.5Y8/1) 釉：透明	良好	型成形？，外面に銅板転写でウィローパターンを施文(コバルト)	SX5-1	名古屋産，20C 前葉
2	磁器 飯碗	10.8	8.8	3.8	精良	胎：灰白色(7.5Y8/1) 釉：透明	良好	鋳込み成形？，外面に多重圏線とゴム判絵付で芭蕉の葉文様を施文(コバルト)	1･2B-Ⅰb	高台内に統制番号「岐 65」・深山焼，美濃深山産，1940 ～ 1946
3	磁器 湯呑茶碗	8.8	4.8	3.8	精良	胎：灰白色(10Y8/1) 釉：透明	良好	機械ロクロ？，外面に二重圏線(クローム釉)	2C-3-Ⅰb	高台内に統制番号「岐 1075」，国民食器，美濃産，1940 ～ 1946
4	陶器 徳利	2.1	22.0	6.8	石英・長石	胎：明褐灰色(7.5YR7/1) 釉：明褐灰色(7.5YR7/1)	良好	ロクロ成形，灰釉掛けし，鉄絵具で表・裏に文字，底部無釉	調査区－Ⅱa ～ b	表「豊崎酒店」，裏「尓支店」，2 合半入，美濃高田・小名田産，20C 前半
5	陶器 急須蓋	6.9	2.1	—	精良	胎：灰白色(10YR8/1) 釉：灰色(10Y6/1)	良好	ロクロ成形，ツマミを付し，小孔を穿ち，甲全体に青磁釉掛け，内面無釉	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	美濃産，20C 前半
6	瓦質土器 カマド	(34.4)	〔11.5〕	—	白色粒・雲母	内・外：黒色(2.5Y2/1)，にぶい橙色(7.5YR6/4)	良好	輪積み，焚口・通風孔を設け，内面に突起を貼り付ける	SX5-5･8･20	在地産，19C 後半？，横くべ式

番号	種別 銭銘	外径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素　材	初鋳年	出土 位置	備　　考
7	銭貨 菊十銭	22.0	〔1.5～4.0〕	〔1.9〕	アルミニウム	1940 年	SX5-上	空襲の火災で背面が被熱し変形，鋳造年不明(1940 ～ 1943)

番号	種別 器種	長さ (cm)	高さ (cm)	幅 (cm)	重量 (kg)	材　質	色　　調	手法の特徴	出土位置	備　　考
8	石製品 井戸側石	55.5	15.0	9.0	5.55	凝灰質泥岩	内・外：黒褐色(2.5Y3/1) 地：灰白色(2.5Y8/2)	内面と小口は工具痕見られず，他の面は工具痕(幅 2.5 ～ 3.0cm)見られる	SE1-1	在地産，19C 後半，神崎岩
9	石製品 井戸側石	59.0	16.0	11.0	9.25	凝灰質泥岩	内・外：黒褐色(2.5Y3/1) 地：灰白色(2.5Y8/2)	内面と小口は工具痕見られず，他の面は工具痕(幅 2.5 ～ 3.0cm)見られる	SE1-2	在地産，19C 後半，神崎岩

近世　　（　　）推定値　［　　］現存値

番号	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎　土	色　　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　　考
10	陶器 鉄絵大鉢	—	—	—	粗砂粒	胎：浅黄橙色(10YR8/3) 釉：淡黄色(2.5Y8/3)	良好	ロクロ成形，鉄絵草花文を施文	試 1Tr-Ⅳ-1	美濃笠原産，17C 中～後葉
11	陶器 壺	—	〔6.3〕	—	長石	胎：灰白色(2.5Y8/1) 釉：オリーブ黄色(7.5Y6/3)	良好	ロクロ成形，内・外面呂宋釉施釉，印花文施文	試 2Tr-X	瀬戸産，19C 後半
12	陶器 糸目土瓶	—	〔1.3〕	—	微砂粒	胎：褐灰色(10YR5/1) 釉：外面のみ，褐色(7.5YR4/3)	良好	ロクロ成形，外面鉄釉，内面無釉	試 1Tr-Ⅳ-2	在地産，19C 後半
13	陶器 丸埦	9.4	5.7	4.5	精良	胎：浅黄色(2.5Y7/3) 釉：透明	良好	ロクロ成形，御深井釉，呉須で横一文字に施文，削り出し高台	1C-3-Ⅲa	美濃産，17C 代

近世

（　）推定値　［　］現存値

番号	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
14	陶器 埦	—	〔3.0〕	—	精良	胎：にぶい黄橙色 (10YR7/4) 釉：透明	良好	ロクロ成形，灰釉掛け，長い間土中にあった為か釉面荒れる	1C-3-Ⅲ	美濃産，17C 代
15	磁器 染付段重	(12.8)	〔4.1〕	(12.5)	精良	胎：灰白色(5Y8/1) 釉：透明	良好	ロクロ成形，体部外面に呉須で花文と区画文の中に細文を施文，口縁・高台部無釉	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	肥前産，19C 前半
16	磁器 染付皿	—	〔1.8〕	10.0	精良	胎：灰白色(2.5Y8/1) 釉：透明	良好	ロクロ成形，内面に呉須で山水文，高台に圏線，透明釉掛けし，蛇の目凹型高台	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	内・外面被熱で器面荒れ，底部外面ガラス溶着，肥前産，19C 前半，空襲による火災に伴うものか？
17	土師質土器 カワラケ	—	〔3.3〕	(6.8)	角閃石，長石， 海綿骨針	内：にぶい橙色(7.5YR7/3) 外：橙色(2.5YR6/8)	不良	ロクロ成形，底部糸切り？	2B-3-Ⅴ (№.8)	内・外面器面荒れる，在地産，17C 前半，大形カワラケ？
18	土師質土器 カワラケ	—	〔1.0〕	(5.4)	石英，海綿骨針	内・外：明赤褐色(5YR5/8)	良好	ロクロ成形，底部糸切り	1B-4-Ⅲb	在地産，17 ～ 18C ？
19	土師質土器 カワラケ	—	〔1.5〕	(4.2)	石英，海綿骨針	内：橙色(5YR6/8) 外：赤褐色(5YR4/8)	良好	ロクロ成形，底部糸切り	1B-4-Ⅴ (№.5)	在地産，17 ～ 18C ？
20	土師質土器 カワラケ	(6.9)	(2.1)	(2.9)	石英，海綿骨針	内・外：浅黄橙色 (7.5YR8/3)	良好	ロクロ成形，底部糸切り	1C-2-Ⅲa	在地産，17 ～ 18C ？
21	土師質土器 カワラケ	—	〔1.2〕	(3.1)	石英，海綿骨針	内・外：浅黄橙色 (10YR8/4)，橙色 (7.5YR6/8)	良好	ロクロ成形，底部糸切り？	1B-2-Ⅴ (№.2)	在地産，17 ～ 18C ？

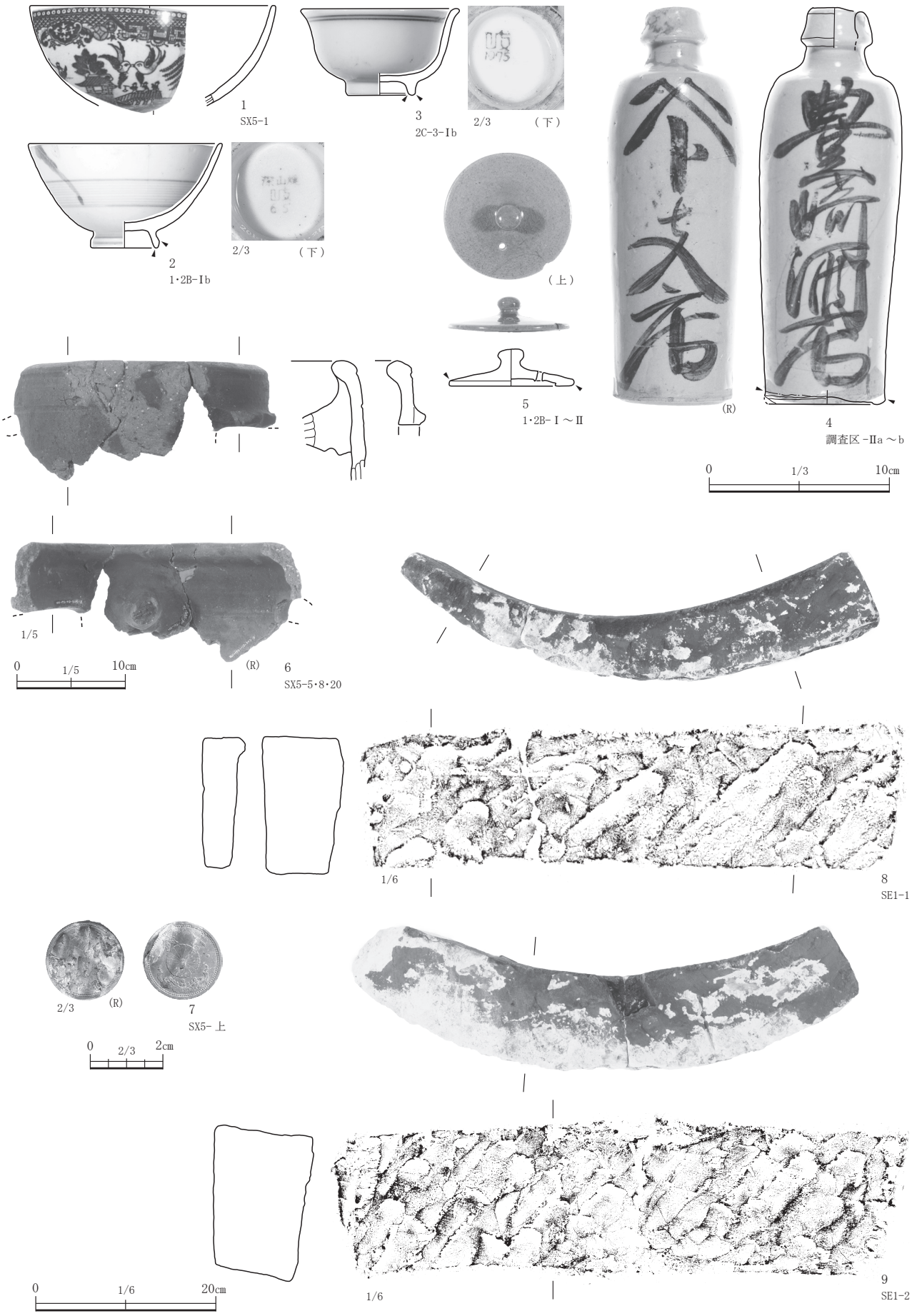
番号	種別 器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
22	瓦 女瓦	〔9.2〕	〔12.0〕	2.2	214.0	石英，長石， 黒色粒	凹凸：暗灰色(N3/0)，灰色 (N4/1)	良好	凹凸面縦ナデ	SX5-14	在地産？，18 ～ 19C 後半
23	瓦 男瓦	〔9.1〕	〔10.1〕	2.1	127.0	石英，長石， 黒色粒	凹凸：灰色(N4/0)	良好	凸面縦ナデ，凹面に筵状の圧痕	SX5-10	在地産？，18 ～ 19C 後半
24	瓦 男瓦	〔11.6〕	〔8.2〕	1.9	133.0	石英，長石， 黒色粒	凹凸：暗灰色(N3/0)，灰色 (N4/1)	良好	凸面縦ナデ，凹面に筵状の圧痕，玉縁一部のこる	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	在地産？，18 ～ 19C 後半
25	瓦 鐙瓦	〔5.7〕	—	2.9	39.0	石英，長石	凹：灰白色(10YR7/1) 凸：暗灰色(N3/0)	良好	粘土板型作り，巴文？	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	在地産？，18 ～ 19C 後半

番号	種別 器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	出土位置	備　考
26	鉄製品 不明	〔4.1〕	5.0	2.0	〔2.1〕	鉄	SD5-1(№.13)	—

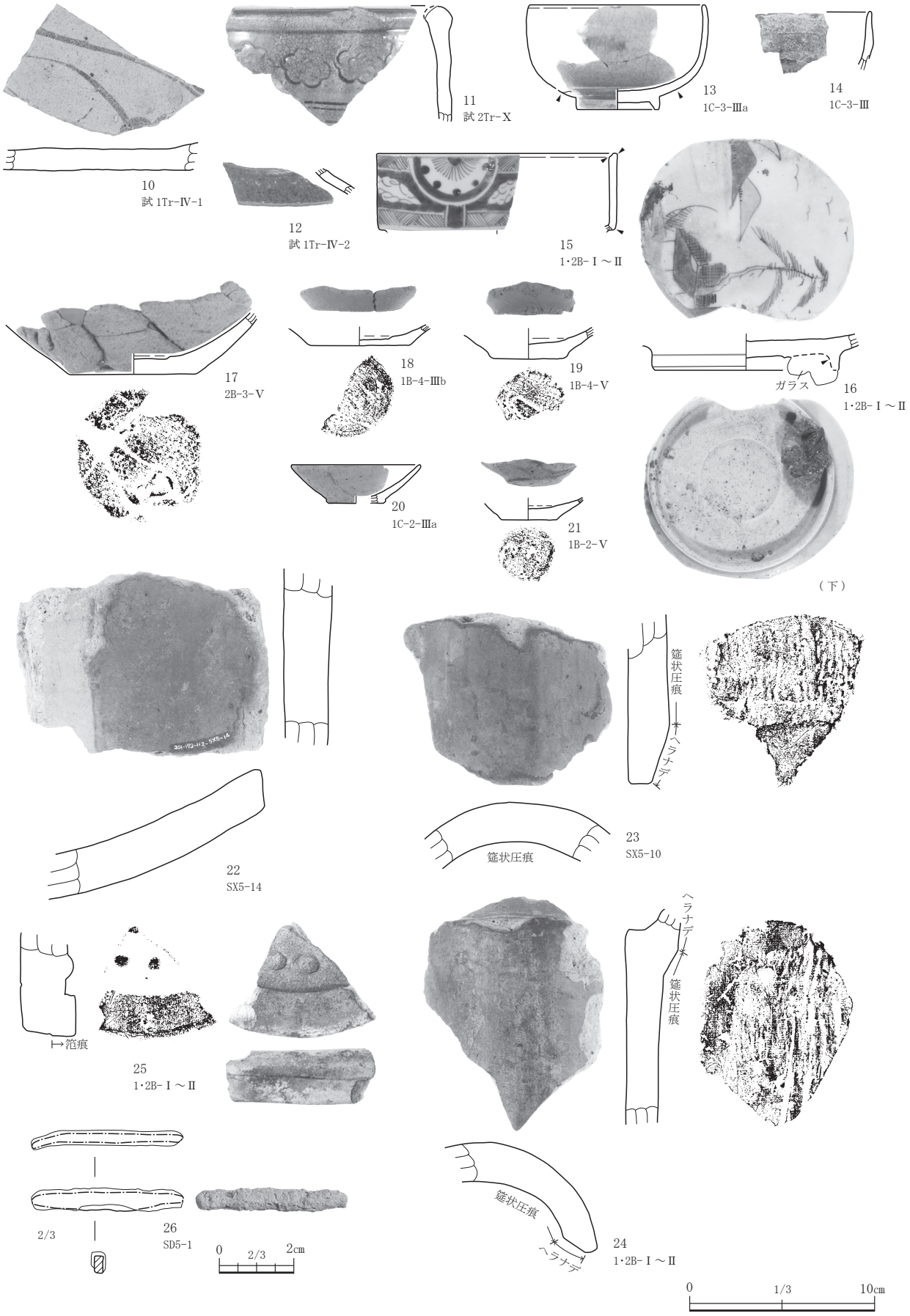
近世以前

（　）推定値　［　］現存値

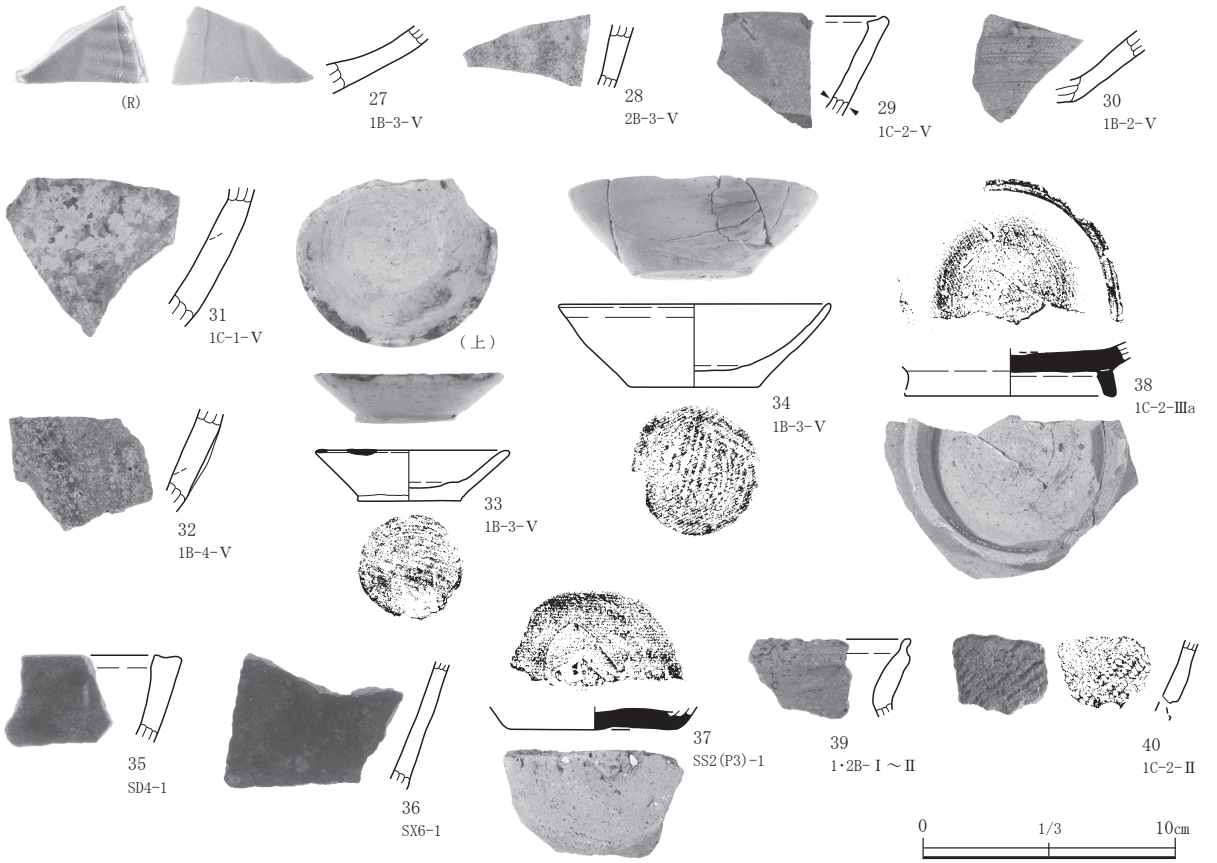
番号	種別 器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
27	磁器 青磁盤	—	〔2.8〕	—	精良	胎：灰白色(7.5Y7/1) 釉：オリーブ灰色(10Y6/2)	良好	ロクロ成形，劃花文鎬蓮弁文，内・外面青磁釉	1B-3-Ⅴ (№.12)	同安窯産，13 ～ 14C
28	陶器 瓶子	—	—	—	精良	胎：灰白色(10YR8/1) 釉：浅黄色(5Y7/3)	良好	輪積み後ロクロ整形，外面灰釉，淡緑色の釉垂れ	2B-3-Ⅴ (№.11)	瀬戸産，古瀬戸後期，15C 後半～ 16C 前半
29	陶器 大鉢	—	〔3.9〕	—	精良	胎：灰黄色(2.5Y7/2) 釉：にぶい黄橙色 (10YR7/2)	良好	ロクロ成形，口辺の内・外面のみに灰釉を施釉し，一部白濁	1C-2-Ⅴ (№.7)	瀬戸産，古瀬戸後期Ⅳ期，15C 中葉
30	陶器 大鉢	—	〔2.4〕	—	石英	胎：浅黄橙色(7.5YR8/3)	良好	ロクロ成形，体部下端と底部外面削り，内・外面無釉	1B-2-Ⅴ (№.4)	瀬戸産，古瀬戸後期？，15C 中葉
31	炻器 甕	—	—	—	長石，黒色粒	胎：灰白色(10YR8/1) 釉：内・灰褐色(7.5YR4/2) 外・オリーブ灰色 (10Y5/2)	良好	輪積み後ロクロ整形，外面灰釉，釉の剥離目立つ	1C-1-Ⅴ (№.6)	常滑産，15C 後半～ 16C 前半
32	炻器 甕	—	—	—	石英，長石	胎：灰白色(10YR8/1) 釉：内・灰オリーブ(5Y6/2) 外・青灰色(10BG5/1)	良好	輪積み後ロクロ整形，外面灰釉，青色の釉垂れ	1B-4-Ⅴ (№.14)	常滑産，15C 後半～ 16C 前半
33	土師質土器 カワラケ	7.7	2.0	4.2	石英，長石	内・外：浅黄橙色 (7.5YR8/3)	良好	ロクロ成形，底部糸切り後板目状圧痕，見込に指ナデ痕	1B-3-Ⅴ (№.9)	口縁に煤付着，灯明皿として使用，在地産，16C 中葉～第３四半期
34	土師質土器 カワラケ	10.7	3.3	5.1	石英，雲母，海綿骨針	内：褐灰色(10YR5/1) 外：灰白色(10YR8/1)	不良	ロクロ成形，底部糸切り後板目状圧痕	1B-3-Ⅴ (№.10)	焼成あまく，内・外面器面荒れる，在地産，16C 中葉～第３四半期
35	土師質土器 内耳土鍋	—	〔3.5〕	—	石英，長石，雲母	内：明赤褐色(5YR5/8) 外：黒色(10YR2/1)	不良	輪積み，口縁と内面横ナデ，外面粗いナデ	SD4-1 (№.3)	外面に煤付着，在地産，15C 後半～ 16C 前半
36	土師質土器 内耳土鍋	—	〔5.2〕	—	石英，長石，雲母	内：にぶい褐色(7.5YR5/3) 外：黒色(10YR2/1)	良好	輪積み，内面横ナデ，外面粗いナデ	SX6-1 (№.16)	外面に煤付着，在地産，15C 後半～ 16C 前半
37	須恵器 坏	—	〔0.9〕	(7.0)	石英，長石，粗砂粒， 海綿骨針	内・外：黄灰色(2.5Y6/1)	良好	ロクロ成形，底部ヘラ起こし	SS2(P3)-1	木葉下窯跡群産，9C 前半
38	須恵器 高台付坏	—	〔2.2〕	(8.4)	長石，黒色粒，海綿骨針	内・外：褐灰色(10YR6/1)	良好	ロクロ成形，底部ヘラ削り後付け高台	1C-2-Ⅲa	木葉下窯跡群産，9C 前半
39	土師器 甕	—	〔3.1〕	—	長石，粗砂粒	内・外：にぶい橙色 (7.5YR7/4)	良好	口縁部内・外面横ナデ仕上げ	1･2B-Ⅰ～Ⅱ	在地産，9C 前半
40	縄文土器 深鉢	—	〔2.5〕	—	石英，長石	内：橙色(7.5YR6/6) 外：にぶい橙色(7.5YR7/3)	良好	縄文施文，刺突文	1C-2-Ⅱ	在地産，縄文中～後期



第 28 図　出土遺物（１）近世以降



第 29 図　出土遺物（２）近世



第 30 図　出土遺物（３）近世以前

第４表　井戸跡，土坑，性格不明遺構，その他の遺構一覧表

単位 cm，［　］現存値

No.	位　置	平面形	外法×内法×深さ	備　　考
SE-1	1B-1・2B-3	円	114 × 94 ×［185］	西半部は調査区外，第 14 層を掘る，径 122 cmの掘方内に 4 ～ 6 cmの裏込めのみで井戸側の石材を積み上げる，「神崎岩」を使用

No.	位　置	平面形	長径×短径×深さ	備　　考
SK-3	1C-1 ～ 4	不整長方	［190］× 130 ～ 140 × 32	第Ⅳ層上面，長軸N -60°- W，土師器・須恵器細片各 1 点
SX-4a	1C-1・3	不整長方	210 × 120 ～ 160 × 16	第Ⅳ層上面，長軸N -15°- E，SD-1 に切られ SX-4b を切る，陶器，須恵器細片各 1 点
SX-4b	1C-3	不整円	115 ×［110］× 28	第Ⅳ層上面，SX-4a に切られる
SX-5	1B-1・2B-3	不整方形？	［235］×［127］×［42］	北半部は調査区外，第 6 層を掘る，土層断面から東西長 323 cm，深さ 200 cm，上面の第 2 層と深さ 140 cmの第 74 層より遺物多数
SX-6	1B-1・3	不整円？	［173］×［113］×［25］	西半部は調査区外，第 110 層を掘る，南は整地で切られる，土層断面から南北長 230 cm以上，深さ 65 cm，内耳土鍋小片 1 点
SS-1	1C-3	直線	長さ 132	第Ⅳ層上面，主軸N -15°- E，径 4 ～ 23 cmの礫が 13 点直線的に並ぶ，性格不明
SS-2 (P3)	1C-3	楕円	75 × 65 × 40	第Ⅳ層下面，掘り込み底面に一辺 35 cm程の扁平な石と径 6 ～ 15 cmの礫を据えた礎石，須恵器小片 1 点
SS-3	1B-1	楕円？	［40］× 40 × 40	第Ⅳ層下面，ピット内に径 6 ～ 15 cmの礫が 10 点程詰められる，底面に径 18 cmのピットがあり，掘立柱式から礎石立に変更？
SS-4	1B-2	円	58 × 53 × 26	第Ⅴ～Ⅵ層中，掘り込み内に径 15 ～ 25 cmの礫 4 点を並べた根石，上部は埋め戻される
SS-5	1B-2	楕円	40 × 35 × 8	第Ⅴ～Ⅵ層中，掘り込みは確認出来なかったが，径 4 ～ 10 cmの小振りな礫が 28 点まとまって認められ，根石？
SS-6 (P8)	1C-1	楕円	40 × 32 × 20	第Ⅳ層上面，開口部中央に径 13 × 20 cmの礫，ピット内にも径 10 cm程の小礫数点，掘立柱式から礎石立に変更？

第５表　溝状遺構一覧表

単位 cm, [　　]現存値

No.	位　置	主　軸	長さ×幅×深さ	備　　考
SD-1	1C-1	N -80°- W	172 × 25 ～ 40 × 8	第Ⅳ層上面，SX-4a を切る，カワラケ細片 2 点
SD-3	1C-1･2	N -75° 30”- W	[290] × 30 ～ 42 × 11	第Ⅳ層上面，土師器細片 1 点
SD-4	1C-3	N -15°- E	[117] × 20 ～ 50 × 5 ～ 13	南は調査区外，第Ⅳ層上面，東に接して，長さ約 240 cm，幅 23 cm，高さ 5 cm程の凸帯が所在，内耳土鍋細片 1 点
SD-5	1B-3･4	N -75°- W	[510] × 45 ～ 51 × 5 ～ 8	東は調査区外，第Ⅳ層上面，鉄片 1 点
SD-6	1B-1･3	N -15°- E	[190] × 47 ～ 50 × 5 ～ 8	北は調査区外か？，第Ⅴ層下層

第６表　ピット計測表

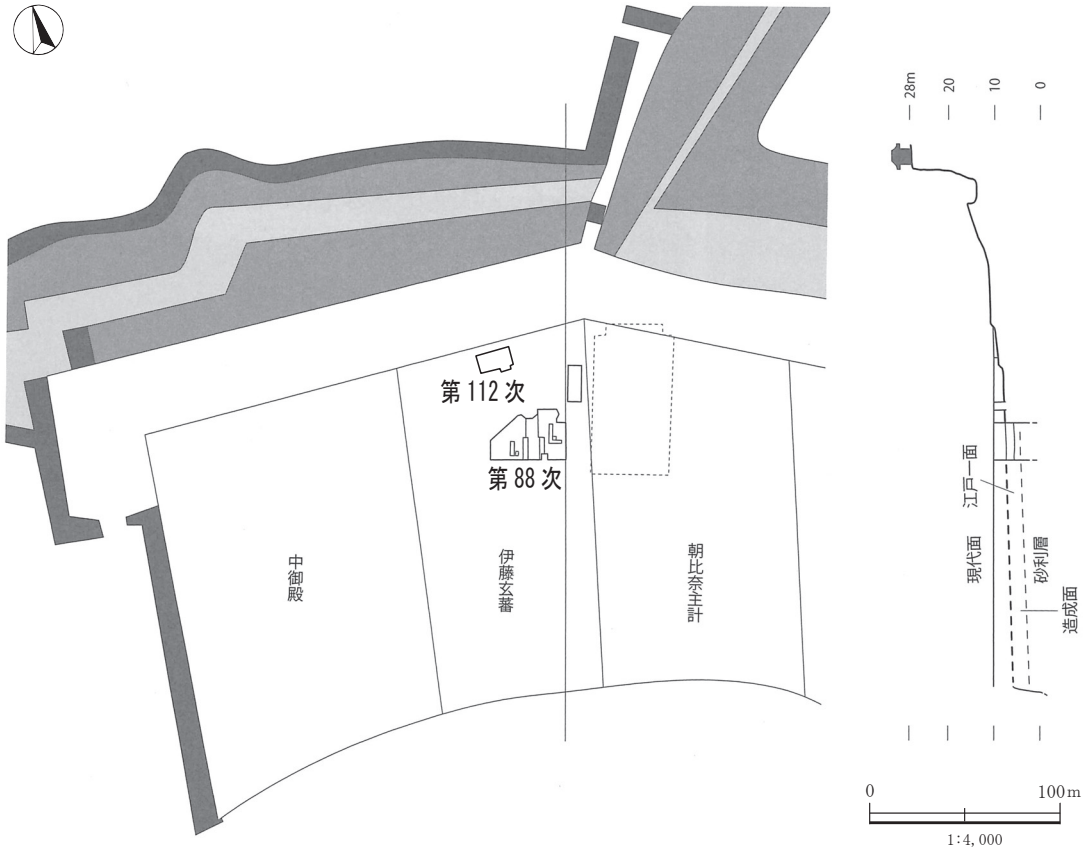
単位 cm, [　　]現存値　(　　)推定値

No.	位　置	形状	長径	短径	深さ	備　　考	No.	位　置	形状	長径	短径	深さ	備　　考
P1	1C-1	円	37.0	33.0	26.2	第Ⅳ層上面	P20	1B-2	円	30.0	29.0	27.2	第Ⅳ層上面
P2	1C-3	円	24.0	23.0	19.6	第Ⅳ層上面	P21	1B-2	円	25.0	23.0	15.5	第Ⅳ層上面
P3	欠	—	—	—	—	SS-2	P22	1B-4	円	28.0	26.0	10.3	第Ⅳ層上面
P4	1C-1, 1Tr	円	26.0	23.0	16.7	1Tr 第 3 層を掘る	P23	1B-2	円	43.0	34.0	27.5	第Ⅳ層上面
P5	1C-1, 1Tr	円	26.0	25.0	28.9	1Tr 第 3 層を掘る	P24	1B-4	円	24.0	21.0	11.4	第Ⅳ層上面
P6	1B-4	円	20.0	18.0	19.5	第Ⅳ層上面	P25	1B-2, 8Tr	円	25.0	(22.0)	25.0	8Tr 第 13 層を掘る
P7	1C-3	円	20.0	19.0	17.5	第Ⅳ層上面	P26	1B-2, 8Tr	円	(50.0)	36.0	34.0	8Tr 第 13 層を掘る
P8	欠	—	—	—	—	SS-6	P27	1B-4, 壁南面	円？	[47.0]	—	49.0	第 133 層を掘る，P28 を切る，CR･SR 微量混
P9	1C-1	不整方	33.0	[32.0]	8.0	第Ⅳ層上面，P10 に切られる	P28	1B-4, 壁南面	円？	[42.0]	—	113.0	第 152 層を掘る，P27 に切られる，先端細い
P10	1C-1	不整円	40.0	[38.0]	14.5	第Ⅳ層上面，P10 を切る。2 段になり底面に径 23 cm，深さ 8 cmの凹	P29	1B-4, 壁南面	円？	[37.0]	—	54.0	第 133 層を掘る，P30 を切る，CR･SR 微量混
P11	1C-1	円	31.0	30.0	12.8	第Ⅳ層上面	P30	1B-4, 壁南面	円？	[46.0]	—	131.0	第 150 層を掘る，P29 に切られる，先端細い
P12	1C-3	円	24.0	23.0	9.0	第Ⅳ層上面	P31	1B-4, 壁南面	楕円？	[42.0]	—	43.0	第 151 層を掘る，P32 に切られる
P13	1C-4, 壁東面	楕円？	[64.0]	—	57.0	第 15 層を切る	P32	1B-4, 壁南面	円？	[30.0]	—	32.0	第 146･148 層を掘る，P31 を切る
P14	1C-2, 壁東面	円？	[53.0]	—	29.0	第 14･15 層を切る	P33	1B-3, 壁南面	円？	[35.0]	—	52.0	第 141 層を掘る，P34 に切られる
P15	1C-2, 壁東面	円？	[28.0]	—	42.0	第 14 層を切る	P34	1B-3, 壁南面	円？	[40.0]	—	41.0	第 136 層を掘る，P33 を切る
P16	1C-2, 壁東面	円？	[30.0]	—	93.0	第 14 層を切る	P35	2B-4, 壁北面	円？	[25.0]	—	48.0	第 38 層を掘る，やや西に傾斜
P17	1C-2, 壁東面	円？	[21.0]	—	74.0	第 13 層を切る	P36	1B-3, 壁西面	円？	[30.0]	—	54.0	第 5･6 層を掘る，空襲後の層，CR･SR 混
P18	2C-4, 壁北面	円？	[39.0]	—	36.0	第 10 層を掘る，長さ 53 cm，径 8 cmの木杭遺存	P37	1B-3, 壁西面	円？	[53.0]	—	38.0	第 125･126 層を掘る
P19	2C-4, 壁北面	円？	[28.0]	—	35.0	第 10 層を掘る	P38	0C-1, 壁南面	円？	[16.0]	—	36.0	第 7 層を掘る

第７表　出土遺物一覧表

出土位置	出土遺物			縄文			古代			中世			近世			近・現代			総計
	種　別	器種等	産　地	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	
SE-1	石製品	井戸側石，神崎岩	在地産			0			0			0			0		2	2	2
SK-3	須恵器	坏	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
	土師器	坏	在地産			0	1		1			0			0			0	1
SD-1	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	2		2			0	2
SD-3	土師器	甕	在地産			0	1		1			0			0			0	1
SD-4	土師質土器	内耳土鍋	在地産			0			0	1		1			0			0	1
SD-5	鉄製品	不明	不明			0			0			0	1		1			0	1
SX-4a	陶器	不明	不明			0			0			0	1		1			0	1
	須恵器	坏	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
SX-5 下層	磁器	徳利，型紙刷絵	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	染付碗	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	土瓶，型造り	万古産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	擂鉢	益子産			0			0			0			0	2		2	2
	陶器	鉢，銅板転写	名古屋産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	鉢	瀬戸産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	土管	常滑産？			0			0			0			0	1		1	1
	瓦質土器	カマド	在地産			0			0			0			0	4		4	4
	瓦	男瓦	在地産？			0			0			0	3		3			0	3
	瓦	男瓦（隅切り）	在地産？			0			0			0	1		1			0	1
	瓦	女瓦	在地産？			0			0			0	10		10			0	10
SX-5 上層	炻器	甕	常滑産			0			0			0			0	1		1	1
	瓦質土器	混炉	在地産			0			0			0			0	1		1	1
	銭貨	菊十銭アルミ貨	不明			0			0			0			0		1	1	1
SX-6	土師質土器	内耳土鍋	在地産			0			0	1		1			0			0	1
SS-2(P3)	須恵器	坏	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
P36	磁器	湯呑茶碗	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
1B-2-Ⅴ	陶器	大鉢，古瀬戸後期？	瀬戸産			0			0	1		1			0			0	1
	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	1		1			0	1
1B-3-Ⅴ	磁器	青磁盤	同安窯産			0			0	1		1			0			0	1
	土師質土器	内耳土器	在地産			0			0	1		1			0			0	1
	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0		2	2			0			0	2
1B-4-Ⅴ	炻器	甕	常滑産			0			0	1		1			0			0	1
	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	1		1			0	1
	須恵器	鉢	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
1B-4-Ⅳ	須恵器	坏	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
	須恵器	甕	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
1B-4-Ⅲb	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	1		1			0	1
	須恵器	蓋	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
	土師器	不明	在地産			0	2		2			0			0			0	2
2B-3-Ⅴ	陶器	瓶子，古瀬戸後期	瀬戸産			0			0	1		1			0			0	1
	土師質土器	カワラケ大	在地産			0			0			0		1	1			0	1
1･2B-Ⅰb	磁器	飯碗，統制番号	美濃深山産			0			0			0			0		1	1	1
1･2B-Ⅰ～Ⅱ	磁器	染付皿	肥前産			0			0			0		1	1			0	1
	磁器	染付段重	肥前産			0			0			0	1		1			0	1
	磁器	染付碗	肥前有田産			0			0			0	1		1			0	1
	磁器	染付皿	肥前志田産			0			0			0	1		1			0	1
	磁器	急須蓋	瀬戸・美濃産			0			0			0			0		1	1	1
	磁器	染付鉢	肥前産			0			0			0	1		1			0	1
	陶器	釜	七面製陶所産			0			0			0	1		1			0	1
	陶器	急須蓋	美濃産			0			0			0			0		1	1	1
	陶器	ハサミ皿	美濃産			0			0			0	1		1			0	1
	陶器	埦？	不明			0			0			0			0	1		1	1
	土師器	甕	在地産			0	1		1			0			0			0	1
	ガラス	石蹴り遊具	不明			0			0			0			0		1	1	1
	ガラス	味の素 30g 瓶	不明			0			0			0			0		1	1	1
	ガラス	瓶	不明			0			0			0			0		1	1	1
	瓦	男瓦	在地産？			0			0			0	1		1			0	1
	瓦	鐙瓦	在地産？			0			0			0	1		1			0	1
1C-1-Ⅴ	炻器	甕	常滑産			0			0	1		1			0			0	1
1C-1-Ⅳ	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	2		2			0	2
	須恵器	甕	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
1C-2-Ⅴ	陶器	大鉢，古瀬戸後期Ⅳ期	瀬戸産			0			0	1		1			0			0	1
1C-2-Ⅳ	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	7		7			0	7
	土師質土器	内耳土鍋	在地産			0			0	1		1			0			0	1
	須恵器	蓋	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
	土師器	不明	在地産			0	1		1			0			0			0	1
1C-2-Ⅲa	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	1		1			0	1
	須恵器	高台付坏	木葉下窯跡群産			0	1		1			0			0			0	1
1C-2-Ⅱ	縄文土器	深鉢	在地産	1		1			0			0			0			0	1
1C-3-Ⅳ	土師器	甕	在地産			0	1		1			0			0			0	1
	土師器	壺	在地産			0	1		1			0			0			0	1
1C-3-Ⅲ	陶器	埦	美濃産			0			0			0	1		1			0	1
	土師質土器	カワラケ小	在地産			0			0			0	1		1			0	1

出土位置	出土遺物			縄文			古代			中世			近世			近・現代			総計
	種　別	器種等	産　地	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	破片	箇体	小計	
1C-3-Ⅲa	陶器	丸埦	美濃産			0			0			0		1	1			0	1
1C-3-K	ガラス	瓶	不明			0			0			0			0	1		1	1
1C-4-Ⅳ	須恵器	蓋	木葉下窯跡群産？			0	1		1			0			0			0	1
	須恵器	壺	木葉下窯跡群産？			0	1		1			0			0			0	1
1C-Ⅰ	磁器	飯碗	美濃産			0			0			0			0	2		2	2
	磁器	染付碗	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	碗	美濃産			0			0			0			0	2		2	2
	磁器	鉢	美濃産			0			0			0			0	2		2	2
	磁器	丼鉢	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	皿（ゴム判染付）	美濃産			0			0			0			0	2		2	2
	磁器	六角皿	瀬戸・美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	瓶	美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	粉合	肥前産			0			0			0			0	1		1	1
	磁器	合子蓋	会津本郷産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	小鉢	淡路産			0			0			0			0	1		1	1
	陶器	埦？	瀬戸・美濃産			0			0			0			0	1		1	1
	瓦質土器	七輪	在地産			0			0			0	1		1			0	1
2C-3-Ⅲ	土師質土器	内耳土鍋	在地産			0			0	1		1			0			0	1
	土師器	坏	在地産			0	1		1			0			0			0	1
	縄文土器	深鉢	在地産	1		1			0			0			0			0	1
2C-3-Ⅰb	磁器	湯呑茶碗・国民食器，統制番号	美濃産			0			0			0			0		1	1	1
	磁器	盃	美濃市之倉産			0			0			0			0		1	1	1
2C-4-Ⅰ	ガラス	化粧クリーム瓶，柳屋東京	不明			0			0			0			0		1	1	1
調査区－Ⅱa～b	陶器	徳利，二合半	美濃高田・小名田産			0			0			0			0		1	1	1
試 1Tr-Ⅳ	陶器	鉄絵大鉢	美濃笠原産			0			0			0	1		1			0	1
	陶器	糸目土瓶	在地産			0			0			0	1		1			0	1
試 2Tr-Ⅹ	陶器	壺，印花文	瀬戸産			0			0			0	1		1			0	1
総　　計				2	0	2	21	0	21	11	2	13	45	3	48	33	13	46	130



第 31 図　水戸城内における調査位置模式図

第４章　総括

第１節　土地利用の変遷の概略

１．概要

今次調査の対象の主眼は，近世水戸城の一部にあたる武家屋敷跡である。しかし，調査の進捗に伴い近世以降の遺構･遺物や縄文，古代，中世など近世以前の遺物が確認された。これらの資料をもとに当概地区の土地利用の変遷を概観する。

２．近世以降

確認された遺構は，井戸側石を積み上げた井戸跡（SE －１），近世・近代の遺物が混在して出土した性格不明遺構（SX －５）が各１基の他，調査区外周壁の土層断面に認められた18基のピットなどである。また，昭和20年８月の水戸大空襲に伴う焦土（第Ⅰb）層から空襲時の火災によって被熱した遺物が出土した。第１号井戸跡は神崎岩を加工した井戸側石を使用して構築されたもので，内径が94㎝の円形で，弧状に加工された６個の部材で円形になるよう設計されていた。これは，長さ２尺（約60㎝），幅・高さとも約15㎝の柱状の石材を使用し，内側は中央部を削り，外側は両端を削り込んで弧状に整形したと考えられる。第５号性格不明遺構は北側部分が調査区外に所在し，本来の規模・形状は明確にし難い。確認部分は本跡の下部にあたるが，現存南北長127㎝，同東西長231㎝，不整の方形もしくは長方形と推定され，全体の深さは約２ｍで，その中程のグライ化した粘質土層中より,木片や土器類,陶磁器,瓦などが出土した。瓦類（22･23）は近世,瓦質土器（６）と陶器（１）は近代と考えられる。上面は第Ⅰb層とした空襲に伴う焦土層に覆われていた。したがって,昭和20（1945）年８月以前に埋め戻されたと判断されるが,出土の陶器鉢（１）の時期から昭和時代前葉以降に埋め戻されたと考えられる。

なお，該期の遺物として，磁器の飯碗（２）・湯呑茶碗（３）がある。ともに高台内に生産者識別番号（統制番号）が記され,３は外面に緑色の圏線が廻る所謂国民食器である。また，昭和15（1940）年～同18（1943）年に発行された菊十銭アルミ貨（７）は，空襲に伴う火災によって被熱したと思われ，背面が変形していた。鋳造年は不明。さらに，19世紀前半の磁器染付皿（16）は，被熱で内・外面が変質するとともに底部外面にガラスが溶着し，これも空襲の影響と考えられる。19世紀後葉～ 20世紀前葉における土地利用の状況は明確にし難いが，Ⅱa・Ⅱb層とした，砂質土や礫混じりの土，粘質土などによる厚さ50㎝程の整地が確認された。調査区外周壁の土層断面に多数のピットが認められたが，事前の表土除去作業の関係もあり詳細は明確にし難い。陶器徳利（４）や瓦質土器カマド（６）は該期の遺物である。

３．近世

初代水戸藩主となった徳川頼房が水戸城及び城下の大規模な整備を行ったのは，寛永２（1625）年から同14（1637）年にかけてであり，当該地区はこの時期に造成されたと考えられる。正保年間（1644 ～ 47）に作成された「常陸国水戸城絵図」（国立公文書館内閣文

庫蔵）には，「侍屋敷」と記され，整備された状況が描かれている。

この時期には水戸城の一角を占める，上級家臣の拝領屋敷が並ぶ地域であった。また，慶安４（1651）年～明暦元（1655）年頃の「水戸城下絵図」（水戸市立博物館蔵）では，当該地区は，伊藤玄蕃邸で東隣は家老を務める朝比奈主計邸，西隣は二代藩主光圀が誕生した三木仁兵衛邸（後に中御殿となる）である。今次調査地点は伊藤玄蕃邸の北端にあたり，旧本丸や二の丸曲輪の南裾に設けられた堀に沿って延びる道路と接する付近に位置する。この為，試掘確認調査において確認された硬化面が，広範囲な広がりが推測されることから，道路跡もしくは屋敷地の土間状遺構，相方の可能性が想定された。調査の結果，硬化面は調査区の全体を占めるものではなく，一定の範囲で反復して造成・整地が行われた結果と判明した。また，硬化面に付随して，土坑（SK －３），溝状遺構（SD －１・３～６），性格不明遺構（SX －4a・4b・６），配石遺構（SS －１），礎石（SS －２（Ｐ３））や礎石跡（SS －３～６），ピット（Ｐ１・２・４～７・９～12・20～26・35）などが確認され，道路跡ではなく，屋敷地であると判断された。なお，礎石やピットなどから構造物としての規模・形状を想定することはできなかったが，道路に面するという立地条件から門や長屋門などが推察される。また，該期の遺物は17世紀前半～19世紀後半にわたる陶磁器（10～16），カワラケ（17～21），瓦（22～25），鉄製品（26）を掲載したが，未掲載のものを含めた総数は48点で，瓦16点，カワラケ17点の他は非常に少ない。したがって，日常生活の場から離れた空間であったと推測される。

４．近世以前

前述の通り，帰属する遺構は確認されず，出土量も少ないが，縄文時代，古代，中世の遺物が出土した。台地上の二の丸曲輪の調査では，縄文時代及び弥生時代のピットや遺物，古墳時代や奈良・平安時代の竪穴建物跡も確認されている。また，室町時代から戦国時代の礎石建物跡や溝（堀）跡などの多数の遺構や遺物が確認されており，活発な活動が知られる。水戸城の蒿矢は，平安時代末～鎌倉時代初頭の常陸平氏の惣領大掾氏一族の馬場資幹による馬場館の構築とされる。応永33（1426）年，江戸通房が水戸城を奪取し，以後約160年にわたり水戸城を拠点とした。馬場館の当時は旧本丸部分を中心としたものであったが，江戸氏は二の丸部分を大規模に造成した。また，天正18（1590）年には佐竹氏が江戸氏に変わり水戸城主となり，水戸城及び城下の整備を行った。慶長７（1602）年佐竹氏は秋田へ転封となり，整備は道半ばであったが，二の丸と三の丸間の堀や大手門などは完成していたと推察される。

今次調査区は，台地裾部で第３図に示した通り，かつては旧千波湖の湖畔に近い位置にあたると推察されるが，13点の中世遺物の出土があった。遺物は，伝世が考慮される青磁盤（27）を除く国産陶器（28～30），炻器（31・32），内耳土鍋（35・36）は15世紀後半～16世紀前半，土器類のうちカワラケ２点（33・34）は16世紀中葉～第３四半期と考えられる。前者はいずれも径５㎝以下の小片であり，整地に際して土砂とともに近隣より持ち込まれたと思われる。しかし，後者は完形もしくは略完形で，脆弱なカワラケが完形の状態で土砂とともに持ち込まれたとは考え難く，調査区内もしくは至近での使用が推察される。とすれば，江戸氏の在城時期に相当し，この時期の台地裾部における活動の痕跡と

考えられる。調査地の北約60ｍ付近には二の丸曲輪に通じる道に設けられた坂下門があった。この道は二の丸を横切り，北側の杉山門に至るもので，江戸氏の時期もしくはそれ以前より使用されていた古道と推定されることから（関口　2016），当該地付近は防御上重要な位置を占めていたと考えられる。

古代の遺物は須恵器，土師器の計３点（37 ～ 39）を掲載したが，他の18点の須恵器，土師器はいずれも小片であり，造成に際して土砂とともに持ち込まれたものと考えられる。しかし，小面積ながら計21点の遺物が出土したことから，台地上ではなく台地裾の近隣にも集落跡の存在が推測される。また，縄文土器は２点出土し，そのうちの１点（40）を掲載したがこれらも小片であり，他より持ち込まれたと思われる。

第２節　伊藤玄蕃邸北端部の調査

１．概要

前述の通り，今次調査は上級家臣の屋敷地，伊藤玄蕃邸を対象としたものである。伊藤玄蕃邸では，第31図に示したように第88次調査として中央東寄りの地点において約1,160㎡という比較的広範囲にわたって発掘調査が行われ，その成果が既に公刊されている（河野・新垣　2021）。ここでは，近・現代から近世初頭にわたる多数の遺構・遺物が調査されている。これに反し，今次調査区では，調査区が第88次調査よりも狭く，伊藤玄蕃邸に展開した土地利用の全体像の解明にまでは至らなかったが，その過程で得られた断片的な知見を略記する。

２．水戸藩士伊藤玄蕃家

伊藤家は『水府系纂』（公益財団法人徳川ミュージアム所蔵）によれば，伊藤玄蕃友玄を初代とする。友玄は徳川家康の命により，慶長８（1603）年家康の11男鶴千代（後の頼房）に仕える。慶長14（1609）年に頼房は水戸に250,000石で封じられ，友玄は水戸藩家臣となる。元和元（1615）年小姓頭となり，寛永14（1637）年，水戸藩大老となり，禄高2,100石，与力の禄，同心の給を合わせ3,000石の大身となる。寛永17（1640）年には世子光圀の傅役を兼ねる。同家は二代目の三男友次が2,100石，３代目友嵩が1,000石となり，４代目友益が1,100石となって以降1,100石のまま大番頭を務めた10代目の久内友和まで拝領屋敷の変更もなく同地に住した。また，２代目玄蕃友次は友玄の三男で一旦母方の三木之次の養子として伊藤家を離れたが，父友玄の死後，藩主頼房の命により伊藤家に還り家督を継いでいる。友玄の家督を継ぐにあたっては，友次（之昌）を押す藩主頼房と，５男の友親を押す世子光圀との意見の相異があったものの，弟の友親が相続を固辞し藩主頼房の命に従った。なお，弟七内友親は後に仕官して，天和３（1683）年，書院番頭となり老中を兼ね，同年八月には200石を加増されて500石となる。この年，銀杏坂の地に屋敷を拝領した。翌天和（ママ）４（貞享元：1684）年大番頭，老中を兼ね，元禄６（1693）年水戸藩大老となり，300石を加増されて800石となる。また，翌７（1694）年には「伊藤七内の屋敷は狭く，御用も重なってきている」との理由で隣接する村上源五郎の上げ屋敷を添地として拝領していた。

当地の主である伊藤玄蕃家のみならず，分家にあたる伊藤七内（主殿）家についてふれたのは，伊藤七内家に伝来する文書史料の存在にある。同家の子孫伊藤友勝家所蔵の「天和三年　当屋敷請取帳　附元禄七年添地帳共」に関する笹目礼子氏による史料紹介に接する機会を得た（笹目　2009）。この史料は単に屋敷請取りの経緯を記録したものではなく，藩制期前葉における水戸の武家屋敷の実態が記録されていると言っても過言ではない。敷地面積，建物の数・規模・構造・材質から，樹木の種類・本数，庭石の数，塀や生垣の間数まで記される。また，今次調査の対象となった伊藤玄蕃家とは禄高に若干の差はあるものの，大番頭兼老中から大老と同格の地位にあり，1,000石もしくはそれ以上の重臣の屋敷地の状況を示している。なお，以下の記述は原典ではなく笹目氏の文献に拠るものであることを明記する。また，摘録したもので，誤記・理解不足はすべて筆者の責に帰す。

七内友親が最初に拝領した屋敷は1,930.39坪，添地として拝領分は753.13坪，合計2,683.52坪。建物は，表，曲がり家，中奥，数寄屋，台所，奥（曲がり家），湯殿各１棟，土蔵４棟，穴蔵１棟，材木蔵１棟，物置１棟，納屋１棟，長屋２棟など10数棟に及ぶ。多くは「石居」（いしおき：礎石に柱を据えたもの）であるが，「掘立」柱のものも混在する。長屋は２間×17間と２間×11間で，前者は長屋門を構成している。また，添地として拝領した禄高200石の村上源五郎屋敷では，腕木門の他，長屋，台所，母屋，家の４棟で，長屋と母屋は石居き，他は掘立柱である。屋根は双方とも「萱葺」もしくは「板葺」で瓦葺はない。

禄高の違いは敷地，建物数などにこれ程の違いを示している。

３．調査結果と文書史料に見る屋敷地

前述の通り，伊藤七内が拝領の屋敷は当初が約1,930坪，添地を合わせ約2,680坪である。伊藤玄蕃邸は文書資料がなく比較出来ないが，慶安４年～明暦元年頃の「水戸城下絵図」（同前）には屋敷地の各辺の間数が記されており，これによれば次の通りである。西隣りの三木仁兵衛邸（後の中御殿）が3,658.5坪，伊藤玄蕃邸が2,888.5坪，東隣りの朝比奈主計（右衛門）邸が1,350坪，その東の肥田半兵衛邸が1,700坪であった。彼らはいずれも慶長期に家康の命により頼房の家臣となった古参の重臣達で，前述の『水府系纂』では「慶長年中奉仕於伏見之輩」，「慶長十四年奉仕於駿府之輩」と記され，2,000 ～ 3,000石（２・３代目以降は1,000 ～ 1,500石）の禄を受けていた。しかし，どのような事情によるものかこのように屋敷地の規模に差が目立つ。

建物跡に関しては，第88次調査（同前，以下省略）で多数確認されているが，時期毎に棟方位の違いが著しく，一定の区画内での建物の配置について如何なる理由によるものか疑問である。なお，今次調査区では残念ながら建物跡として規模・形状を想定することは出来なかった。しかし，溝状遺構や配石遺構の主軸方位は概ねＮ－15°－Ｅか，これに直交するＮ－75°－Ｗ前後のものが主体であった。また，土層断面で確認された硬化面を伴う整地の状況を見ると，同様の規格に従っているように思われる（第４・18図塗り部分）。しかし，北に隣接する道路の方向や，第88次調査区の遺構群の方位とも合致せず，如何なる基準によるものかは判然としない。

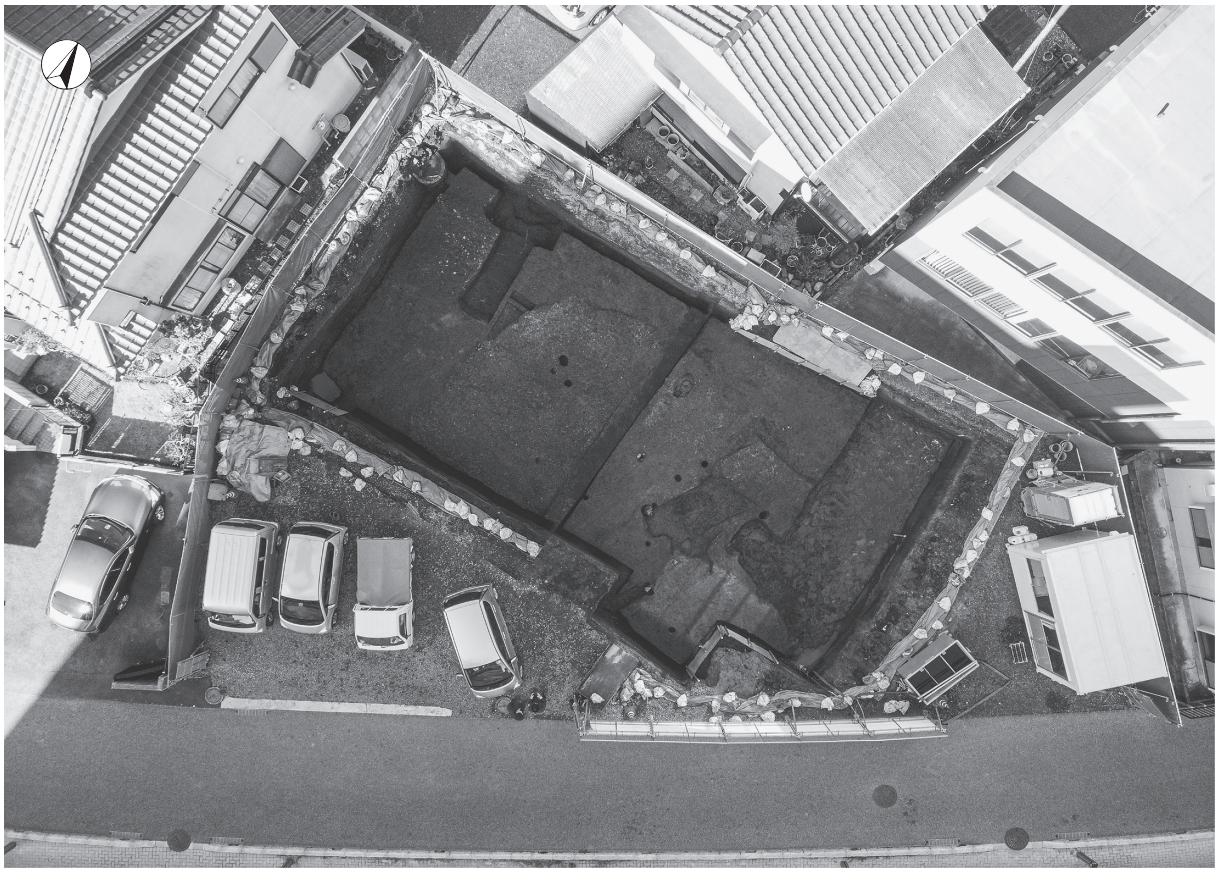
次に，前述の文書では，石居きと呼ばれる建物と掘立柱の建物が混在していたようであ

るが，今次調査区で，礎石及び礎石跡とピットが混在するあり方は理解し得る。また，掘立柱の柱掘形内に小礫を詰め込んだものが散見され，掘立柱から石居き型に変換したものと推察される。なお，第88次調査区では，同一建物で礎石と掘立柱の併用が確認されており，建築方法で時間差を見出すのは一概には難しいようである。筆者が経験した市内の武家屋敷の調査でも，掘立柱の掘形とともに，浅いピットに砂利が詰め込まれた一群があり，礎石の根石と推察された（水野・新垣・関口　2018）。

また，文書では，各建物の屋根は萱葺が主体で，若干板葺が見られる程度で瓦葺の記載はない。瓦葺の普及はまだ後のことと思われるが，今次調査や第88次調査で瓦が出土しているものの，量的には少なく全体が瓦葺の建物が存在したか否かは判然としない。しかし，隅切の男瓦や各種の特殊瓦の存在から，棟だけの甍葺ではなく全体が瓦葺の建物があった可能性は高い。

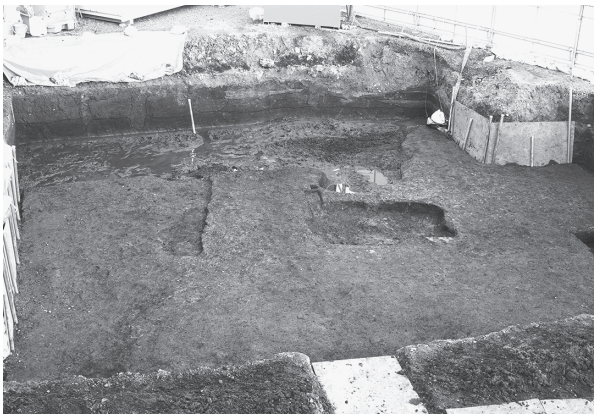
出土遺物については，再三述べた通り，総数130点のうち該期のものは計48点で，瓦とカワラケを除くと陶磁器13点，瓦質土器，鉄製品各１点と非常に少ない。したがって，日常生活の場から離れた空間と推察される。道路に隣接することから，長屋もしくは長屋門の可能性が想定される。長屋門は一般には多数の小部屋に仕切られて生活空間として利用される。前述の文書によれば，表，中奥，奥のいずれにも台所が設けられており，賄いは別の所で提供されたのであろうか。（水野）

写　真　図　版



A．調査区全景（垂直）

B．調査区東半部完掘全景（垂直）



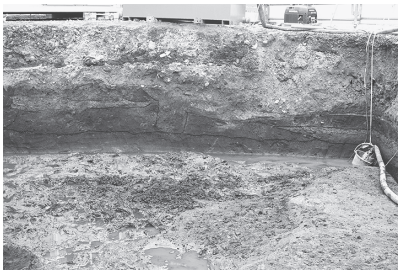
C．調査区東半部完掘全景（西から）

D．調査区西半部完掘全景（垂直）

E．調査区西半部下層調査状況全景（垂直）

写真図版２

Ａ．調査区外周壁東面北半土層（西から）


Ｂ．調査区外周壁東面南半土層（西から）

Ｃ．調査区外周壁東面南端土層（北西から）

Ｄ．調査区外周壁北面西半東寄り土層（南から）

Ｅ．調査区外周壁北面西半土層（南から）

Ｆ．調査区外周壁北面東端土層（南から）

Ｇ．調査区外周壁北面西端土層（南から）

Ｈ．調査区中央南北土層（東から）

Ｉ．調査区外周壁西面土層（東から）

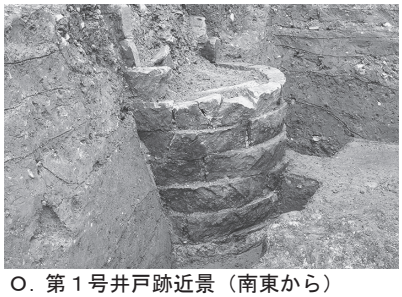
Ｊ．調査区外周壁南面東半土層（北から）

Ｋ．調査区外周壁南面東半中央土層（北から）

Ｌ．調査区外周壁南面西半土層（北から）

Ｍ．第１号井戸跡完掘（東から）

Ｎ．第１号井戸跡土層（東から）


Ｏ．第１号井戸跡近景（南東から）

Ｐ．第１号井戸跡石材加工痕（南東から）

Ｑ．第５号性格不明遺構完掘（南から）

Ｒ．第５号性格不明遺構東西土層（南から）

Ａ．第５号性格不明遺構南北土層（西から）

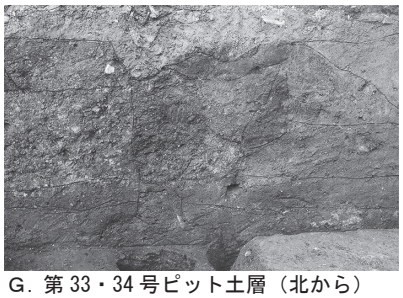
Ｂ．第５号性格不明遺構遺物出土状況（南西から）

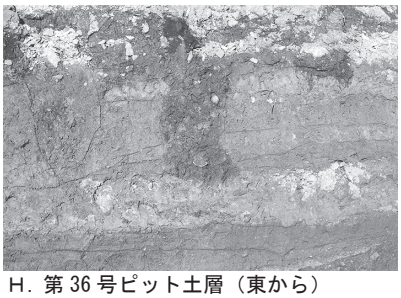
Ｃ．第５号性格不明遺構遺物（１）（南から）

Ｄ．第 27・28 号ピット土層（北から）

Ｅ．第 29・30 号ピット土層（北から）

Ｆ．第 31・32 号ピット土層（北から）


Ｇ．第 33・34 号ピット土層（北から）

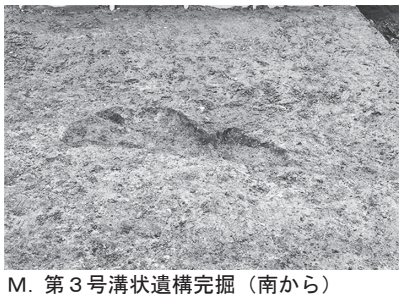

Ｈ．第 36 号ピット土層（東から）

Ｉ．第３号土坑完掘（南東から）

Ｊ．第３号土坑土層（東から）

Ｋ．第１号溝状遺構・第 4a 号性格不明遺構完掘（西から）

Ｌ．第１号溝状遺構・第 4a 号性格不明遺構土層（西から）


Ｍ．第３号溝状遺構完掘（南から）

Ｎ．第３号溝状遺構土層（南から）

Ｏ．第４号溝状遺構完掘（北から）

Ｐ．第５号溝状遺構完掘（東から）

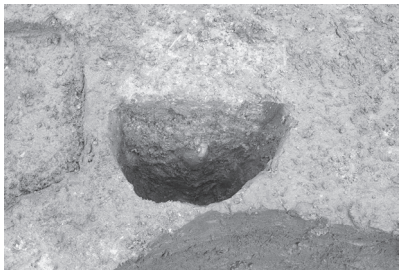
Ｑ．第１号配石遺構完掘（東から）

Ｒ．第１号配石遺構完掘・５Tr 深掘り状況（南から）

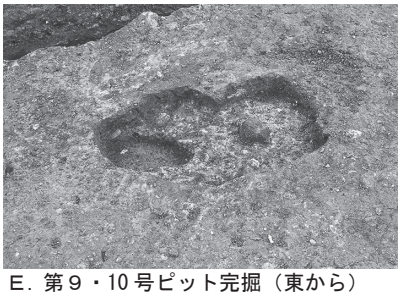
写真図版４

Ａ．第５号礎石跡（第８号ピット）完掘状況（北から）

Ｂ．第５号礎石跡（第８号ピット）半截状況（東から）

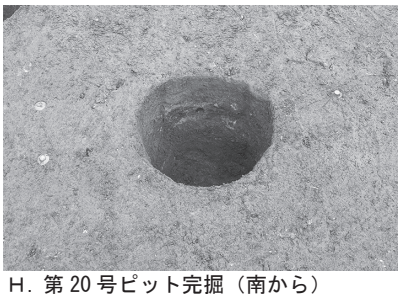

Ｃ．第１号ピット土層（南から）

Ｄ．第２号ピット土層（南から）

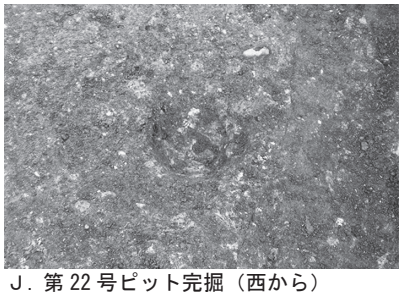

Ｅ．第９・10 号ピット完掘（東から）

Ｆ．第９・10 号ピット土層（東から）

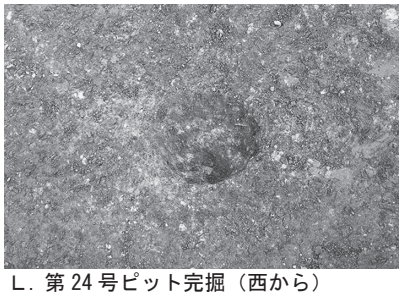
Ｇ．第 11 号ピット完掘（南西から）


Ｈ．第 20 号ピット完掘（南から）

Ｉ．第 21 号ピット完掘（南から）

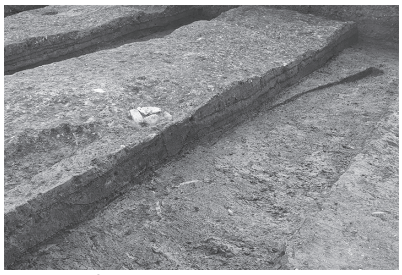

Ｊ．第 22 号ピット完掘（西から）

Ｋ．第 23 号ピット完掘（南から）


Ｌ．第 24 号ピット完掘（西から）

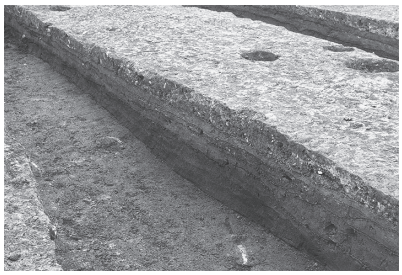
Ｍ．１Tr 東面北半土層（西から）

Ｎ．４Tr 北東面土層（南西から）

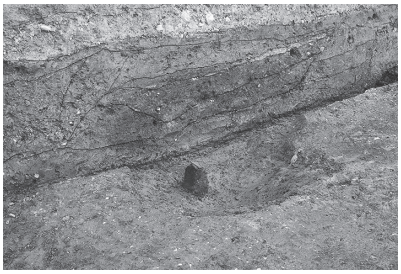

Ｏ．７Tr 東面土層（北西から）

Ｐ．８Tr 西面土層（北東から）

Ｑ．８Tr 東面土層（北西から）


Ｒ．９Tr 西面土層（北東から）

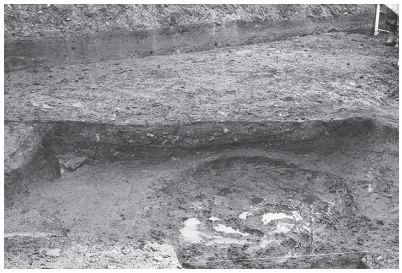
Ａ．第６号溝状遺構土層（西から）


Ｂ．第６号性格不明遺構完掘・土層（南東から）

Ｃ．第６号性格不明遺構遺物（36）（東から）

Ｄ．1B－３Gr 遺物出土状況（33・34）（東から）

Ｅ．第１号礎石（第３号ピット）完掘（東から）


Ｆ．2Tr・第１号礎石（第３号ピット）土層（東から）

Ｇ．第２号礎石跡検出状況（西から）

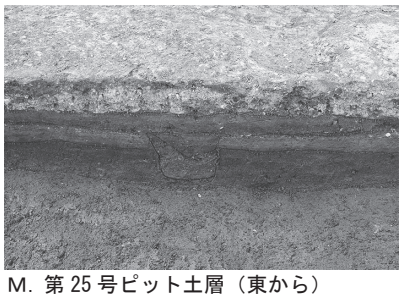
Ｈ．第２号礎石跡土層（西から）

Ｉ．第３号礎石跡完掘（西から）

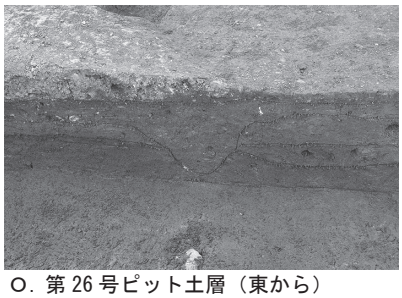
Ｊ．第３号礎石跡土層（西から）

Ｋ．第４号礎石跡完掘（西から）

Ｌ．第 25 号ピット完掘（東から）


Ｍ．第 25 号ピット土層（東から）

Ｎ．第 26 号ピット完掘（東から）


Ｏ．第 26 号ピット土層（東から）

Ｐ．第 35 号ピット土層（南から）

Ｑ．８Tr 遺物出土状況（32）（西から）

Ｒ．基本土層３（北から）

報告書抄録

ふりがな	みとじょうあと（だいひゃくじゅうにじ）		
書名	水戸城跡（第 112 次）		
副書名	－共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－		
シリーズ名	水戸市埋蔵文化財調査報告第 127 集		
編集者名	水野順敏・新垣清貴		
著者名	水野順敏・新垣清貴		
編集機関	株式会社日本窯業史研究所	所在地	〒 324 － 0611　栃木県那須郡那珂川町小砂 3112　☎ 0287-93-0711
発行機関	水戸市教育委員会	所在地	〒 310 － 8610　茨城県水戸市中央１－４－１　☎ 029-224-1111（代）
発行年月日	2022（令和４）年８月 31 日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
みとじょうあと 水戸城跡 （第 112 次）	いばらきけんみとしさんまるちょうめ 茨城県水戸市三の丸２丁目 21 － 48・49・50	08201	172	36° 37′ 13″	140° 48′ 04″	2021/12/02 ～ 2022/02/02	194.0	共同住宅建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水戸城跡 （第 112 次）	城館跡	近代	・井戸跡　１基 ・性格不明遺構　１基 ・ピット　18 基	・陶磁器，瓦質土器，銭貨，石製品	・絵図面では屋敷地と道路の接する付近であり，相方の観点から調査を進めた結果，硬化面上から種々の遺構が確認され，屋敷地であると判断された。
		近世	・土坑　１基 ・溝状遺構　５条 ・性格不明遺構　３基 ・配石遺構　１基 ・礎石，礎石跡　５基 ・ピット　18 基	・陶磁器，土師質土器カワラケ，瓦，鉄製品	
		中世	・―	・陶磁器，炻器，土師質土器カワラケ・内耳土鍋	
		古代	・―	・土師器，須恵器	
		縄文	・―	・縄文土器	

要約	・絵図面では当該地は水戸藩大老を務めた伊藤玄蕃の屋敷地の北端部で道路と接する位置にあたる。試掘確認調査で確認された硬化面は道路跡もしくは屋敷地内の土間等の可能性が想定されたが，調査の結果，土坑，溝状遺構，性格不明遺構，配石遺構，礎石，礎石跡，ピット等が確認され，道路跡ではなく屋敷地であろうとの結論に至った。また，整地層の下位から中世の遺物が出土し，江戸氏時代における活動の一端が推察された。

水戸市埋蔵文化財調査報告第127集

水戸城跡（第112次）

―共同住宅建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

印刷　令和４年８月31日
発行　令和４年８月31日
編集　株式会社日本窯業史研究所
発行　水戸市教育委員会
印刷　株式会社松井ピ・テ・オ・印刷
〒321-0904　栃木県宇都宮市陽東5-9-21

水戸城跡（第 112 次）正誤表

場所	誤	正
報告書抄録	36°　37′　13″ 140°　48′　04″	36°　22′　17.93″ 140°　28′　48.32″